

# Tokyo Dental College Alumni Association



東京歯科大学同窓会 **120** 周年記念事業

医はこれ濟生ひとへに仁なり

『伝統そして未来への飛躍』



東京歯科大学  
同窓会創立

**120** 周年記念

平成27年11月29日(日)



記念式典・講演会

11:00~13:15

東京歯科大学水道橋校舎新館「血脇記念ホール」



Big Band Jazz 部

LEGEND  
レジェンド

記念祝賀会

14:00~16:30

東京ドームホテル「天空」  
司会：宮崎宣子（フリーアナウンサー）

東京歯科大学同窓会

## 東京歯科大学同窓会会報 第400号

### 目 次

東京歯科大学同窓会創立120周年記念特集	1～46
巻頭言	47
お知らせ	48～49
TDC アカデミア	50～52
重点事業へのアプローチ	53～56
会 務	57～60
理事会のうごき	61～63
渉 外	64
事業推進部	65～68
母校だより	69～76
準会員のページ	77
支部のうごき	78～86
クラス会だより	87～88
OB会・グループ・サークルだより	89～90
すいどうばし	91～92
庶務日誌	93～96
逝去会員	96～97
追 悼	97
投稿規定	98
へんしゅうこうき	99

### 表紙写真の説明

- ・復興記念館の高山紀齋胸像  
(復興記念館の許可を得て撮影)
- ・当時と同じ場所にある野口英世の生家
- ・生誕の地、我孫子にある血脇先生謝恩之碑
- ・記念ゴルフ大会の霞ヶ関カンツリー倶楽部



# 東京歯科大学同窓会 創立120周年記念特集

- ・卒業アルバムから見た母校の変遷
- ・血脇先生の書 解釈
- ・創立120周年記念事業座談会
- ・岡山県支部より寄稿
- ・同窓会の歴史を訪ねて
- ・血脇イズムへの誘い
- ・「野口英世は死なず ～永遠のノーベル賞候補 最後の帰国から100年～」
- ・創立120周年記念事業案内

東京歯科大学同窓会 **120** 周年記念事業

医はこれ濟生ひとへに仁なり  
『伝統そして未来への飛躍』



東京歯科大学  
同窓会創立 **120** 周年記念

平成27年11月29日(日)

**記念式典・講演会**  
11:00~13:15  
東京歯科大学水道橋校舎新館「血脇記念ホール」

**記念祝賀会**  
14:00~16:30  
東京ドームホテル「天空」  
司会：宮崎薫子（フリーアナウンサー）

東京歯科大学同窓会

個人用

# 東京歯科大学同窓会創立120周年記念 式典・講演会・祝賀会(11月29日)

## 参加申込書

式典・講演会	出席	(○で囲んでください)
祝賀会	出席	

氏名： \_\_\_\_\_ 昭・平 年卒 ( \_\_\_\_\_ 支部)

連絡先FAX番号(必須)： ( \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_

住所：〒 \_\_\_\_\_

東京歯科大学同窓会事務局宛にFAXにてお申込みください。

### FAX番号 03-3264-4859

なお、参加費のお振込み確認をもって、お申込み受付とさせていただきます。  
確認後、FAXにてお知らせいたします。

《振込先》 三菱東京UFJ銀行  
神保町支店(店番：013) 普通口座：0713925  
《口座名》 東京歯科大学同窓会 会長 矢崎秀昭 120周年記念参加費受入口

※振込みは、氏名(フルネーム)をお願いいたします。(例：タカハシ トシタケ)

※振込み手数料はご自身でご負担願います。

会費：会 員	15,000円
新進会員(H23年～H27年卒)	10,000円

※なおファックスがない方は事務局より郵送またはお電話にてお知らせいたします。

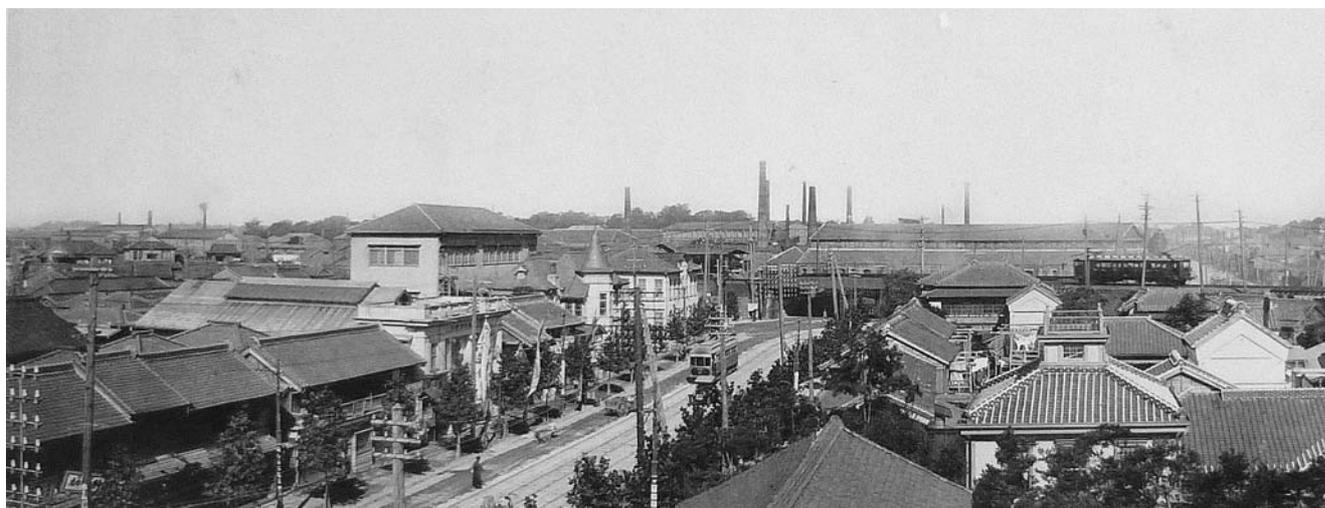
# 卒業アルバムから見た母校の変遷

## － 現在との比較 － その1

広報部委員 渡邊 宇一

母校図書館には明治41(1908)年以降の卒業アルバムが大切に保管されている。今回は大学のご厚意により、そのなかから貴重な写真をお借りして同地点の現在との比較を試みた(現在の写真はすべて筆者撮影)。

### 三崎町



上写真：大正4(1915)年(東四会)より

東京歯科医学専門学校時代の白亜の校舎が画面中央に見える。

背景に見える煙突群は陸軍の東京砲兵工廠で、現在の東京ドームシティ付近。その手前を走るのは甲武鉄道から国有化された中央本線で、水道橋駅は明治39(1906)年に開業した。当時の起点は日露戦争の英雄、広瀬中佐、杉野兵曹長の銅像が建つ萬世橋駅で、東京駅には繋がっていなかった。折しも単行の電車が水道橋駅に到着しようとしている。

白山通りを走るのは東京市電6系統で、巢鴨からきて三崎町や本郷方面を循環していた。

写真はかなり高い位置から撮影されているが、日本大学商科(現経済学部)の校舎を足場にしているのであろうか。戦勝ムードも一段落し、大正時代の落ち着いた雰囲気が伝わる。

左写真：現在は上写真の画面左下、二階建てのしもた屋風建物付近に新館が、画面中央に本館が建つ。

# 水道橋校舎





#### 前ページ上写真：明治44(1911)年より

明治23(1890)年、芝伊皿子に産声を上げた高山歯科医学院は東京歯科医学院と名を改め、明治34(1901)年、水道橋に新天地を求め移転。明治39(1906)年、現在地に新校舎を完成させた。

写真は翌明治40(1907)年、東京歯科医学専門学校に名称変更されてからのものであるが、後年見られる校舎前の植樹がされていないことから専門学校昇格後間もなくの撮影と思われる。左側に見えるモダンなとんがり屋根の部分は隣接する血脇歯科診療所。学校の正面玄関は画面右側で、何かの式典の折に撮影したのであろうか日の丸が掲出されている。現在のJR中央快速線の高架下付近。

白山通りはまだ舗装されていないようで、手前を横切る市電の線路部分だけが敷石のように見える。

#### 前ページ下写真：昭和36(1961)年（久喜会）より

昭和4年に落成したオランダ風タイル張りの校舎。

画面左側には数年前に完成した大学院新館が見える。

上写真と同一アングルだが、中央快速線の高架が視界の妨げになるため、本校舎のこのアングルでの撮影は珍しい。後年歩道橋やガードレールが設置され、撮影はますます困難を極めるようになった。

上写真：現在は建物も高く大きくなったため、同一アングルで本館、新館を含めた全景を撮影するには、ポイントをかなり後退させねばならず、上写真は水道橋交差点を渡った地点で撮影した。

右写真：前ページと同一地点、同一アングル。



## 上空から見た水道橋界限



写真：昭和7(1932)年(三辰会)より

校舎が真新しく見えることと、昭和7(1932)年に増設される中央急行線(快速線)の準備とおぼしき様子が見られることから、新校舎落成直後、昭和4～5年頃の撮影と思われる。

震災後間もないためか校舎周囲には平屋が多く、そのため校舎裏の不思議な六叉路の様子がよくわかる。水道橋交差点では折しも市電が行き交い、神田川には小舟が浮かび、のどかな雰囲気を感じさせる。

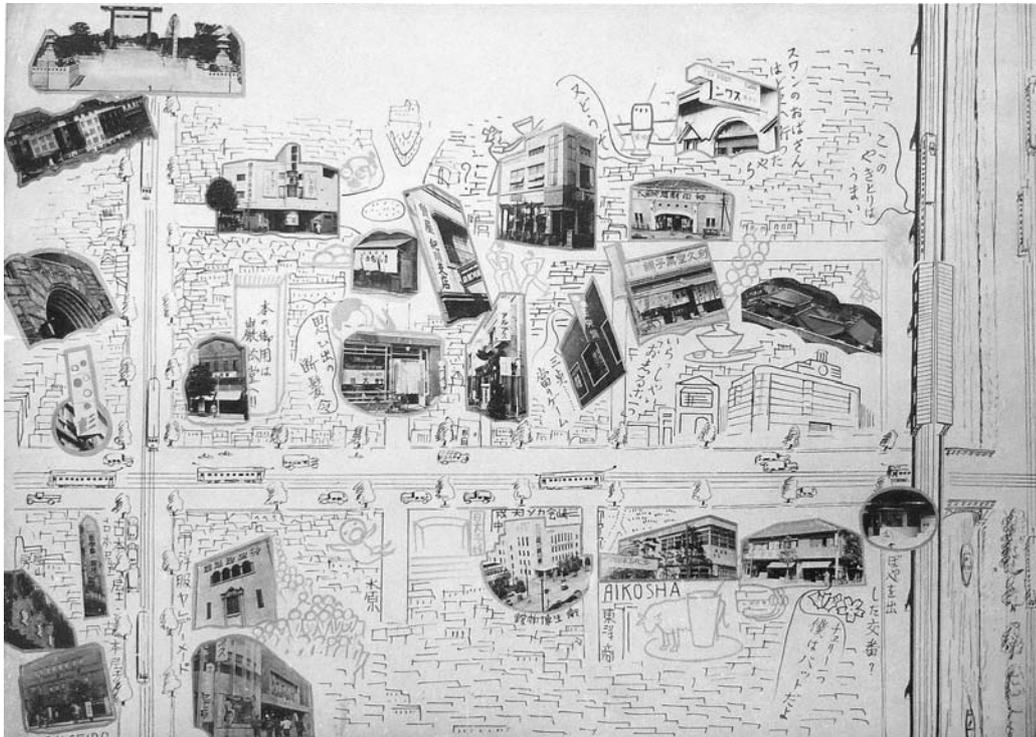


写真：昭和33(1958)年(六喜会)より

この年、校舎神保町寄りに大学院新館が完成した。高度成長時代の幕開けにふさわしく、大学周囲も高いビルが目立つようになった。またこの年は、読売ジャイアンツの長嶋茂雄が新人デビュー。後楽園球場に新しいスターが誕生した。

# 優れたイラストレーターが描いた水道橋界限

ここでは絵心のある大先輩たちが描いた水道橋マップをご覧ください。  
思い出の懐かしいお店が見つかることを祈る次第。



写真：昭和15(1940)年（仁蜂会）より



写真：昭和47(1972)年（七十七期会）より

## さいかち坂



左上写真：昭和15(1940)年（仁蜂会）より

お茶の水の高台から水道橋へおりるさいかち坂は、ちょうどこの付近で中央線と同じレベルになる。

街は紀元二千六百年祝賀ムードで盛り上がってはいたが、日本はこのあと戦時体制へと進んで行く。開戦前年のさいかち坂でのスナップ。

学生さんたちはそろって詰め襟の制服で、制帽にはTDCの徽章が輝く。画面左奥に水道橋校舎が見える。

70余年後、ここに新しい校舎が建つことなど、当時想像すらし得なかったであろう。

学生さんがもたれている手すりは、古レールを切断し、縦に突き刺して造ったものようだ。

ちなみに明治期にアメリカ、イギリス、ドイツから機関車とともに輸入されたレールは、使用後に駅の上屋の鉄骨支柱などに廃物利用された。今もJR水道橋駅の屋根を支える古レールはその代表的なもので、その由来と造形美で特に有名である(同窓会報399号参照)。

右上写真：現在さいかち坂には名の謂われの書かれた案内標が建つ（画面左下）。

左下写真：さいかち坂校舎は上写真の左後方に建つ。

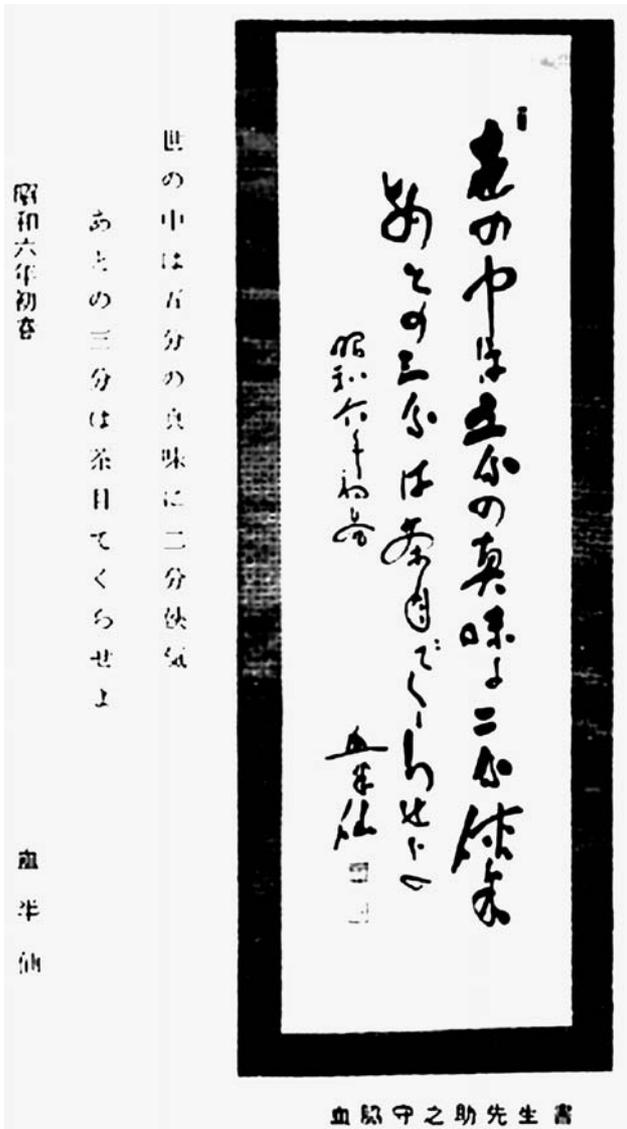
次号へ続く。

## 同窓会創立120周年記念特別企画 ～血脇守之助先生「書」のご紹介～

広報部・副委員長 福井 雅之

血脇守之助先生は数多くの書を残されました。古い卒業アルバムには毎年のように掲載され、縁のある方々には事あるごとに筆を取り、生徒、友人、子弟へ、また時代背景を添えてみると時には血脇先生本人の心境を反映するものとして読み取ることができそうです。

昭和54年発行の「血脇守之助傳」によると、我孫子の尋常小学校では成績優秀で高学年になると夜間は校長先生の自宅に通って漢字を習い様々な本を写筆、その見事な筆使いは「祖父は多くを学ばずして天性達筆であり、父も見事な筆蹟を残し、特に母も能筆家で、守之助の達筆は天性備わったものであったかもしれない」ということです。数々の書の中からその一部をご紹介します。



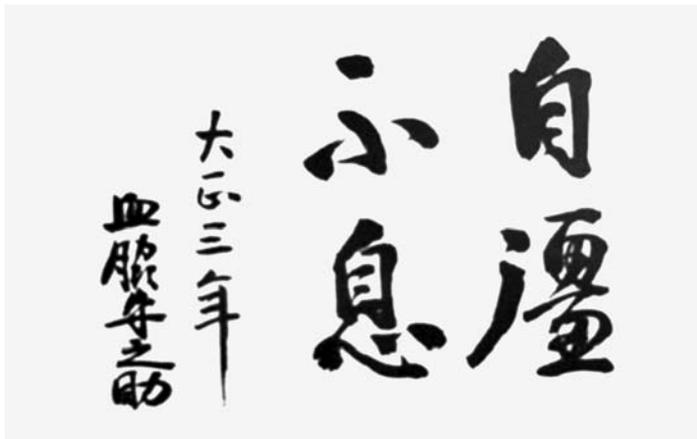
昭和6年初春（血脇守之助傳より）

「世の中は 五分の真味に二分俠気  
あとの三分は茶目でくらせよ」

血脇先生の有名な「書」の一つです。

この歌は明治32年（1899年）10月、ペストが発生した清国（中国）牛莊（ニューチャン）に赴くこととなった野口英世が出発の際、血脇先生のところに挨拶にきた英世の憐れな夏服姿を見て、部屋に敷いてあった赤毛布を与え「人生は、五分は真面目に取り組み、二分は男気を持って、あとの三分は無邪気に過ごさない」と歌を作り励ましたという。

後年、この歌を「書」に書いて幾つか残されているようで、もしかしたら「あの時野口英世に作った歌だよ。君も頑張りたまえ」などと言っては「書」にして渡したのではないかと想像されます。



大正3年（卒業アルバムより）

「自彊不息 じきょうふそく」

儒教の経典 易経から引用

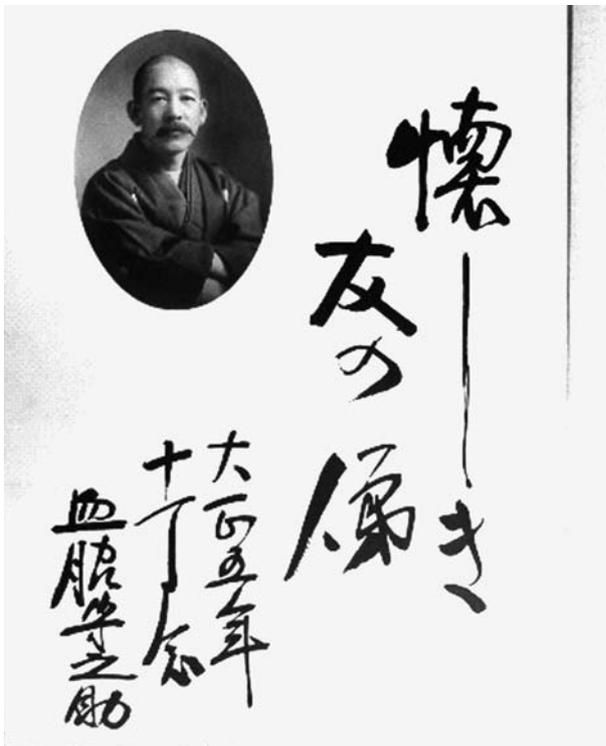
「天行健なり、

君子以て自彊して息（や）まず」

天の運行は健やかで、一刻もやすむことがない。君子もそれにのっとって、自ら努力することを休んでは（息は休息の息）いけない。

大正3年には 日本医学会歯科分科会長や日本医学会幹事に就任される。

大正4年10月 野口英世凱旋帰国 10月17日に英世は東京歯科医学専門学校卒業式で祝辞を述べる



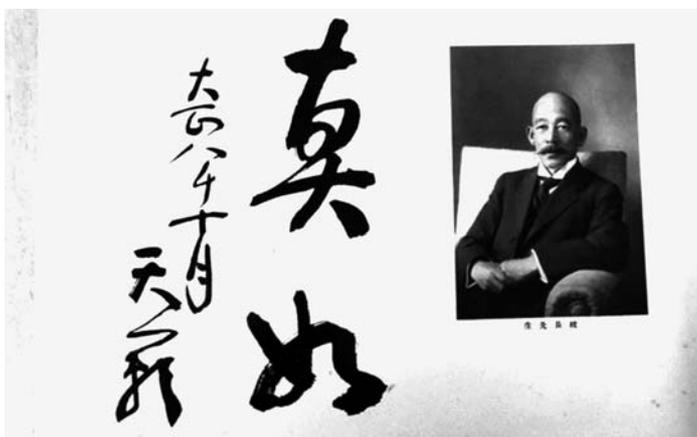
大正5年（卒業アルバムより）

「懐しき友の帰き

なつかしきとものおもかげ」

帰き：記憶によって心に思い浮かべる顔や姿

「医師二元論」で激しい議論を戦わせた盟友の川上元治郎が大正4年7月に逝去しているの  
で、川上元治郎を懐かしんで書かれた書であろうか。



大正8年10月（卒業アルバムより）

「真如 しんにょ」

仏教用語で 変わることのない万物の真性  
4月に日本連合歯科医師会会長に就任、10月には守之助個人の私有であった東京歯科医学専門学校  
の土地、資産を提供し財団法人を設立する大英断をする。



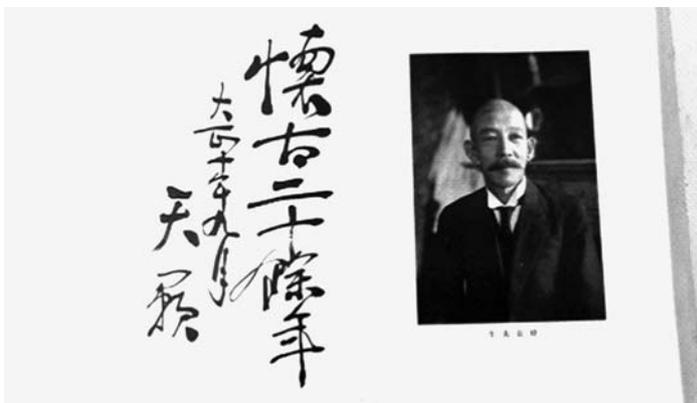
大正9年10月 (卒業アルバムより)

「赤心 せきしん」

嘘偽りのないありのままの心

私立東京歯科医学専門学校土地、資産を提供し財団法人を設立、その理事長になる

創立30周年(高山歯科医学院開校より)祝賀会開催される。



大正10年(1921年)(卒業アルバムより)

「懐古二十餘?年」

1900年2月1日に高山歯科医学院を継承し、東京歯科医学院を設立・開校して20年が過ぎ、20年を懐かしんだ書と思われる。

大正12年9月1日 関東大震災



昭和3年(卒業アルバムより)

「暁光泛海 ぎょうこうはんかい」

暁光：明け方東の空にさす光

泛海：海の上に被さるように浮く、広く海の全面をおおうさま

前年11月には校歌・校旗発表会があり、昭和3年1月には新校舎地鎮祭が行われた。

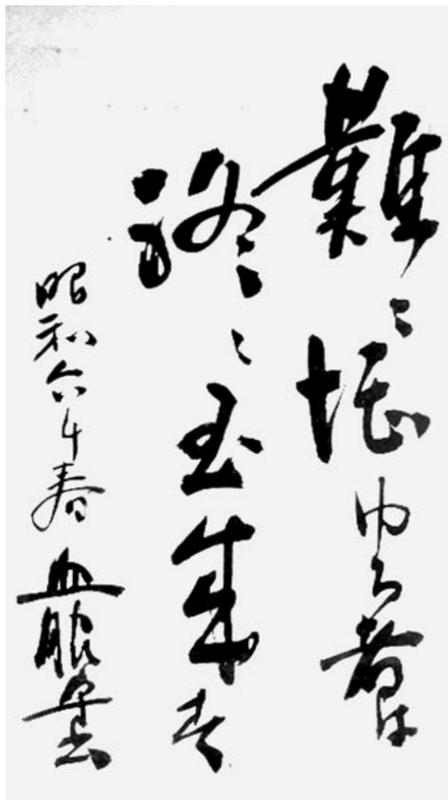


昭和4年（卒業アルバムより）

「前途洋々 ぜんとようよう」

今後の人生が大きく開けていて、希望に満ちあふれているさま。

昭和4年 新校舎落成の年



昭和6年春（卒業アルバムより）

「難に堪ゆる者は終に玉成す」

「なんにたゆるものはついにたまなす」

「艱難汝を玉なす かんなんなんじをたまなす」という諺をもとに血脇先生が自分で変えて書いたと思われる書。（達筆のため読み間違えているかもしれません）

「困難や苦労を堪えた者は、最後には立派な人間になる」という意味。

## 同窓会創立120周年記念事業 座談会

日 時：平成27年4月20日

場 所：水道橋校舎 南棟6階会議室A

### 出席者：

#### 120周年記念事業実行委員会

委員長 高橋 利武  
副委員長 岡野 昌治  
委員 大井 誠一  
委員 小林 顕  
委員 福田 謙一  
委員 諏訪 幸子

#### 同窓会役員

会長 矢崎 秀昭  
副会長 宮地 建夫  
副会長 浮地 文夫  
副会長 財部 正治  
専務理事 高橋 義一  
常任理事 白井 文規  
常任理事 小池 修

#### 広報部広報委員会

委員長 白田 準  
副委員長 福井 雅之  
副委員長 山口 雅史  
委員 西村 哲雄  
委員 横田 東生

#### 同窓会員

松浦 玄嗣

#### 講演会講師

吉澤 信夫

**矢崎会長** 本年11月29日の同窓会創立120周年記念会が、より意義のある会となるよう各種記念事業が企画され、実行されております。その一環として、幅広い年代の会員の方から、ご自分が感じてきた高山・血脇イズムに代表される、本学の伝統やその精神、さらにそのことが現在どの様なかたちで、ご自分の人生や、歯科医師としての生き方に影響しているか話し合っただけのために、本座談会が企画されました。

長年にわたり、日本の歯科界の中心として活躍してきた母校や同窓会が、如何にその役割を果たし

てきたかを検証することは、これからの同窓会の進むべき方向性を知る上でも誠に大切なこととなります。

会員の皆様におかれましても、ご自分自身の人生やその生き方に、自然と培われておられる母校の精神について、改めて考えて戴く機会となればと願っております。

**高橋委員長** 同窓会は明治28年6月16日高輪万清楼において院友会として発足しました。創立120周年を迎えるにあたって、実行委員会では高山・血脇スピリッツを次の時代に継承し、さらに新しい同

窓会づくりにむかうよう120周年記念事業を企画しました。その一つに記念誌のための編集委員会を立ち上げ、昨年よりおよそ月1回のペースで記念講演をお願いしている吉澤信夫先生を交えて伝統の部分を検証するべく会議を開いてまいりました。来年度に創立120周年記念誌を発行しますが、本年同窓会報6月号と10月号を特別号として企画しています。2回の特別号に「高山・血脇が期待した120年後の同窓会の姿」をテーマに特別編集会議を開催し、その模様をご紹介します。

**座長** 只今実行委員長がお話にな



矢崎会長



高橋実行委員長



小池常任理事

りましたように、メインテーマは「高山・血脇が期待した120年後の同窓会の姿」です。その基本ですが、まず「高山紀齋先生、血脇守之助先生への敬意」、そして「お二人のスピリッツの継承」を心におきながら、この6月号には歴史と伝統の部分、そして10月号にはこれからの同窓会のあるべき姿を中心にお話を伺う予定です。なお、本日の座長は広報担当の小池が務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

## 第一部 「東歯らしさ」は存在するか、存在するとしたらどこから来たのか

「東歯らしさ」徹底リストアップ  
座長 まずイントロダクションとして同窓会が創立して120年経過した現代から入ってみましょう。平成の時代の若い先生方にとって、どのように高山先生、血脇先生の思いが伝わってきているか、平成10年卒業の諏訪先生いかがでしょうか。

諏訪委員 私は歯科とは無縁の環境で育ち、進学には大学進学雑誌を広げる所からでした。父、兄と共に高三の夏に歯科大巡り。最後に尋ねた稲毛の千葉校舎に掲げられた「歯科医師たる前に人間た

れ」の書を目にし、東歯への進学を決めました。もちろん血脇イズムの存在すら理解しておらず、それから20年以上経て、血脇イズムを礎とした東歯を経て歯科医として今有ることを幸せに思っています。

座長 大変うれしい話ですね。明治の時代の高山先生、血脇先生の思いがしっかり平成時代の先生方に伝わっているのです。我々の世代では東京歯科大学の同窓イコール血脇イズムという感覚を持っていますけども、若い先生は血脇イズムをどのように捉えているのでしょうか。横田先生いかがですか。

横田委員 平成卒の多くの先生では「血脇イズム」をどうとらえているのかと聞かれてもちょっと難しいと思いますがいかがでしょうか。

福井副委員長 自分も含めて確かに「血脇イズムとは」と聞かれても、会社の社訓のようにすらすら答えることはなかなかできません。でも、「東歯らしさとは」というふうに聞かれると、若い同窓生でも返答が聞こえてくるのではないのでしょうか。

座長 確におっしゃるとおりです。まず血脇イズムというお話に入る前に、「東歯らしさ」という

ような話から入っていきたいと思います。では昭和30年代卒を代表しまして、吉澤先生から少しお話を伺いましょう。

「東歯らしさ」とは

吉澤先生 私の思いをお話ししたいと思います。東歯らしさというと端的に言って、長所と短所があると思うんです。長所から申し上げると、まず教養ですね。1970(昭和45)年ころ非常に衝撃的なことで記憶しているのは、旧制の大学のことです。たしか2期生だったと思いますが、自慢げに「私は旧制の歯科大学の卒業だ」と言ったんです。そこにたまたま歯科医学専門学校の卒業生である先輩がいたのです。そしたら、その歯科医専卒の先輩が、「いや、昔の東京歯科大学は、今の大学以上に大学的であった」と力を込めて臆することなく反論しました。そのやりとりが非常に楽しかった。そしたら、旧制大学を卒業したと威張った先生も、いささかたじろいだのを覚えています。

二つ目には、科学的な理論に基づいた診療、臨床をやるということだと思います。これについては恥ずかしながら、私のおやじが大正10年の卒業でして、東京歯科医専を卒業してきたけれども、開業



諏訪実行委員



横田広報委員



吉澤先生

で非常に困ったことがあった、という。それは何かといたら、学校では前歯金冠のつくり方を教えてくれなかった。ましてや開面金冠なんていうものは全く教えてくれなかった。よその学校を卒業してきた人たちは、それで経済的に非常に潤うようなことになっていたそうです。

3番目に、研究を重視するという姿勢が、東京歯科の長所としてあると思います。4番目は、これはさっきのお話と重複するんですが、営利事業というものからやや距離を置いたような歯科医院の経営をしています。5番目は紳士淑女的なマナーが尊重されるということだと思います。6番目が、結構議論好きなんですね。7番目は、付和雷同をしない。やたらとただ先輩の言うことだからって盲従してついていくということはない。

つぎに短所ですが、ほかの学校の同窓生から東京歯科というのはどういうふうに見られているかということを探った場合に、とにかくおまえさんのところはプライドが高過ぎるよ、と言われました。二つ目は、いろいろな人とおつき合いをせざるを得ない世の中だという認識があまりなくて、どうもやはり交際が偏るところも若干あるのではないかと思います。それから、理論重視で実践をやや軽視する傾向があるのではないかと。4番目に、経済的に苦しい者が少ない。5番目に、小異を捨てて大同につくということはなかなか難しいので、大同団結が難しいというところがある。以上でございます。

**座長** 60年代卒福井先生いかがですか。

**福井副委員長** 簡潔にまとめて言わせていただくと、職人かたぎとか、学術的な学術肌とか、そういうことが言えると思います。それから、同窓のまとまりが強く感じられるので、一つ何かやろうというときでも、皆さん集まって一緒にやっついこうということが強く感じられる。あとは、それがつながってきて愛校心がすごく強いということも感じられます。

最近、皆さん診療所のホームページを持っているんですけども、ほかの大学の先生に聞いてみると、東京歯科大学の先生方のホームページというのは地味だね。そういうお話を聞くので、やはり営利目的ではなくて、伝えたいところだけ伝えて、それで来てほしいという、商売が下手といえれば下手なんですけれども、そういうものもあるんじゃないかなと。

**座長** 「東歯らしさ」について、いろいろな年代から、そして他の学校の先生などがどういっているか、財部先生にまとめてもらいましょう。

**財部副会長** 東歯らしさと問われたときに、愛校心が強いとか、誠実、真面目、責任感が強い、あるいは理論に基づいた診療あるいは

臨床を行う、研究重視、営利事業から距離を置いた診療、もうけるのが下手、同窓の結束が強い、品がある、やや排他的、謙虚で出しゃばらない。表現こそ違いますが、内容的にはこういった意味合いが並んでいきます。この考え方の年代的な相違はあまりないのではないかと、同窓、他校を比べても評価の違いというのはそんなにないのではないかと気がします。それを長所とするか、短所とするかは別問題として、内容的にはそんなに変わらないような気がします。また、現在も数十年前も時代的な差はあまりないのではないかと思います。

**座長** 財部先生どうもありがとうございます。さて、この「東歯らしさ」ですが、かなり以前よりその存在は気が付いていましたし、同窓の大方の人がそう思っていたと思います。

ここで抽象的であった「東歯らしさ」が具体的にものとして目に見えるようになりましたが、さて、この「東歯らしさ」はどこからくるのか、これもみなさん興味を持たれているのではないのでしょうか。

「東歯らしさ」はどこからきたのか  
**浮地副会長** 私の場合でいえば、



福井広報副委員長



財部副会長

どこで東歯らしさというものを形づけられてきたのかということ、ははっきりと明確には言えないんですけども、例えば進学課程のときに、ある先生は、「看板で患者を呼んじゃいけないよ」というようなことをおっしゃいました。それから、あるドイツ語の先生は、「学生なんだから1週間に一週ぐらいは必ず本屋へ行って、何でもいいから本を読むような習慣をつけなさい」と。

また、進学課程の平屋の建物の藤棚の下にあったと思いますけれども、「Leben, Lieben, Leiden」という言葉。そういったところで育っていく中で、自然と東京歯科大学らしさというものが少し形づけられたような気がするんです。

そしてさらにつくられたのは、卒業して開業して地元の歯科医師会に入ったときに、私たちの先輩の人たちの生き方というものが、私にとっても非常に大きな影響を与えてくれたというふうに思います。それからまた社会的に貢献しようという意識があるんだけど、その中で、自分のために営利をもたらしような行為が一切ないんですね。言ってみれば、商売が下手だとか、その中で利益を得ようということはしないのが、また東京歯科大学らしさなのかなと

いう気がします。

**座長** どうもありがとうございました。50年代卒として小林先生、いかがでしょうか。

**小林委員** いま、それぞれの先生方がお話しになったことは、確かにその通りだと思います。東歯大同窓は、先輩、友人、後輩問わず、真面目な先生方であると感じています。ただ、個人の個性みたいなものもあるだろうし、それらを東歯らしさということにくくっちゃうということにちょっと違和感を覚えないことはないですね。今回こういうお話があるということで、一体そういったことがもともとどこから来てるんだろうかと考えてみると、日本で一番古い歯科医師養成機関だというプライドですかね。そこから何か全て発生してるような。一番古い、だから我々の先輩たちがリードしてきたんだ、その伝統を引き継いでいかなきゃいけないとか、あるいは一番古くてリーダーシップをとってきたんだから、行動もそれに応じてしっかりしていかなきゃいけないんだとか、どうもそんな気がします。

**座長** どうもありがとうございました。「どこから」という疑問の答えがだんだんと見えてまいりました。

さらに社会的使命感も見えてくる「東歯らしさ」の背景

**座長** ありがとうございました。そこで、平成の福田先生のところに参ります。

**福田委員** 東京歯科大学らしさは、みんな同じように思っているのだなと思ったのですが、さっき小林先生がおっしゃられたように、人間って個性があるので、個々の個性を消されるぐらいな東歯らしさがそんなに浮き出てるんだろう？考えてみたら、すごく不思議だなと。

だから、すごく強いものが何かあるんだろうなと思って考えると、皆さんがおっしゃったことにつながると思うんですけど、私的な利潤よりも社会に対する使命感のほうが、比重が高い感じがするんですね。高山先生が公費を使ってアメリカに行って戻ってきて、それを恩返ししたい、自分の私財をなげうってでも学校をやりたいという高山歯科医学院から始まって、それを血脇先生が引き継いで、関東大震災のときには、高山先生や血脇先生から教えられた価値観によって、みんなが稼いだお金を学校の再建に使おうじゃないかというようなスピリットが生まれて、それが東京歯科のものすごく大きな柱の価値観になって



浮地副会長



小林実行委員



福田実行委員

いると思うんです。その価値観を同窓会の中で常に皆さんがお持ちになっているので、自分が派手に生活するんじゃなくて、社会に対して貢献しようという価値観、プライドというんですかね、それがすごくあるんだと思います。

じゃ、それをどこで皆さんが身につけたか。たった6年間の学生生活で身につくかということ、それが非常に不思議じゃないですか。実際に僕は26年間教員をやって、そんなことを教えたことないし、それをすごく思って考えてみたんですけど、僕が今日に至って気がついたことは、多分卒業してからのんですよ。

僕らもそうなんです。教員を26年間やって、どこで教えられたかということ、やっぱり大学の教員の先輩たちに教えられてる。学会のあり方も他の学校と違うんです。それから、教育の仕方も違う。外に出られた先生は、多分僕が思うに、同窓会なんです。この同窓会で、学術とか120周年とか、いろいろなところにかかわるようになって、あ、どうもこれは同窓会で教えられたんだ。だから恐らく価値観がずっと伝統的にあって、それがどんどん植えつけられるんです。卒業してから。それが東歯らしさをつくってるんじゃないかなと思うんです。

**座長** 財部先生いかがでしょうか。

**財部副会長** 恐らく学校ができてからの流れでそのカラーができてきて、誰言うともなく評価がだんだん組み立てられ、それをまた同窓生も受け入れられるよう

な内容の評価だったのではないかと思います。外部の評価というのは一度でき上がると、それがひとり歩きしながら、あまり大きくは変わっていかない。

一方、学内のほうを見ますと、歯科教育の特殊性ということで、技術的な継承もどうしても必要だということ。そこで学生は師を見て、後輩は先輩を見て、あるいは子は親を見て、その背中を追いかけて育っていくということがあると思います。これを伝統と呼ぶなら伝統。この伝統を継承していく過程が、一度つくられた校風を大きくぶれにくくしているという一つの原因として考えられるのではないかと思います。

また特に同窓生は他校と比較して、相対的に東歯はここがいいんだぞ、というようなところを強調する傾向もある。そこで共同幻想的な東歯カラーをつくり上げて、自分がその中に身を置くにことよって集団の評価を全面的に押し出して、個というものを一歩下がって強調しない。それも東歯らしさではないのかなというような分析あるいは指摘もあります。こういうところが東歯らしさというところのまとめかなと思っています。

**座長** 諏訪先生、どうですか。

**諏訪委員** 卒業してから東歯らしさが植え付けられたこと。いま福田先生のお話を伺いなるほどと思いました。他校からは排他的に見られがちな東歯も、校内は私のような新参者、また個性的な人を受け入れる文化が根付いていました。ただ社会的地位の向上や社会貢献にしたいという気持ちの基礎

は、学生時代に学んでいたことが思い出されます。

東歯卒となって私はすぐに大学を出ましたが、在学中もその後も、振り返ってみると研究に精進することが美徳とされ、学んで知識を向上させることは職務であって、しいては国民の医療の貢献につながるという意識を東歯の先輩方から見て学んできました。

存在する「東歯らしさ」、そしてその根源は血脇イズムと重なるか**座長** どうもありがとうございます。「東歯らしさ」がどこから来たのかわかってまいりました。さて、この東歯らしさの思想的な根源はどこにあるのかについて考えていきましょう。

**高橋専務理事** これは血脇イズムを根源にしていると思います。血脇イズムを挙げてみますと、「一生懸命」とか、「歯科医としてのプライドを持つ」こと、「質の高い歯科医になる」こと、「家族主義」、「やさしさ」、「人間性」、「歯科医の地位向上」、「品位の高い歯科医」と際限なく挙げられるんですけれども、こういうようなものを、先ほど財部先生がまとめてくださったところに当てはめてみますと、「血脇イズム」と「東歯らしさ」はかなり重なってくるとい



高橋専務理事

う実感を得ます。

**西村委員** 高橋先生がおっしゃったように、東歯らしさと血脇イズムはかなり共通な部分が多いと僕は思っています。調べれば調べるほどそういうのを感じます。東歯らしさというと、先ほどから出ているように、性格のような感じで例えば真面目とかそういうふうに見えられがちなのですが、そうではなくて、東歯イズムという何かしっくりきます。いわゆる東歯の主義とか主張が東歯らしさとしてあらわれているのではないかなと考えました。例えば東歯らしさの中の歯学愛とか、歯科医としての心構えとか、プライドを持つてるとか、大学愛とか、そういう主義的なものが、周りから見たときに、東京歯科卒の雰囲気というふうに見えられてるのではないかなと思いました。

血脇イズムが、こういうふうに大学の中にずっと浸透していったのか。家族から継承されたものが、学生同士の交流の中、そして実習の中とか、そういうふうに関わる者から受け継いだ歯学愛とか歯科医としての心構えとか、そういうものが少しずつ浸透していったのではないのでしょうか。

私の中で心に残っているのが、最初のフルデンチャーの実習のと



西村広報委員

きの模型に設計線を引くのですが、それを筆で書かせるんですね。あとは、臨床に上がったときも、僕らもネクタイを締める。それは人前に出るときはきちんとしなさい、みんな真面目にやりなさいとそういうものが知らず知らずのうちにしみ込んだのではないかなと思います。

祖父は、血脇先生の写真を飾ったり、血脇先生の書を飾ったり、血脇先生に対する尊敬の念がすごくあったんだと思います。血脇先生じゃなくても先輩に対する尊敬の念というのが、実習だったり、ネクタイだったりということにだんだん継承されていったのではないかなと考えました。

**高橋専務理事** 血脇先生への偉大さ、尊敬の念も強かったようですが、血脇先生の素顔について、「血脇先生を思う」という記事が『同窓会報』の中にありますけど、これを読むとまた違った顔を見ることが出来ます。とにかく温和で、やさしく、笑顔を絶やさず、そして「慈父」という言葉がよく出てきますが、優しいお父さんのような親父のような信頼の強い方だったということが感じます。

**座長** 東歯同窓には個性を超える「東歯らしさ」という共通の宝をもっており、それが120年間伝わってきたようです。真面目、一生懸命、私利私欲を追わない等長所短所もありますが、これは高山先生、血脇先生が求めた歯科医に求めたあるべき姿であり、学内でもそして先輩から後輩への脈々とながれた120年の歴史そのものであるとまとめてみたいと思いま

す。

## 第二部 チワキズム考

**座長** 先輩と後輩とのこんな会話に出会ったことがあります。「先生のやっていることは血脇イズムに反します。」「なに、う～ん。お前分かっていっているのか、血脇イズムを説明してみろ」との後、しばらく間があき「歯科医たる前人間たれ」ですとちょっと小さな声で話す。それをきいた先輩も果たして血脇イズムは何だという??が頭をよぎる。

**高橋専務理事** 我々同窓会でも、これから血脇イズムというものを伝えていく責任があると思うんですけど、いろいろな説明があり、後輩のためにも「血脇イズムとは」を分かりやすく説明できるように、ある程度まとめていきたいなどは思っております。母校の120周年記念誌では、建学の精神として、「歯科医師たる前に人間たれ」とあります。これは血脇先生が杉山前学長によく言われたことです。それから、血脇イズムの説明の中でも、一つの文章ではなくて、幾つか言葉があり、かなり長い説明があったりします。例えば「目標達成に向かう枯れることのないエネルギーと知力、その志が血脇イズム」。それから、「開拓者精神、人格の陶冶(とうや)とともに才能の発掘もまた血脇イズムの一つの形」。あとは真摯な眼差しとか慈愛とか家族主義とか理想の実現、いろんな言葉で血脇イズムというのを説明しております。

100年史のところでは、「チワキ

ズムと熊さん」。千酔火という先生が大正12年に『歯科学報』に書いております。さらに『東歯学生会会報』。これは同窓会報の12月号にも紹介したんですけども、血脇先生と思われるんですけども、血脇先生が血脇イズムについて書いています。いわゆるチワキイズムは、「事の成敗利鈍の如きは第二の問題として自己の義務と責任の命ずるところには最善の努力を傾倒して驀地驀進」という言葉があり、「利害を打算する余裕のごときは微塵もない」と加えています。ただ一心不乱に一生懸命やるのが血脇イズムであると記しております。

どうも血脇イズムは一言で定義づけられるものではなく、血脇先生の生き方そのものとも思えますし、私が考えるに、人によってその捉え方もかわったりするのは。

**座長** なるほど、ではここで宮地先生にとっての血脇イズムをお話しいただければと思います。

### 時代や社会的背景で変わってきた血脇イズム

**宮地副会長** 宿題ですのでチワキイズムについて想像を膨らませてみました。

#### ● 一生懸命というチワキイズム

『東歯学生会会報』の23号に「諸君のいわゆるチワキイズムの本体は」を、多分本人が書いています。内容は同窓会報399号の会務アラカルトに再録されています。この学生会会報は大正15年秋、関東大震災の3年後、そして大正天皇崩御の3カ月前の発行です。単純計算で血脇先生が56歳、

院友会という同窓会の発足が25歳のときですから、それから30年以上経っていることになります。内容は目的に向かって「遮二無二」とか「驀地驀進」それが、諸君の言っているチワキイズムの本態でなければならぬ、水道橋精神もこれだというふうに書いていますので、これを素直に読めば、チワキイズムというのは「一生懸命に」ということになります。儒教的な知行合一の教えに近いのかもしれませんが、しかし、なにかしっくりこない。誰に聞いたというのではないのですが、何となく伝わってきた血脇イズムというニュアンスとなにか違うという感じが残ります。

そこで思ったのは関東大震災の後、同窓も学生も校舎再建を目指して一生懸命働いている、その最中の会報ですから、学生や同窓全員に対して、諸君こそチワキイズムの具現者であるという感謝とお礼の意味があったのではないか。そんなことを勝手に想像してみました。

#### ● 主義としてのチワキイズム

でもやはり、チワキイズムとなると一生懸命というより、もうちょっと高尚(?)なイズムに相応しいものという先入観を払拭できないわけです。そこでふと思っ



宮地副会長

たことは、確かに一生懸命がチワキイズムだとしても、これは例えば合理主義とか功利主義とか家族主義とか、一種の主義のことをいっている。言葉は変ですが「一生懸命主義」も水道橋精神も一種の主義で行動の手段というニュアンスが強い。そこで問題は、イズムは主義という側面と主張という側面の2つが必要なのに、片面の主義だけをチワキイズムとして強調していて、肝心の主張の部分、どこに向かってという目的部分が隠され、省略されているのではないかと思うようになりました。

#### ● 主張としてのチワキイズム

その隠されている部分、実はその翌年、校旗や校歌ができ上がっている。校歌の「国手となれ」というその言葉は間違いなく当時の学生は全員知っていた。国民に敬愛される国手となり、自身の能力を社会に還元しなさい。そしてそこに向かって一生懸命努力しなければいけないと繋がる。そう思えば主張と主義、つまり目的と手段が揃ったチワキイズムになるわけです。

#### ● 思いの膨らみ

この時期、野口英世は健在であり、日本歯科医師会の会長職にもあって、血脇先生の歯科界への思いは、どこかに限定などできないほど、広がりつつあった。目的という主張部分は当面、無地のままに、空洞のままにせざるを得ないと思うと、日本語の主語を省略する手法は納得できる。大分無理はありそうですが、これが学生会会報を通してイメージした私のチワキイズムです。

## ● 血脇先生が目指すもの

血脇先生はこの年に日本歯科医師会の会長になるので、国手となれというより、もっと大きな目で社会的な地位の向上ということも大きな目標として、国手となるだけではなくて、それをうまく利用して社会的な地位の向上を目指そうじゃないかということを行っているのではないかと。目標というのは結構どんどんどんどん広がってくるので、これが目標だということ省略しておいたほうが、非常に都合がいいのではないかと。目標というのはどんどん大きくなるので主義だけのほうを取り上げておいたほうが、融通がきくのではないかなと思いました。

**座長** なるほど。血脇イズムとは、ここには書いていない国手になり地位を高めるという大目標に向かうための、血脇先生にみられた心構えみたいなもので、それを周りの人が一緒に気持ちになり自分もそうなる、後輩もそうなるようにとイズムになってきたのでしょうかね。白田先生にとっての血脇イズム、あるいは先生の解釈ってどうでしょうか。

**血脇イズムを生き立ちから考える**  
**白田委員長** 私は、血脇イズムをどのように考えるのかというところで、血脇先生の生き立ちから見ました。

血脇先生は我孫子で生まれて、3歳のときに母親を亡くし、その後、父親も去っていく。完全におばあちゃん子ですね。家のほうはその当時、旅籠屋（はたごや）で景気もよく、ある程度資産があったんだと思います。その時代

は明治の初期ですので当然福澤諭吉の関係もあると思いますが、学問をすれば、ある程度の地位を得られるということで、学問に対して非常に積極的に取り組んでいきました。11歳で今でいう慶應義塾の幼稚舎みたいなところに入り、そりが合わなくて3カ月ぐらいでやめてしまう。そのことから考えると、血脇先生も、決して幼少のころから、そういった強い精神を持っていなかったと思います。いろんな学校に行き、その中で、ある意味鍛えられていったようなところがあると思います。要するに、周りによって人は変わっていき、それで強くなり、その時代時代ごとにいろんな友人をつくっていきました。血脇先生ご本人が血脇イズムとか東歯らしさということは決して語ってなかったと思います、ただ自分の考えのもとにやっていたことが学生及び卒業生にも支持されていったと思います。

**座長** どうもありがとうございました。福田先生、いかがでしょうか。

## イズムという視点から

**福田委員** イズムという言い方は、さっきの東歯らしさにつながるのかもしれないですけど、いわ



白田広報委員長

ゆる物事の価値観というか、例えば哲学の世界でいうと、家族主義でもニヒリズムでもそうですけど、人の生き方ですね。共産主義とか資本主義というのは国政政府のあり方ですね。だから、物事のあり方というか、物事の価値観というのがイズムだと思うので、そこはさっき宮地先生がおっしゃった「国手になれ」という。一貫して東京歯科大学は120年その価値観を貫いてきたんじゃないかなと。結局、自分の利潤よりも、社会に貢献する歯医者になりなさいと。そうすることによって、歯科という業界を認めてもらおうという、そこが1本の柱で、その価値観が常に東歯らしさもつくってきたんだと思うんですね。

だから、飲みに行っても次の日は患者さんが朝から来るわけですから、その価値観は崩せないとか、夜中まで飲むことはないとか、もともとそういう血脇イズムが東歯らしさにしみついていた、我々の生き方としてでき上がってきたのかなというふうに僕は思いました。

**座長** ありがとうございました。横田先生は今日お客様を連れてきてもらったので、紹介をお願いいたします。

## 突然おとずれた客人が述べる血脇イズム

**松浦先生** ありがとうございます。ご紹介に預かりました105期生の松浦玄嗣です。

我々が入学した時代は、バブル期の真ただ中でした。その為、諸先輩方々が仰る時とは状況が違います。『東京ウォーカー』では

毎号、幕張を含む湾岸地域の特集が組まれていた時代です。最先端の地域、おしゃれなキャンパスというイメージで地方から入学した学生も多い、そんな時代だったんです。

バブル期は、学生にベンツやポルシェを買い与えるような親も多かった時代であり、歯科医師としての志を持たずに入学してきた学生も多かったわけです。その浮き足だった状況の中で、歯学概論として最初に話されたのが血脇先生の「歯科医師である前に人間たれ」の話でした。

我々に血脇イズムに関するを講義をしてくださったのは当時の金竹学長です。

講義では、医は仁術であるが、本学には更に血脇イズムという精神がある。将来患者を診るに当たって、好景気の中、浮き足立っている人は多いかもしれないが、こんな時代だからこそ我々は医療人として、ちゃんとした心構えを持って将来を担って欲しい。この6年間大学でしっかり学んで、歯科医師として立派に育ってほしいというものでした。あれから25年、時代は変わりました。長引く不況、少子高齢化、震災、頻繁に起こる猟奇的な事件等、社会情勢はかなり荒んでいま

す。

そういう中で、人々は人間ってなんだろう、自分ってなんだろうという事を考え始めているように思います。患者さんや地域住民の方にもよく相談を受けますが、その時に我が母校である東京歯科大学に血脇イズム「歯科医師である前に人間たれ」という言葉がある。職業は違えど人としてお互い頑張ろうというをすると共感される方も多いです。つまり血脇イズムというのは、もはや本学だけの精神ではなくて、こんな時代に対する生き方の指針の一つになり得るのではないかと考えております。

**座長** どうもありがとうございます。違った視点からの血脇イズムで、本当にありがとうございます。大井先生どうですか。血脇イズム。

**教員として血脇イズムをどう伝えてきたか**

**大井委員** 血脇イズムとは何なのかということは学生時から現在まで漠然としか思いつきませんでした。いろいろな先生方のお話を伺い、血脇先生は当時の時代の変化に応じていろんな血脇イズムを出していたのかなと感じています。私は卒業後大学の補綴に9年

残ってたんですけども、自分の受けた授業や実習と医局員になってからの医局の先輩や非常勤講師の先生方の指導を通して、実際に学生に指導をしていたと思います。そこには血脇先生がいらしたときより、脈々と受け継がれてきた血脇イズムの精神が大学での医療人を形成のために大きく影響を及ぼしてきていると感じます。

**岡野副委員長** 教育現場でのお話が先程大井先生よりございましたが、私は昭和52年に卒業し8年程口腔外科の教室に在籍しておりました。当然、学生教育にも携わったわけですが、その際に血脇イズムについて意識したことはありませんでした。

ところで先程のお話の中で、血脇先生は何を行なっていくべきか具体的には示しておられないとのことでした。若いときから50歳代に至る各時期にすべき事項は大きく変わったことでしょうか。常に上を目指して頑張り続ける事が血脇イズムであり、その思いは自分の仕事に対する矜持なんだろうと、改めて感じております。

**120年を超えても敬われる血脇先生**

**高橋専務理事** 先生方以上に、私も同窓会の専務になる前には、



松浦先生



大井実行委員



岡野副実行委員長

血脇イズムはあんまり知らなかったし、血脇先生のことをあまり知らなかった。でも、今日は「東歯らしさ」に関して皆さんの共通認識項目をリストアップしてもらいました。そしていろいろ調べてみると血脇イズムにつながったことが分かりました。血脇先生はそれを計画してなかったと思うし、血脇先生の精神を自然発生的に血脇先生の精神を120年間脈々と伝えられるような形にしてきた、歴史的にもすごいし、またそれこそ東京歯科のすごい特徴ですし、血脇先生自体も想像を絶する素晴らしさを兼ね備えていたことを学びました。

**座長** 山口先生、若い先生方はどう考えますか。

**山口副委員長** 私は父方の祖父が昭和8年卒、母の祖父も昭和11年卒ですので、歯科3代目ということになります。先日、実家に寄った際に偶然倉庫から血脇先生の額縁に入った写真を見つけました。その写真は、診療室の壁にずっとかかっていたものでして、祖父が開業してから80年間ずっと飾ってあったものと聞きました。祖父が亡くなり母が診療室を引き継いだ際に、額縁ごと倉庫にしまっておいたようでした。昭和11年に祖父が卒業した際に大学からいただ



山口広報副委員長

いたものと判明しました。自分は子供の時分から見続けてきた写真、久しぶりに見ていたらとても懐かしい思いがしてきました。そして祖父が開業するときに、どうしてその写真を診療室に飾って診療していたのか、今では聞くことは叶わないのですが、やはりその当時から、卒業生はみな血脇先生の写真を常に傍らに置いて診療するということのような精神があったんじゃないかと感じました。

**吉澤先生** さっき松浦先生が指摘された水道橋精神とか、血脇イズムとか、そういったものは、確かに学校で聞いたことではあるけれども、今日ではみずからの診療活動を通じて、地域活動の一環として浸潤していくような状態になっているということを聞いて、私はびっくりしました。あらためてこちらにちょっと不明なところがあったと思います。

松浦先生の話は、今の世の中が客観的にかなりおかしくなっている、懸念される時代であればこそ、あるいは場合によってはバブルで浮き足立つようなことがあったり、デフレで不景気で沈み込むようなときがあるにしても、どんな時代でも水道橋精神とか血脇イズムという、学校の中で身につけたかもしれないけれども、それを地域活動の中にまで浸潤させていくべきだと考えてやっておられると発言されましたから、これは私にとっては非常な驚きです。

**松浦先生** ありがとうございます。私自身、みでの通り特異なキャラクターですので、患者さんなどから色々な相談を受けます。その相談内容も多岐にわたり歯だ

けの相談ではありません。なおかつ、診療とは全く関係のない方や地域の方々にもいろんな相談を受けたりします。そんな時に親身になって話をするというのを、我が母校が一番最初に教えてくれたのではないかと思っております。またそれを地域や世代を越えて、歯科に関係がない人たちにも伝えていく。そこが重要なのではないかと。

平成卒だと言われても、私ももう42歳のいいおじさんなわけですから、それを後輩たちに伝えていくのは当たり前の話なのではないかと思えます。

**座長** なるほど

### 血脇先生の素晴らしさ

**松浦先生** 私、血脇先生に対しての思い入れというのは特別なものがございいます。インドに行ったことがあるのですが、あの国は今、医療先進国家的なイメージで国づくりを進めています。ところが、日本人がとても入れないようなスラムに行きますと、いまだに香具師（ヤシ）、歯大工（はだいく）がいるわけですよ。

彼らは衛生環境も全く考えていない状態で歯を抜いて、雑巾かましておいて、拾ってきた入れ歯を削って入れるみたいなことをいまだに行っています。

昔は日本もこういう状態だったんだろうなと思いました。

その中で血脇先生は、当時の近代医療の中に歯科が入っていない事や歯科医師の地位確立の為にうちの大学を作った。しかも、それは最初は大学だった訳ではなく、専門学校から始まり、慶應や早稲

田が大学になったのに、なぜうちがなれないんだというところから歯科医師会を作るんだという流れに繋がったと思うんです。つまりこの国の近代医療の父のうちの一人であり、歯学の父だと思うんです。ですからその系譜として歯科界のパイオニアとして歴史をつくってきた我々だからこそできる社会貢献という道筋というのがあるのではないかと考えております。

**高橋専務理事** 血脇先生という、私のイメージとしてずっとあったのは、東京歯科の血脇先生。東京歯科に所有権があるみたいな……。だんだん調べていきますと、そうじゃなくて、歯科医師会をつくっていった歯科医の地位を上げていった。要するに歯科医師の師であり、歯科医師にとっての大切な恩人なんだと思ったんです。更によく考えてみますと、いまインドの話が出ましたけど、歯を抜いた後、雑巾をかんでる。明治の時代はそうだったわけですよ。それが今そうならず、健康保険制度によって、きれいなインレーを2000円ぐらいで入れられるようになっていきます。血脇先生は誰の父かといいますと、国民にとってすごく貢献した人で、国民にとっての父と呼んでもよいので



臼井常任理事

はと思っています。

**矢崎会長** 東歯家族主義と言いますが、血脇先生は学校を自分の子孫には譲らない、とはっきり言われています。自分はたまたま天の利、地の利、そして人の輪によってできたが、学校というのは子々孫々に受け継ぐべきものではなく、すばらしい人物がいたらそれに譲るべきであり、これこそ東歯家族主義の根源となっている。例えば先生が大正11年にロサンゼルスで、東歯を出た学生は米国の最高学府に入れるという約束をしています。日本歯科、大阪歯科、の卒業生についても同様な約束をしています。

常に日本の歯科界全体の事を考えていたことから、他校からも尊敬されていたのではと思われま

#### 血脇先生のお人柄

**座長** 「世の中は五分の真味に二分の狭気 あとの三分は茶目で暮らせよ」という血脇先生の言葉があります。「三分は茶目」、ここがやっぱり大事な部分なのかもしれませんね。

**吉澤先生** そうですね。茶目がね。  
**高橋専務理事** 私もやっぱり血脇守之助みたいに生きたいなと思っただけですけど、いろいろ調べていくとまず不可能に近い。同じところは熱燗が好きだというだけです。

**吉澤先生** いま高橋先生が言われた「世の中は五分の真面目に三分の狭気」のことで一言。狭気は「ろ(けものへん)」じゃなくて「イ(にんべん)」なんだということ。断わったうえで、「残りの二分

は茶目で暮らせよ」と、建学者の血脇が教え子のために書き物として残しているのはおもしろい。比率は、場合によって違いますがね。むかしある会で、東京歯科の同窓仲間では血脇の「茶目」が話題になることがあるんですよと言ったら、ある真面目な先輩が私にこう言ったんですよ。「何を言ってる。一番大事なのは五分の真面目であって、おまえのように五分の真面目がない人間はそういうことを語る資格がない」と。つまり、五分の真面目は東京歯科では非常に重要視されたと思います。だから、やっぱり「残りの二分は茶目で暮らせよ」というのは、控え目にしか出せなかったんじゃないか。特に学内では。

**宮地副会長** 出せなかったと思います。

**吉澤先生** 出せなかったんだと思います。これは勝手な解釈です。

**高橋専務理事** その辺で血脇先生って果たしてどんな人だったか。大山顧問に伺いましたら、遠くから見ただけだと。昭和25年卒業の先生方でも直接話されたことがないと。結局、もうあと知るのには、今までの同窓会報とか歯科学報に書いてある先輩たちの記事しかない。あと肉声は、もしかしたら日本歯科医師会にラジオがとってあるかもしれませんね。

**西村委員** いろんな記事がありますが、血脇先生はお酒好きで、お酒は飲むけども、お酒に飲まれることはなかったそうです。ただ、いつもやるというので有名だったのが、窓をあけての〇〇〇。これが隠し芸だったそうで、それを嫌がる者はなかったと書いてありま



すけど、多分嫌な人がいたと思います。

あと、血脇先生の熱いところですね。やっぱりプライドの高さは、高山先生の武士のプライドを引き継いだのかもしれませんが、血脇先生が講演をしたときに、小川平吉代議士という方が、「何だ。血脇は歯科医のくせに」ということを言ったらしいのですが、血脇先生はつかつかと歩いて行って、頭をおもいきり殴ったと。もともとすごく穏やかな方だと誰もが言ってるし、人に好かれる方なんですけど、こういうようにプライドを傷つけられるようなときには、烈火のごとく怒ったということがあるようです。

**高橋専務理事** 血脇先生の記事。昭和27年に同窓会報に西村豊治先生が書いた記事があります。あと同窓会60周年記念で血脇先生の隠れた逸話募集というのがあって、同窓会報にいろいろな先輩方から血脇先生の思い出話が投稿されています。とにかく優しい。いつも話すときは笑顔。いつもの写真のイメージとは全然違うんですけども、優しくって、思いやりがあって、後輩を大事にする。慈父のようであると何回も何回も出てきま

す。お世話になったとの話も次から次と出てきます。

それと違った書き方をしてるのは、先ほど西村先生が紹介した“怒ってけんかして代議士の頭を殴った”時の話です。要するに、歯科をばかにするということに対しては、ふだんの性格とは全く丸反対な態度を示す。それからもう一つ、『学生会誌』に風間又四郎先生が書いてる「日本の血脇」とありますけど、アメリカに行ったときに、向こうの人が大事でない都合で日程を変えてくれと言ったんですね。そこで遠藤至六郎先生がしょうがないですねと言ったら、血脇先生が怒り出して「私は日本の血脇なんだぞ」と日程を変えさせなかった。これは単に威張っているというのではなく「日本」や「歯科」を背負っている部分で、あの人は恐らく誰にも優しいから、個人では恐らくそんなことは言わなかったと思います。ただ日本の代表、歯科医師会の会長として行っているときには、そこをかなり徹した自分を出してきたと思います。かなり剛の部分と、それから個人的にはものすごく優しい部分をかなりしっかり持ち分けてたんじゃないかと

思っています。

**矢崎会長** 他大学の方々は東京歯科大学について、以前からどの様に感じているかを聞き、他の歯科大学との違いを指摘してもらう事は、我々が東歯血脇イズムを知る上で、何か参考になるかとも思います。

**座長** どうもありがとうございました。血脇先生も今同じようなことを思っているのではと感じました。さて時間も過ぎてまいりました。「四分は茶目で暮らせよ」ということで、あとはお酒でも酌み交わしながら続きをしていただければと思います。

**岡野副委員長**（閉会のご挨拶）

皆さん、長時間にわたりありがとうございました。大変中身が濃くて、ほんとに頭の中をまた整理し直さなきゃいけません。濃厚な情報が入ってきてるおかげでとてもよく整理できたところも今日はあります。本当に皆さんご苦労さまでした。この次はこの伝統部分からどう創っていくかとか、どういうふうに進展させるかということ、より難しい座談会になるのかなと思っております。皆さんご協力のほどよろしく願いいたします。

# そして多くの若者が上京した —— 歯科醫學叢談創刊号 ——

岡山県支部 広報部

120年前、同窓会（院友会）の機関誌「歯科醫學叢談第壹号（歯科学報）」が発行されました。院友会は高山一門の結束を目的とし相互の交誼を深め、更に研究機関としての役割も期待されたものでこれを受けて血脇守之助は「近代歯科の価値を広く認識させるには、機関誌の発行が急務である」と提案したと伝えられています。創刊号の発刊の辞には「日清の戦局既に畢り旭光燦として万邦に耀くの時に際し“歯科醫學叢談”忽然として大東帝国の歯科医界に現る…」と格調高く、祝詞には男爵石黒忠憲、歯科医榎本積一、バチュラーオヴアーツ池田成彬、薬剤師岩本米太郎など政界医界諸方面から祝辞が寄せられていることは、即ち高山紀齋先生の偉大さを示しています。

この創刊号で注目していただきたいのは岡山出身3氏の論文が燦然と紙面を飾っていることです。それは主幹の高山紀齋「歯の養生」、寺本数衛「普通医諸氏に望む」、瓜生春太郎「歯科医諸氏に望む」の三篇で計11頁にわたり顎口腔器官の重要性とくに歯科衛生について、一般医師に対して歯源性疾患への対処法、そして歯科医師には弛まず自己研鑽をする必要性を説いています。まさに“岡山の三役揃い踏み”とも称される豪華な趣きの第壹号です。





○普通醫諸氏に望む  
寺本 数衛

時勢の進歩するに随つて事物の變遷を著し事物の繁雜なるに従ひ分業するは誠々自然の理にして殊に我醫科の如きは進歩歩歩を或る諸術とを習へば其理の如きは至れり是に於てか業務の繁雜を来し其分業の已むべからざるに至りたる爲め各其技する所を撰て専門とし或は内科とび或は外科とび或は眼科と併し或は齒科と併し或は眼科と併し或は耳鼻咽喉科と併し或は皮膚科と併し或は小兒科等の如き業務に別れ各其得意とする所を以て社會に立つに至れるは患者の幸福と云ふべし

○齒の養生  
高山 紀齋

凡そ人の世に生るゝや無難無難にして云々を保つより幸福なるはなし甚幸と保たんと欲せば養生の道を守るに若くはなし其法は百般なれども先づ飲食を慎むを以て第一とす而して食物を賢るの道は口腔なり古人も口は生活の門戸といへり抑も齒科の如きは其養生の第一道を保護するの術なり然るに我古來の風俗にて齒牙の事は殊に疎慢にして其病源滋養を彼自然に任せて取

○齒科醫諸氏に望む  
瓜生 春太郎

國のため我我我の爲とて  
小みせし身を以て病れと見よ

文藝政界の進歩と云ひ工業貿易の發達と云ひ文明帝國の事々物々等を以て其歩武を止めず就中醫界進歩の進歩を遂げん爲め我我我一人として此目眩若ららば或んや世世一體我我一連の今後に於てをやらば即ち予内の進歩進歩の齒科

## —— 文明開化の潮流と故郷での評判 ——

渡米中に激しい歯痛に襲われて、バンデンボルグ先生のもとを訪れ治療を受けた高山彌太郎は身をもって歯科医療の有難さを理解し、これがきっかけで苦節8年、邦人で初めてのアメリカ留学帰朝の歯科医師となりました。明治11年4月、28歳の彌太郎は故郷・岡山に錦を飾ります。ところが8年ぶりの岡山は城は荒れ果て失業者は溢れ、経済は停滞……士族が落ちぶれ官員が幅を利かす時代になっていました。しか

し、彌太郎は岡山の人々に“新職業”とも言うべき歯科医療の重要性、素晴らしさ、将来性を熱く説きました。そしていかにも医師に相応しい「紀齋」と名を変えて東京銀座で開業しましたが、その隆盛ぶりは故郷岡山でも大評判となり、多くの若者が紀齋を頼って岡山から上京したのです。縁戚者はもとより、辻 正子郎（当時13歳）、水野浩四（当時16歳）などは奉公人の様な身分で紀齋に従ったのです。

明治23年、高山歯科医学院を芝伊皿子に開校時の講師は9名とも7名とも6名だったとも伝えられています。第1回卒業式の挨拶で高山院長は“本校創立の当時を顧みれば…生徒8名、講師9名という少数にして何事も不整備の嘆きありしが…”と語られました。ところが、通説と異なり当時に詳しい青山松次郎が書いた“高山紀齋先生略傳”によると、最初の講師は7名で、内4名が岡山出身の門下生——実弟の瓜生源太郎、佐藤源太郎、和田 忠、青山松次郎——だったそうです。その後、同じく岡山の藤島太麻夫、瓜生春太郎（紀齋の甥）を講師として招聘し、その外、寺本数衛、水川犢三郎、辻 正子郎、水野浩四など黎明期の岡山県歯科界で活躍した多くの歯科医師が高山歯科医学院と何らかの係わりがあったのです。

## 岡山・元藩士同志の嫁取り合戦

帰国した年の6月、銀座3丁目に治療所を開設した高山紀齋は“米国式治療で新しい薬と道具を使って手際よく治してくれる”とまたたく間に名声を獲得しました。時代も折よく堰を切ったような激しい文明開化の潮流に乗って、歯を病む上流社会の人々の間に紀齋の治療が喧伝され、又それ以前に外国人の歯科開業医が定めた高い治療代が継承され、そのおかげで高収入に恵まれたのです。やがて芝伊皿子に広大な邸宅を構えて、銀座の治療所まで馬車で通うような大臣参議並みの生活が可能になり、その盛名は郷里岡山にも伝わりました。——それを耳にした多くの岡山の若者が歯科医を目指して上京しました。



森山愛子



高山紀齋

**院長治療時間 毎日**  
自午前九時  
至午後四時

但し日曜日ハ代診

往診担当医員 東京齒科醫學  
院講師齒科醫 瓜生春太郎

東京市京橋區銀座三丁目十七番地（雲玉橋際）

米國齒科醫 **高山紀齋治療所**

（電話新橋四百五十二）

往診担当医員は瓜生春太郎

それから3年後の事、高山紀齋は嫁をもらうのですが、この縁談をめぐっては当時の大きな話題となりました。後に衆議院議長となる鳩山和夫と嫁取りを競った結果、明治14年11月に紀齋は森山愛子と結婚したのです。岡山北部の作州勝山藩の重職だった鳩山家では、ライバルが日増しに隆盛を極めている31歳の歯科医との話を聞き“相手が歯抜きなら…”とたかをくくっていた様子です。こうして2人の岡山県出身の士族の縁談話は、洋行帰りの代言人（弁護士）に米国帰朝の歯科医師が勝利しましたが、後年、鳩山家は和夫の息子・一郎、曾孫の由紀夫と2人の総理大臣を輩出することになったのはご存知の通りです。

## —— 歯科医に多い士族 ——

高山紀齋と鳩山和夫に象徴される様に、明治維新後に祿を離れた武士たちが見出した活路は、教員・僧侶・医師・官吏などになることでした。岡山の作州勝山藩では明治4年8月、十代目鼓山城主・三浦顕次公が藩籍奉還し、奉還金を下賜して藩士347名と決別しました。家老の九津見吉衛門と渡辺 政も鳩山氏と同様に浪々の身になったのですが、2家老の長男たち——九津見 肇と渡辺晋三は、祿高十五万石の比較的恵まれた地位に生まれながら、当時としては意外な職業の歯科医師を志しました。その頃は「歯抜き医」と言われ、祭礼や市立ちに大衆の中で抜歯を業とする輩と同等に思われており、それは相当の決断だったと思われます。その外に木田簾平・神原 定・木田 保などの藩士が、更に田添豊造・田添猪八郎・南城鋼一郎・八木亮三郎・山口浪三郎・関当 辰などが歯科を学ぶために勝山を後にして上京したのです。九津見 肇は大正6年に、渡辺晋三の長男・済は大正8年に東京歯科医学専門学校を卒業し、同期の赤堀康興（勝間田）と生涯にわたる親交がありました。

一方、備前岡山藩からも高山紀齋の関係で、実弟の瓜生源太郎と長男・春太郎、縁戚の和田 忠・青山千代次・青山松次郎を始め、家老職伊木家より伊木熊男、その外佐藤源太郎・寺本数衛・藤島太麻夫・水野浩四・石津純一・木村蔦野・伏野忠繁…等々多くの士族が歯科医師になっています。

## —— 2人の住み込み書生 ——

高山紀齋の盛名を聞いて、郷里の岡山から上京して書生として住み込む若者が続出しました。辻 正子郎<sup>しょうしろう</sup>は13歳（明治30年）で上京、水野浩四は16歳（明治34年）で高山家に住み込みとなり、丁度経営の危機で高山歯科医学院が東京歯科医学院へと移行する時期を、内部からつぶさに見た“語り部”的な存在でした。辻 正子郎が後年——私は血脇先生の命令でよく質屋に行かされて弱った。その事を後に血脇校長に打明けたら“悪い事を覚えている”と言って苦笑せられた——と語ったのも一例です。



辻 正子郎

辻 正子郎は尋常小学校を卒業すると、すぐ岡山市の和田忠歯科医院の書生になり、次に上京して瓜生源太郎に師事し、やがて高山家の住み込み門下生となりました。体格が小さく体重も8貫（30kg）位でしたので瓜生源太郎の鞆持ちをしてついて行くと、まるでカバンが行く様であったとのこと。生来の読書家で頭が良く、徴兵検査前に早々に歯科検定試験に合格したものの若過ぎて、開業免状が下附されるまで1年待たされたこともありました。辻 正子郎が高山先生の門を去った時の事もユニークで、高山紀齋は日曜日には銀座の歯科治療所の書生を自宅に召集して草取りをさせ、夕飯をご家族と共に振舞って食べていたのですが、辻は「高山の書生をしているのは草取りに来ているのではない！」とサッサと出て行ったそうです。

一方、2歳年下の水野浩四<sup>ひろし</sup>は旧藩時代、高山家と水野家は隣同士の士族だった縁故で、高等小学校卒業後明治34年4月に16歳で上京し、高山家に書生として住み込みました。高山紀齋の門下生になると同時に東京神田中学校にも入学、明治38年には東京歯科医学院に入学して明治44年歯科検定試験に合格した努力家でした。書生時代、伏見宮家や毛利公爵家に往診に行く時、人力車で行く高山紀齋の後を水野浩四は治療器具の入った箱を持って併走、治療中は足踏エンジンを踏むのが仕事でした。菊の御紋入りの菓子が出たり、盆暮れに5円の祝儀が出るのも懐具合の淋しい書生には有難く、高山紀齋の相当厳しい修業にも懸命に耐えたそうです。



水野浩四

## —— 最後の高山紀齋門下生 ——

明治40年は日本の近代歯科の歴史上、最も輝かしい最も記念すべき年と言えます。それは永年の宿願であった歯科医師法が血脇守之助らの粘り強い尽力により医師法と同時に発布され、歯科医師の身分・業務・教育・団体の法的な根拠がここにはっきりと確立されたからです。この結果この年に我国歯科界に大輪の花が2つ咲きました。その一つは全国各地の歯科医師会の設立で、さっそく2月に神戸に、ついで4月に岡山と次々と設立された事。もう一つは同年9月12日に出た東京歯科医学専門学校の設置認可です。それからは我が母校の生徒は卒業後は無試験で開業が認可される（明治44年以後）ことになり、これで歯科医師の社会的地位の向上は大きく前進したのです。

全国で2番目に誕生した岡山県歯科医師会 —— 初代会長は高山歯科医学院の講師だったあの和田 忠<sup>ちゅう</sup>でした。2代目はやはり門下生の寺本数衛。次は紀齋の薫陶を受けた野々山勝平、甥の瓜生春太郎、伊木熊男と高山一門が県歯をリレーして繋ぎました。やがて昭和11年にはかつて診療用具を抱えて人力車を懸命に追ったあの水野浩四が会長に就任しました。水野浩四は名前の通り6人兄弟中4男で幼児期より隣家の高山紀齋の東京での名声に心を奪われ歯科医を目指したとのことでした。

まだあどけなさの残る13歳と16歳の時岡山から上京し、高山家の書生として歯科医師となった辻正子郎と水野浩四は、永年苦楽を共にしただけにお互い“竹馬の友”と呼び合い生涯親交があり、語り合ったら半日位は家に帰って来なかったそうです。最後の高山門下生の2人 —— 辻正子郎は昭和51年9月に92歳で、水野浩四は昭和54年1月に93歳で共に他界しました。恩師・高山紀齋が逝去されて実に40余年後まで感謝を捧げつつ修業時代を懐かしみ、お互いを讃え合いつつ長寿を全うしたのです。

## 同窓会の歴史を訪ねて - その1 -

副会長 財部 正治

同窓会創立120周年記念事業を前に、同窓会ではこれまでの道程、特に黎明期の歴史について調査と検証を進めている。その中で、目新しい事実がいくつか浮かび上がり、視察を行った。その一部を紹介する。



図1 阿賀野市立吉田東伍記念博物館

## 1. 阿賀野市立吉田東伍記念博物館

平成26年10月号の会報に「血脇守之助が三条に滞在しなかったら東京歯科大学の血脇守之助は無かった」(阿部晴弘 P15~20)の原稿で、吉田東伍記念博物館の存在が紹介され、以来同窓生に注目されることとなった(図1)。吉田東伍博士は明治40年「大日本地名辞書」を編纂した日本歴史地

理学者で、その業績を記念して建てられたのが当博物館である。吉田東伍は同窓の石塚三郎の後援者であったことから、石塚の遺品も数多く保管されている。

石塚三郎は血脇守之助のもと高山歯科医学院で野口英世とともに苦学を重ね、歯科医術開業試験合格後、母校講師を務めている。その後長岡で開業し、歯科医師法制定・施行に尽力し、また新潟県歯

科医師会初代会長を務め、新潟市内に日本初の歯科病院を設立した。大正3年からは衆議院議員を2期務めており、野口英世がアフリカで殉職した後は、その偉業顕彰に余生を捧げている。石塚は、アマチュア写真家としても草分け的存在として有名で、撮影したガラス乾板がこの博物館に数多く残されている。血脇守之助の経歴を語るにあたりこの写真が非常に貴重な資料となっている。

博物館は磐越自動車道安田インターにほど近い、新潟県阿賀野市保田にある。4月19日、新潟県支部のご協力をいただいて本部理事会で視察を行い(図2)、合わせて館長の渡辺文男氏にご講演をお願いした(図3)。



図2 本部理事会と新潟県支部による視察と渡辺館長の講演会を終えて記念撮影



図3 講演される吉田東伍記念博物館館長渡辺文男氏

石塚の遺した写真原版には、風景、風俗、人物、建造物、乗り物、動物、植物などがあるが、時代を越えて非常に芸術性の高い作品が多い事には目を見張る。これまで大学関連で何気なく見ていた写真も、実は石塚の作品がかなり多いことがわかる。歯科医学資料としても症例写真、治療風景、標本など、貴重なものが遺されているようである。

講演では血脇守之助と、それにかかわる野口英世と石塚三郎の新潟での足跡を中心に解説された。その根拠は石塚の写真のきめ細やかな分析により裏付けられている。写真には人物、場所、時期、時間など多くのヒントが隠されていて、その調査が地道に進められている。

山間の駅のホームでの野口と石塚の記念写真が残っており、これまでの通説では、磐越西線の野沢駅とされてきた。しかし写真分析と現地調査の結果、日出谷駅であることが最近判明した(図4)。この調査には、新発田市で開業されている同窓の佐藤泰彦先生(昭和25年卒新発田郷土研究会会長)

(図5)も協力されており、これは単なる誤りではなく、野口の恩人渡部 鼎(野口の手の手術を施した医師)の出身地での撮影とす



図4 左：野口英世と石塚三郎

大正4年岩越線野沢駅で撮影されたことが定説となっていた(吉田東伍記念博物館提供)

右：現在の磐越西線日出谷駅

山並みが左写真と一致する(渡辺史生「岩越線(磐越西線)日出谷に降り立った野口英世とその親友」吉田東伍記念博物館友の会ウェブ版トピック2014.11 [http://wind.ap.teacup.com/togo/html/oj\\_doc.pdf](http://wind.ap.teacup.com/togo/html/oj_doc.pdf)より引用)



る石塚の演出であったのではと推測されている。この顛末については、平成26年12月17日の新潟日報に詳しく取り上げられている。

人物写真には血脇、野口はもとより、当時日本の中核で活躍していた人物も写しこまれている。その中でいまだ特定ができない人物も多く、それらが今後の調査で明らかになれば、写真の価値がさらに増加し、歯科界の歴史探訪も一層前進するものと期待される。

博物館には、血脇守之助の書簡が2通保存されている(図6)。どちらも血脇の新潟県三条町での動静を具体的に記したもので、極めて重要な資料である。翻字作業、読み下し文、積文作成が施されており、これは渡辺館長と唐橋久美子氏の努力によるものである。

歯科界とは全く無縁のように思われる歴史地理学者を記念した小さな博物館であるが、血脇、石塚など黎明期の歯科界を、特に東京歯科大学の歴史を深く知ることのできる情報を持つ貴重な施設である。今後、吉田東伍記念博物館、野口英世記念館、および新発田郷土史研究会が連携して、さらなる



図5 補足説明する佐藤泰彦先生

成果が得られることを期待したい。

博物館に近接した瑠璃光院に石塚の墓があり(図7)、佐藤泰彦先生と小見 顕先生(昭和56年卒新宿支部 実家が瑠璃光院に近接)(図8)のご案内で、一同お参りさせていただいた。(資料使用に対する許諾 写資No.150509)

## 2. 高山歯科医学院跡と高輪万清楼跡

地下鉄白金高輪駅から魚籃坂を上り、頂上に伊皿子交差点がある。これを渡った左側が高山歯科医学院の跡地である(図9)。現在ではファミリーグラン伊皿子坂という大きなマンションとなっている。交差点の傍らには「歯科医学教育発祥の地」の石碑が立ち(図10)、碑文には高山紀齋が明

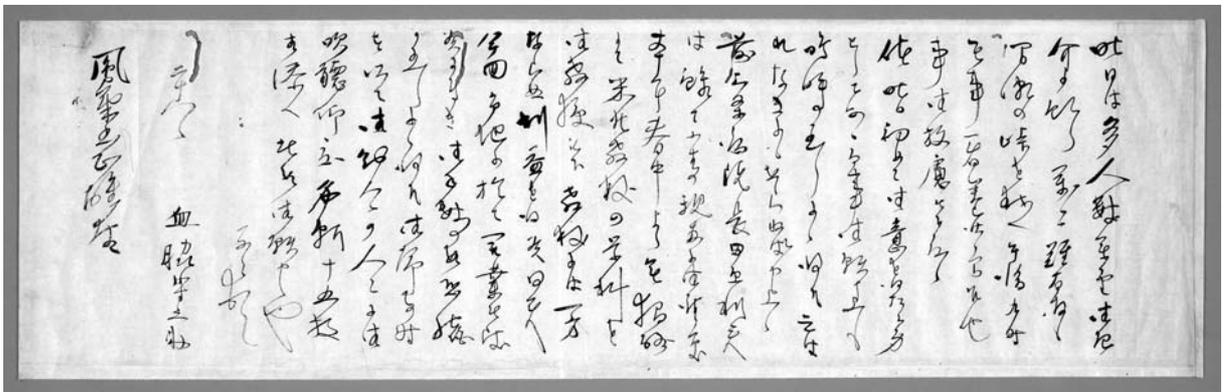
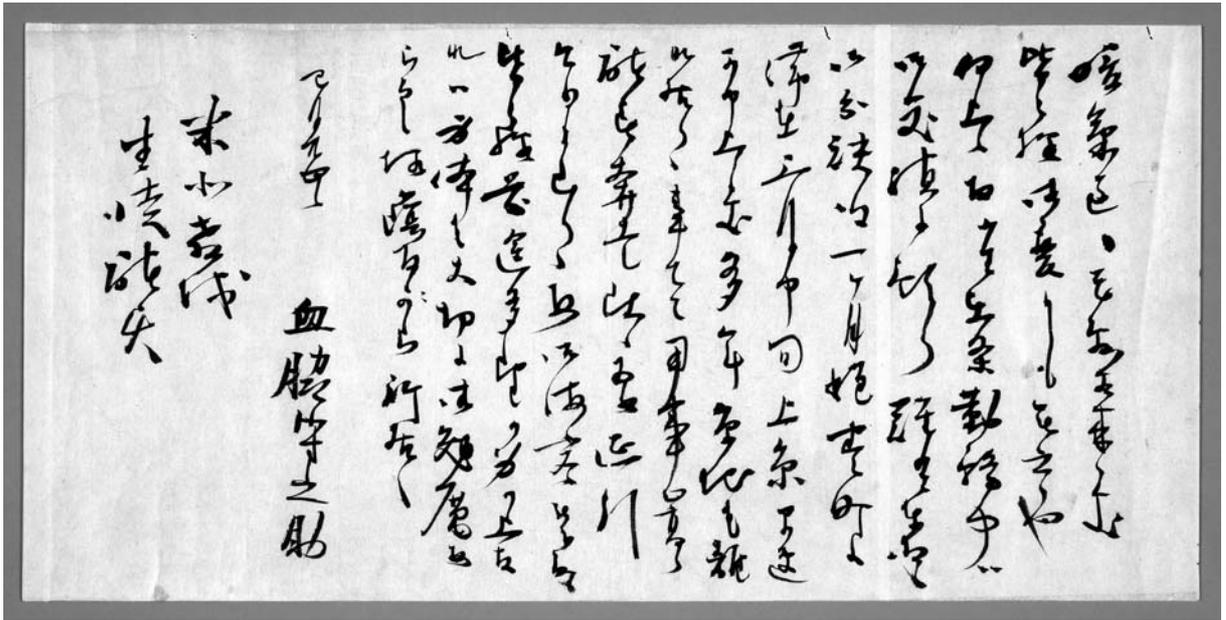


図6 博物館に遺る2通の血脇守之助の書簡。上は北米教校生徒諸君に、下は風氣至正雄に宛てたものである  
(吉田東伍記念博物館提供)



図7 石塚三郎の墓



図8 ご案内いただいた小見 顕先生



図9 高山歯科医学院の跡地には大きなマンションが建つ



図10 伊皿子交差点の傍らにある「齒科医学教育発祥の地」の石碑。高山歯科医学院が唯一偲べる

治23年にわが国最初の歯科医学校を設立したことが記されている。道は下りとなり伊皿子坂と名を変え、S字状にカーブしながら右手に泉岳寺を見て、やがて第1京浜国道にT字路で交わる。この交差点手前右側に高輪ホワイトマンションがあり、ここが万清楼の跡である(図11)。

万清楼は明治28年6月、高山歯科学院院友会が行われた、そして同窓会が産声を上げた場所である。にもかかわらず、実は所在地は最近まで特定できなかった。数年前、同窓会からの依頼を受けた近藤 保先生(昭和48年卒・芝支部)が調査を繰り返し、ある日港



図11 JRを背に第一京浜国道から泉岳寺方向を望む。泉岳寺交差点を渡った左側に万清楼があった

区内の図書館で偶然にも万清楼の子孫の方と邂逅し、大きな成果を得ることとなった。「温故知新万清楼を訪ねて」第1回高山歯科回学院医学院院友会（現東京歯科大学同窓会）明治28年）6月16日於芝高輪料理茶屋「万清楼」同窓会報27年2月号P12～15)

その後、当日の天候や献立までも明らかにされたことには頭が下がる。

この場所は海岸に沿った東海道の面し、泉岳寺の入り口である。明治28年にはすでに東海道と海岸線の間に鉄道も敷かれており、鉄道唱歌「右は高輪泉岳寺四十七士の墓どころ…」にあるように、汽車の車窓から泉岳寺とともに、万清楼も見えたに違いない。

近くには旧高松宮邸、東京都指定旧跡「大石良雄外十六人忠烈の跡」、同「旧細川邸のシイ」などもあり、散策にも心地よいところである。

### 3. 東京都慰霊協会 復興記念館

平成26年に発行された岡山県支部の会誌に高山紀齋の胸像について詳しく記載されている。（－岡友会の歩み－高山紀齋先生の銅像について（その1） 会誌29／2014東京歯科大学同窓会岡山県支部）

明治43年、高山紀齋60歳の誕生



図13 復興記念館の高山紀齋胸像（復興記念館の許可を得て撮影）

日を記念し、東京歯科医学専門学校で氏の銅像の除幕式が行われた。この胸像は朝倉文男の作品で、母校の白山通りに面したところに設置されていた。大正12年9月1日の関東大震災により、水道橋の校舎は焼け落ち、胸像も大きく破損した。その後、胸像の残骸は震災の遺品として東京・両国の復興記念館に陳列されている、との記述がある。

東京・両国の復興記念館は蔵前橋通りと清住通りの交差点にある（図12）。岡山県支部の情報に従い、当記念館を視察したところ、高山紀齋の頭部の溶解した胸像が「東京歯科医学専門学校寄贈 本品は本校創立者高山紀齋氏の胸像にして大震当時基礎台より墜落破壊せし後校舎の火災と共にその一部を熔解せられたるものなり」の立札と共に、数々の震災遺品の中に展示されていた（図13）。同館調査研究員の方に話を伺うと、この胸像が高山紀齋のものであるこ



図12 震災復興記念館



図14 胸像前の血脇守之助と野口英世（大正4年）

とは承知しているものの、頭部がどのような顔であったか、またこの胸像に秘める歴史についてなど、ほとんど情報がない様子であった。

岡山県支部会誌を示したところ、胸像前に血脇守之助と野口英世が映っている写真（図14）を、胸像と共に展示したい旨の申し入れがあった。これが実現すれば記念館ばかりでなく、大学や同窓会にとっても有意義なことである。現在、この写真が胸像と共に展示されるよう、手続きが進んでいる。

我々のすぐ身近に同窓会の歴史を偲ぶことのできる場所がある。120周年を迎えることでこのような場所を巡ることにより、過去に目を向けながら、合わせて同窓会の将来を考えることも一興かと思われる。

## 同窓会の歴史を訪ねて - その2 -

広報部・副委員長 福井 雅之

### 「野口英世記念館」

東京ではすでに桜の見頃が過ぎてしまった4月中旬の週末、理事会が企画した福島県の「野口英世記念館」視察に同行させていただきました。

### 凱旋帰国から100年にあたる年

平成27年は、野口英世が15年ぶりにただ一度日本に帰国したときから100年にあたる記念する年という事で、縁のある地域ではイベントも開催されているようです。視察した記念館もこれにあわせて4月にリニューアルオープンしていました。



当時と同じ場所にある生家

英世が1歳半の時に落ちて火傷を負ってしまった囲炉裏や上京の際に床柱に刻んだ決意文も当時の姿のまま残されています。



ライフスタイルは新しもの好き

記念館には米国での生活を想像することができる品々も多数展示

されています。新しもの好きな英世は米国でも当時珍しかったであろう品を友人、恩師に贈っています。写真の展示品はシャープペンシル、ティファニー社製の懐中時計、名刺と名刺入れ、デンタルフロスを贈った友人から片手が少し不自由な英世の為に片手用のフロスが贈られ、愛用していたようです。

### 血脇守之助先生と野口英世

高山歯科医学院の講師として勤めていた英世は、明治31年に血脇先生が清国へ出張診療している間「歯科学報」の編集を同僚と共に携わり、英世が渡米後も論文を投稿しました。



渡米後も歯科学報に投稿

理事の方々が熱心に見ている写真は凱旋帰国の日程を終え、帰米する日に佐渡丸船上にて撮影された写真を元に作られた等身大パネルです。



このパネルには野口英世の人生を決定付けた大恩人の3人（手の手術をした渡部 鼎、血脇守之助、小学校時代の教師の小林 栄）と生涯の友人で前述の歯科学報を共に編集し多くの写真を撮影して残した石塚三郎（新潟県歯科医師会初代会長、野口記念会理事長）が揃って撮影されている貴重な写真をパネルにしてありました。血脇先生が野口英世にとっていかに計り知れない恩人であったかがこのパネルでもうかがえます。



高雅学風千古に徹す

米国の別荘では書画も書いていたそうです。写真上の書は関東大震災で東京歯科大学専門学校も壊滅的打撃を受け、血脇先生を陣頭に立ちあがる教職員・学生を勇気付ける為に書かれたもので、震災翌年の大正13年に米国から学校に送り届けられ「高雅で気高い学風は決して失われることなく、永遠に続くであろう」という意味です。

血脇先生と深いつながりがあったという眼でこの記念館を見て回ると、英世の生涯を物心両面で支え続けた血脇先生とそれに応える英世の思いも伝わってくる記念館でした。

## 血脇イズムへの誘い

広報部委員 西村 哲雄



生誕の地我孫子にある血脇先生謝恩之碑

血脇守之助の少年時代は穏やかで丁寧そして真面目であり優秀であった。学院長になってからもニコニコとした笑顔でうんうんと人の話を聞き、誰からも好かれた。生活はとても質素なのだが、とにかく酒好きで旅中では朝、昼、晩だけでなく寝酒も嗜み終生、盃を離さなかった（熱燗が好きで口唇を突出し独特の飲み方をしていた）。酒を飲んで醜態をさらすことは決してなかったのだが宴会で偉い人がいようとかわまずやる余興があったが天性の魅力のある血脇を不快に思う者はいなかった。そして生来読書が趣味であったので、経済学、四書五経、易学にも通じていた。血脇という人物は大膽な感じだが実に繊細で人情味のある人柄であったようだ。晩年に「私は天の刻（タイミング）地の

利（自分の能力）人の和（人を引き付ける器）を得て何とかやってきた」と言っている、天地人に翻弄されながら、がむしゃらに生きてきた人ならではの言葉なのだろうか。血脇先生の天地人を探り薄れゆく軌跡をたどり、血脇イズムの真髓に思いを巡らしてみたい。

### 人の和

血脇が生まれたのは、明治3年2月1日で、昭和22年2月24日77歳で亡くなっている。この明治という時代は武家社会から近代日本に向け世界でも類を見ないほどの飛躍をした時であった。新しい時代に武士達も西洋文化を取り入れるべく大海を渡り新しい技術を日本に持ち帰った、高山紀齋もその一人であった。だが民衆にも学問をすれば貧しい生活から抜け出し

志を持った人生を送ることができるという思想が徐々に広まり始めていて、さらに才能を持ったものを世に送り出してやろうという気運もあった。この時代背景が血脇の才能を高く評価し学問の道へと血脇を進めたのだ。血脇は明治14年慶應義塾幼稚舎に入学、その後やめ、東京英学校入学、疥癬にて帰郷、明治16年明治英学校入学、明治17年進文学舎に転入、同年、共立学校転入、明治19年大学予備門第一高等学校の受験失敗、大成学舎に入学、大腸カタルにて帰郷、明治19年慶應義塾入学、明治22年慶應義塾を卒業、その後、新聞記者となるもケガにより4ヵ月で退社、次に我孫子に新聞販売店を熊さん（島根熊吉氏、後に本校小使取締、最初の学葬となった人物）を配達人として雇い開店、しかし同業者の抗議により和解金を受け取り3ヵ月で廃業、明治23年1月新潟の英語教師となった。ここまでの血脇の人生は紆余曲折し、苦勞をしていた。

教師をやっていた時「一般家庭の子弟も教育を受けられるようにしたい」と進言したことがあった。慶應にいた血脇もその教えを継承し、広く才能のあるものを見出し学問を広めた。しかし、血脇の求めるものは教職には見いだせないでいた。そんな時ドクトル田原 利に出会う、ドクトルとは馬が合った。田原は「酒は飲めません」という血脇を毎晩酒宴に連れ出し、血脇も身だしなみにも気

を配るようになった。田原は血脇に大いに影響を与えた。そんなある日、洋式歯科医の記事を見て「これなら独立して金を得ることができる」と思いつき田原に相談すると「歯科医の地位はまだまだ低いが日本歯科医界を導くのは君のような高潔な人物でなくてはならぬ」と血脇の背中を押した。明治26年2月、血脇守之助24歳で上京し歯科医界の大海原に漕ぎ出したのであった。

血脇と高山もまた運命の糸で結ばれていた。上京すると学友中条誠一郎と偶然出会い彼の友人、森山松之助を紹介された。彼は高山夫人の実弟（彼は将来水道橋校舎の設計をすることになる）であった。当然の如く血脇は高山歯科医学院に入学した。するとその英語力と才能を買われ学生的身で幹事となった。ここでも血脇は学生や講師に慕われた。特に年長の講師であった榎本積一、遠山椿吉は二人とも血脇を助け心を通わせた。榎本は日本歯科医師会の前進日本聯合歯科医会初代会長になった人物で、遠山椿吉は帝国医科大学国家医学科を卒業し明治24年に

東京顕微鏡検査所を一脚のテーブルと一台の顕微鏡から現在の東京顕微鏡院を作り上げた人物であった。

明治29年、歯科医となった血脇に会いに田原利が東京を訪れ久しぶりの再会となったこの頃血脇の懐はまださびしかった。案じた田原に勧められ会津若松の旅館で巡回診療を行った。ここで血脇は、渡部鼎の書生野口清作少年と出会った。後に血脇は「男が男に惚れるというのは全財産を費やしてしまうことだ」と言って野口を支援し続けることになる。学業を怠る生徒に厳しくする一面もあった、血脇にひどく叱られ寮の退去を命じられた生徒がいた。だが彼は心を入れ替え真面目に勉強したが病に倒れる、血脇はすぐに見舞いに行ったが彼の病は手遅れであった、彼の絶句は「血脇先生に伝えてほしい…とても厚いご恩になった…」石塚三郎は血脇に「何の事でしょう」と尋ねたが語られることはなかった、しかし、血脇の温情は多くの学生が知るところであり、血脇の家族主義を肌で感じていた。血脇は学生と深く

心を通わせ優秀な学生を輩出していった。

## 地の利

高山歯科医学院の経営は全くうまくいっていなかった、明治23年に高山紀齋が開校したがその経営は苦しく最初は生徒7人教師9人であった、高山は宅地と屋敷を買い入れたが、維持が難しく非常に苦しんで月々相当の借金をしなければならなかった。血脇は自ら高山に申し出て自分に学院の経営を任せるよう迫った、経営の立て直しに心血を注ぎたかった。だが、清国からの親善巡回診療から帰る頃「新天地台湾で歯科医療の普及をしたい」という考えが頭の中を巡っていた。血脇は高山に辞表を提出するが高山は「血脇君は自分から経営をしようと言いつたのではないのか、君が辞めては困る」と引き留めたが血脇の意思は固かった。高山は「君が辞めるのなら廃校とする」と言い出し、さすがの血脇もこれには驚き辞表を撤回するが結局、高山歯科医学院を引き継ぐ事となる。しかし、高山より譲られたのは歯科医学院



左：東京顕微鏡院，右：同講堂（神田小川町）明治29年（写真提供：一般財団法人東京顕微鏡院）



震災で倒壊した校舎



震災後の仮校舎

の権利、ランプ6個、机14脚だけであった。しかし、ここでも血脇は天性の能力を発揮し、さらに高山から受け継いだ人脈が彼を救った。校舎は遠山椿吉の顕微鏡院を夜間使用しない時に借用することができ、講師陣も確保できた。東京歯科医学院と改名し遂に血脇イズムを浸透させる時がきたのである。明治33年2月12日、来客200名生徒13名という東京歯科医学院の船出であった。血脇院長は歯科医の地位向上と若者の人材育成に情熱を傾けた。そのために必要な歯科界全体の学力向上、対外的な活動、政治活動も精力的に行った。こんなエピソードがある、代議士小川平吉（帝国大学卒業弁護士、宮沢喜一の祖父）が血脇の演説に「何だ！血脇は歯科医のくせに」と冷評をあげた時、すぐさま血脇は立ち上がり小川の頭を強かに殴りつけた。温厚な血脇がここまで怒ったのは歯科医の地位向上に真剣に尽力し高いプライドを持っていたが故であろう。

### 天の刻

東京歯科医学院の経営を安定するために血脇歯科医院の看板を揚げた。校舎は顕微鏡院の教室であったが入学希望者はみるみる増

加し50有余名となり、明治33年4月21日には東京歯科医学院の第一回、通算6回目の卒業式を行うことができた。顕微鏡院の生徒も増えてきたため教室を明け渡す必要に迫られた。そこで三崎町の大成中学の教室を夜間使用できるようにしたが、血脇は日々校舎の問題で苦慮していた。そんな折、血脇診療所の隣の土地を買わないかという話が持ち上がり、金策に奔走し、なんとかその土地を手に入れることができた。明治34年1月、自前の校舎を手に入れることができた。この移転とともに3月の新入生は129名と飛躍的に増加した。

血脇は批判もされたが、優秀な人材にはお金を惜しまなかった、野口英世は渡米熱にかられ、結婚詐欺的に婚約者の親から渡米費を巻き上げその金を遊里で使い果たしてしまった。血脇は仕方なく高利で借金をして野口を横浜港から送り出した。また区画整理で得たお金で借金を完済し残りのお金を奥村鶴吉の留学費に当て少しばかりの残ったお金は電話を引くのに使ってしまった。血脇の経営は将来の栄光だけを目標に苦しい経営を続けていた。

明治38年改装工事に続き校舎、診療、自宅と新築され、明治39年

4月8日、落成式を挙げた。この時初めて寄付金が集められたが、その後はまだ学院が血脇の私有財産であったので寄付は断った。

明治40年9月12日待ちに待った専門学校の設置が認可された。同年11月3日東京歯科医学専門学校が誕生した。臨時総会で校名変更に伴う同窓会名の変更および在学生を同窓会籍から除く件が承認された。それまでは在学生は入学と同時に同窓会に入会していたが、学生会が発足し学生が脱退した、現在90年ぶりに学生を準会員として迎えることは大変喜ばしい。

明治43年2月1日血脇の誕生日に文部省より明治44年以降に卒業した者は医術開業試験に合格せずとも合格を許される事となった。大正8年には拡張基金の募集を開始したが、その前に本校財産すべて（総額45万6千4百6円5銭、現在の価値で5億円以上）を寄贈し財団法人とする事とした。大正10年には学校改築の視察及び欧米との親交の外遊に出発した。血脇は日本の歯科医としての誇りを胸に旅立ち、米国では大統領にも表敬訪問し偉業を成し遂げていった。

## 天地人

大正11年に鉄筋コンクリート三階建て校舎も使用始めたが、矢先の大正12年9月1日関東大震災に見舞われた。血脇は神奈川県下曾我に新しく購入した別荘で家族と過ごしていたが上下の振動とともに家はべしゃんこになり、血脇は家族もろとも家の下敷きになった。二男芳雄に助け出され家族全員なんとか無事であった。4日間余震があり竹やぶで過ごし荷車を借りて食料を積み徒歩で東京に向かった。自宅は無事であったが、大学は焼け金庫とコンクリート3階建の残骸だけが残った。また無からの船出となるのだった。しかし血脇は九死に一生を得た命で「やらねばならない」と自分を奮

い立たせた。9月からは慶應義塾医学部の教室を借り授業を再開した。ここからの血脇はすごかった、天の刻、地の利、人の和を得、その能力を遺憾なく発揮した。震災から7年後の昭和4年11月2日、歯科の殿堂、新校舎の落成式を迎えた。血脇はこの奇跡の日に「死ぬ気でやればここまでできるのだという見本を見せたかったのです。歯科の殿堂ができればよいのであって、私はもう死んでも構わないと思ったくらいでした」と語っている、この費用の大部分が校友の寄付であった。これは、我が校の家族主義、血脇の人望と生徒や職員に対する愛情のなせる業であり、歯科医学の発展、地位向上へのたゆまぬ努力があっ

たからなのだ。それが血脇イズムであり、校舎は血脇イズムで作られていたのだ。そして現在も血脇イズムは実習、学ラボ、先輩との飲み会、講習会、同窓会、校歌で継承されているのだ。血脇イズムは東京歯科大学の校風そのものであり、暗い、真面目、商売下手、などと揶揄する輩もいるが、それこそ東京歯科のカラーであり誇りなのかもしれない。高山先生の武士の精神、福澤先生の心訓、それを継承した血脇先生の一生懸命、真面目、歯学愛、家族主義その融合こそが東京歯科大学魂、血脇イズムなのだろう。同窓会120周年に向けて益々この気運を盛りあげ継承していきたいと思う。



歯科の殿堂（水道橋校舎）

## 「野口英世は死なず ～永遠のノーベル賞候補 最後の帰国から100年～」

UX 新潟テレビ21で、血脇守之助・石塚三郎両先生が紹介されました

常任理事 小池 修

平成27年5月2日（土）16：30～17：25、新潟県内でUX新潟テレビ21（テレビ朝日系列）にて「野口英世は死なず ～永遠のノーベル賞候補 最後の帰国から100年」という番組が放送されました。今からちょうど100年前の1915年9月5日、野口英世が15年ぶりに日本に凱旋帰国しました。これを記念してこの番組が企画されました。野口英世が世に出るために尽力した人々、特に本校の血脇守之助および石塚三郎の両先生がどのように野口先生と関わったかを詳細に明らかにしています。

東京歯科大学および東京歯科大学同窓会は、血脇・石塚両先生の功績をより広く知っていただくチャンスとなるこの番組の意義に賛同し、協賛をしました。新潟県内だけの放送だったのは残念ですが、11月29日の120周年記念祝賀会の記念品として番組を編集した「血脇守之助物語」のDVDを作成中ですので、ご期待ください。

それでは、番組の概略をご紹介します。

野口英世の母シカを、ランプの光の下撮影する石塚三郎。石塚は、写真を添えて帰国を促す手紙を野口に送ります。野口は、母シカの手紙と共にこの写真を見て15年ぶりの日本帰国を決意します。

ここでレポーターを務める三田村邦彦氏が登場し、三人の人物を紹介します。一人目は野口

英世（演じるのは新潟在住 昭和61年卒の常木哲哉先生）で、石塚の申し出で新潟と長岡での講演を行ったと語ります。次に血脇守之助が登場し、越後に英語教師として赴任した時に歯科医師という職業を知り、これを指すこととなりました。野口とは会津に出張診療に訪れた際に初めて出会い、上京したら訪れるよう話をしたとのこと。最後は石塚三郎で、野口と高山歯科医学院時代に起居を共にし、友人として生涯を過ごしたとのこと。写真家としても著名であり、帰国時の野口に同行して撮影し記事を表し、国内でその業績を紹介しました。

三田村氏の案内で、福島県猪苗代町にある今年4月にリニューアルオープンした野口英世記念館が紹介されます。野口の生家をはじめとして、野口ゆかりの品々が時代に沿って展示され、その生涯と業績をくわしく知ることができま



野口、母シカの再会シーン

す。中でも母シカの手紙の実物が見られ、朗読のナレーションが流れます。さらには細菌学の意義と発展の流れがわかりやすく学べます。

次に東京歯科大学水道橋校舎に移り、野口が関東大震災の後にニューヨークから大学の激励のために送った「高雅学風徹千古」の書と、学僕時代に授業の開始と終了を知らせるために鳴らした鐘など興味深い品々が紹介されます。

血脇と会津で知り合った野口は上京し、新潟県長岡市出身の長谷川 泰が創立した済世学舎で



野口英世



ナレーター役の三田村邦彦さんの大学来校スナップ

医学を学んでいましたが、生来の金銭にルーズな性格が災いし生活費を使い果たして高山歯科医学院の血脇を訪ねました。血脇は何か学僕として寄宿舎に潜り込ませることにしました。ここで石塚と知り合い起居を共にし、生涯の友となりました。医術開業試験に合格すると、北里柴三郎の伝染病研究所に勤務し、細菌学の研究を開始しました。その後、横浜の検疫所でペスト患者を発見するという大きな功績を挙げました。これが評価されアメリカ留学が決まりますが、その直前に渡航費用を使い果たしてしまい、血脇のもとに駆け込んできました。この時のことを高添一郎名誉教授が「絨毯を売り、高利貸しまで使って渡航費用を工面して、獅子がわが子を谷底に突き落とす心境で送り出したろう」と語っておられます。



高添先生のインタビューシーン

ロックフェラー研究所で大きな研究成果を挙げていた野口ですが、1915年生涯一度の凱旋帰国を果たします。日本各地で講演を行った野口は、再渡米前に石塚の誘いにより新潟大学医学部で講演を行い、翌日には長岡市の北越新報社と長岡病院を訪れました。新潟県阿賀野市の吉田東伍記念博物館には、石塚三郎が口述筆記し北越新報社に掲載した野口の生い立ちからの半生を綴った記事のスクラップが保存されています。この記事がその後の野口英世の伝記の元本となりました。また当時の世相を映した約3,000枚のガラス乾板も収蔵されました。石塚は野口の新潟講演を写真と共に記録に残し、後世に伝えることを大きな目的としていたと考えられます。

血脇守之助は1922年歯学教育制度視察のため渡米し、野口と再会

します。野口の計らいでハーディング米大統領を表敬訪問し、野口の後見人として紹介されました。野口は「血脇さんの恩義を忘れたことはありません。そして恩義の帳消しはありません。」と語り、米国滞在中は付き切りでお世話をしました。

石塚三郎は国会議員も務め、また野口英世記念会の理事長に就任しその顕彰に尽力しました。当時学生時代に石塚三郎邸に下宿していた佐藤泰彦先生（昭和25年卒新潟在住）は「世話好きな好々爺で多くの来客があり、にぎやかでした。それでいて、自らを律し静かな生活をされていました。」と語られました。

野口英世は帰米後黄熱病の研究に打ち込みますが、黄熱病に罹患し道半ばにしてガーナにて死去します。51歳の若さでした。

野口の死から25年後の1953年、石塚は「わが友 野口英世」を出版しました。石塚三郎により撮影されたのは世界に羽ばたいた野口英世、その生涯最良の日々でした。これは未来へと引き継がれる近代日本の記憶となったのです。

（写真提供 UX 新潟テレビ21）



血脇守之助先生と野口英世

## 祝賀会ゲスト「オペラユニット“レジェンド”」にご期待ください!!

120周年記念祝賀会では、オペラユニット“レジェンド”にご出演いただくことが決定しました。

そこで、矢崎会長以下5名にてご挨拶とともに東京オペラシティコンサートホール「レジェンド グランドコンサート2015 oh! Bravo!! 素晴らしき人生に乾杯!」に行ってきました。

オペラ…というと、どうも格調高く、私には遠い世界のような感じがして、ちょっとドキドキだったのですが、ダイナミックな歌唱スタイルはもちろんのこと、MCも楽しく、客席とステージが一体となったクラシックコンサートの常識を覆すステージパフォーマンスは聴き応え見応え十分の素晴らしいものでした。

「レジェンド」は2006年結成、百田尚樹氏のベストセラー小説を歌にして送る「永遠の0」で2011年にメジャーデビューした、5人のオペラ歌手による日本初の男性5人組ボーカルグループで、母校昭和44年卒業の内田智幸先生のご子息：内田智一氏（写真：後列向かって右から3人目）がバリトンを担当されています。

ちょっと見強面なイケメンから繰り出されるのは意外にも透き通るような声、甘いマスクに口髭を蓄えた内田先生ご子息はズンズンと響くような心地よい低音、みごとに調和のとれたユニットはとても心地よく響きました。

美しい歌声と、軽やかで楽しいMCで、2時間があっという間に過ぎてしまいました。

コンサート終了後には、マネージャーさんの計らいでレジェンドの方々と一緒に写真撮影をさせていただきました。

この素晴らしいユニットが、120周年記念祝賀会で新しいエンターテインメントと歌声を披露してくれます。そして母校の校歌を歌ってくれるかもしれないと思うと、今からワクワクです。

皆さん、祝賀会でのレジェンド…楽しみにしててくださいね!

♪ レジェンド公式サイト：<http://www.opera-legend.jp/index.html>



## 創立120周年を祝して開催される親睦ゴルフ大会に是非ご参加ください

会長 矢崎 秀昭

本年、同窓会は記念すべき創立120周年を迎えることとなりました。本学の同窓会は血脇守之助先生により、生涯にわたる歯科医学の研修と、共に助け合い、多くの交流により豊かな人間性を育むために、明治28年に創設されました。

この血脇先生のご精神である同窓の親睦を図るために、多くの先輩方の多大なご努力で、今日まで長年にわたり同窓会主催全国ゴルフ大会が開催されてきました。

本年のゴルフ大会は、血脇先生が全国の同窓の絶大なる支援により、関東大震災後に建築された旧水道橋校舎が完成した昭和4年に開場した、名門の霞ヶ関カンツリー倶楽部で平成27年9月3日(木)に開催されることとなりました。

さらにこの霞ヶ関カンツリー倶楽部は2020年の東京オリンピックでゴルフ競技が行われることが予定されています。東京オリンピックをより楽しむた

めにも、コースの下見を兼ねてプレーして戴ければと思います。

本年11月29日に開催される創立120周年記念会をより盛り上げるために、お一人でも、各支部、クラス会、各クラブの会、各講座の会など、皆様お誘い合わせて是非ご参加賜りますようお願い申し上げます。



-----キ---リ---ト---リ---線-----

### 第43回 同窓会主催全国ゴルフ大会申込書

所属支部名 \_\_\_\_\_ 氏 名 \_\_\_\_\_ 卒業年度 \_\_\_\_\_

住 所 〒 \_\_\_\_\_ TEL ( \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_ ハンディキャップ  
(プライベートでも可) \_\_\_\_\_

通信欄

参加費7,000円を添えて申し込みます。

## 同窓会創立120周年記念 第43回同窓会主催全国ゴルフ大会ご案内

第43回ゴルフ大会は、東京オリンピック、ゴルフ競技の舞台となる埼玉県霞ヶ関カンツリー倶楽部東コースにて開催いたします。

当コースは昭和4年開場の日本を代表する名門コースで、数々のビッグトーナメントの舞台として有名です。

会員各位には奮ってご参加をお願いしたくご案内申し上げます。

開催日時 平成27年9月3日(木)  
会場 霞ヶ関カンツリー倶楽部 東コース  
〒350-1175 埼玉県川越市笠幡3398  
TEL 049-231-2181  
FAX 049-231-4528  
交通 車利用 関越自動車道(圏央道)  
圏央鶴ヶ島インター約5km, 約8分  
電車利用 西武新宿線・狭山市駅下車  
クラブバス約15分  
競技方法 18ホールストロークプレイ  
(ダブルペリア方式)  
参加費 7,000円(含パーティー費、賞品代)  
その他は個人払いとします。  
募集人数 140名(先着順)  
申込期間 平成27年7月14日まで

申込先 東京歯科大学同窓会ゴルフ大会係宛  
〒101-0061

東京都千代田区三崎町2-9-18

TEL 03-5275-1761

申込方法 参加申込書に所定事項記入の上、参加費7,000円を添えて、現金書留封筒にてお申し込み下さい。クラス会単位、その他のコンペ同時開催等による一括申し込みの場合も、申し込み時に必ず全員の参加申込書と参加費をそえて下さい。なお、電話での受付はいたしません。

追記 本大会についての詳細は大会実施要項として参加申し込み手続き終了の方に直接お送りいたします。

その他ご質問お問い合わせ等は下記委員にお願いいたします。

中野正博 TEL 03-3862-6480

◎宿泊 下記に各自お申し込みください。優待等はございません。

・川越プリンスホテル

〒350-8501 川越市新富町1-22

TEL 049-227-1111

FAX 049-227-1126

交通事情をご考慮下さい。



## 同窓会創立120周年記念 囲碁大会のご案内

囲碁は老化防止に最も適した趣味のひとつとして医学的にも証明されているようですが、囲碁がお好きな同窓各位におかれては健康維持に囲碁を活用し楽しんでいただいていることと思います。

此の度、矢崎秀昭同窓会会長のご好意により同窓会創立120周年の記念行事のひとつとして、このところ少しお休みをしていた全国同窓囲碁大会を開催することになりました。今回は囲碁を楽しむのがモットーなので、棋力に関係なくなつかしい顔ぶれも含めて全国同窓各位の多数の参加を期待しお待ちしております。

また同時に翌日の記念式典・祝賀会への参加も併せてお願い致します。

大会実行委員長 高橋 一 祐

開催期日：平成27年11月28日（土）（記念式典前日）

午後1時30分試合開始～午後5時30分終了予定

会場：日本棋院（市ヶ谷）2階

TEL 03-3288-8840

受賞：平成27年11月29日（日）

東京ドームホテルの記念祝賀会の席上で行なわれます。

大会参加費：5,000円（当日受付で）

申し込み期日：平成27年10月末日まで（FAX または電話で）

申し込み先：〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

東京歯科大学同窓会事務局

TEL 03-5275-1761

FAX 03-3264-4859

または、高橋一祐

TEL 03-3873-6659

FAX 03-3871-4180

### 囲碁大会申込書

氏名 \_\_\_\_\_ 卒業年度 \_\_\_\_\_

住所 〒 \_\_\_\_\_

TEL ( \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_

FAX ( \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_

棋力 段位 \_\_\_\_\_

級位 \_\_\_\_\_

通信欄

「同窓会創立120周年記念フォーラム」  
(第3回社会保障制度研究会)

『これからの社会保障政策と歯科医療の展望』

社会保障制度研究委員会は、第1回「2025年問題を考える」武見敬三参議院議員、第2回「医療経済学と歯科」川渕孝一東京医科歯科大学大学院教授と社会保障の基盤になる題材で研究会を開き多くの会員にご参加いただきました。

今回は、同窓会創立120周年記念フォーラムとして、国の社会医療政策の中心にいる厚労省社会保障審議会医療保険部会長の遠藤久夫教授（学習院大学）に「現在の社会保障制度の状況と将来の政策」について基調講演をいただき、同窓の先生方を交え「それに係わる歯科のあり方」についてパネルディスカッションをしていきます。歯科の明るい未来を勝ち取るには、今何をしなければいけないのか、貴重なヒントがそこに。

開催日時：平成27年9月13日(日) 午後1時30分～4時40分

開催場所：水道橋校舎本館14階 大会議室

## 第300回東京歯科大学記念学会・総会に出席しましょう

同窓会創立120周年記念事業として記念学会・総会に協力しています。記念講演では宇宙開発での第一人者であり未来に大きな夢を広げる川口淳一郎教授（JAXA宇宙航空研究開発機構）から「小惑星探査機はやぶさ」にまつわるお話をうかがえます。そして午後

のシンポジウムでは「2025年問題の向こう側」をテーマに厚労省保険局局長である唐澤 剛先生をはじめ臨床、病院、そして大学からと素晴らしいプレゼンターをお招きしています。

また10月17日（土）の午後、長年にわたり同窓会の常任理事と

してもご尽力賜わっている、理工学講座の河田教授を始め、3名の方の特別講演もあります。

東京歯科大学の学会ならではの特別企画です。素晴らしい明日、そして2025年の向こうに広がる可能性も見えてきます。この機会をできるだけ多くの同窓の先生方にも参加してもらえよう、会員非会員を問わず同窓の当日会費を無料にいただきました。同窓で会場がいっぱいになるよう、是非クラスメートや先輩後輩にもお知らせください。

さて同窓会と学会とのつながりですが、もちろん母校の学会ということはありますが、学会機関誌の「歯科学報」は、明治28年10月同窓会の起源となる高山歯科医学院院友会の機関誌「歯科医学叢談」として創刊され、明治33年に同窓会の機関誌として「歯科学報」に改題し、その後東京歯科大学学会の機関誌となった歴史を持っています。この歴史は母校と同窓会とが如何に一体であったかを物語っており、その心は今でも引き継がれていることが分かります。昭和9年5月14日に第一回の学会が開催され、その後80有余年の歳月をへて記念すべき第300回目の開催を迎えます。同窓の先生方も学会に参加され、この歴史と伝統に対し敬意を払うとともに祝いたいと思います。

予告

# 第300回

## 東京歯科大学記念学会・総会

東京歯科大学同窓会創立120周年記念

**開催日：第1日目 平成27年10月17日(土)**  
**第2日目 10月18日(日)**

**場 所：東京歯科大学水道橋校舎 新館**

**構成：第1日目** 午前の部 一般口演・示説  
 午後の部 特別講演

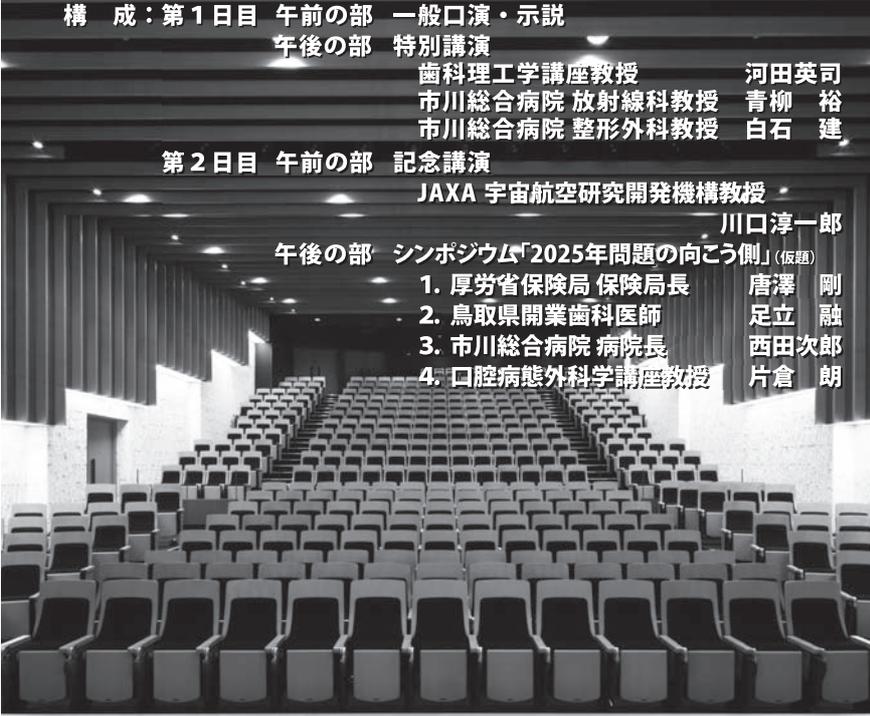
**第2日目** 午前の部 記念講演

午後の部 シンポジウム「2025年問題の向こう側」(仮題)

歯科理工学講座教授 河田英司  
 市川総合病院 放射線科教授 青柳 裕  
 市川総合病院 整形外科教授 白石 建

JAXA 宇宙航空研究開発機構教授 川口淳一郎

1. 厚労省保険局 保険局長 唐澤 剛  
 2. 鳥取県開業歯科医師 足立 融  
 3. 市川総合病院 病院長 西田次郎  
 4. 口腔病態外科学講座教授 片倉 朗



東京歯科大学学会  
 〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18 東京歯科大学水道橋校舎 本館5F 電話：03-6380-9279

## 東京歯科大学同窓会 創立120周年記念リベラルアーツ・セミナー

同窓会創立120周年を迎え、TDC アカデミアが今年度から本格始動いたしました。今回はそれを記念して、作家の嵐山光三郎氏による、120周年記念講演会を下記企画にて開催いたします。当日、水道橋校舎では、東歯祭も開催されております。休日の午後の一時、水道橋に足を運ばれTDC アカデミアにご参加下さい。



### 『作家の「奇妙な」食欲』 ～漱石・白秋・賢治・堀 辰雄など～

今年度、医療教養委員会では、「食」をテーマにリベラルアーツ・リレー講座を開催しております。本講演でもそれに関連し、嵐山光三郎氏の著書で、近代日本の文学者たちの暴食ぶりから、文学者を新鮮な切り口から捉えなおした「文人悪食」「文人暴食」などの内容を題材に、お話しいたします。

講師略歴：作家 1942年静岡県出身 平凡社「太陽」編集長を経て独立し執筆活動に専念する  
1988年「素人包丁記」により講談社エッセイ賞受賞  
「悪党芭蕉」にて、2006年泉鏡花文学賞  
2007年読売文学賞ダブル受賞 他著書多数

開催日時：2015年10月25日（日） 13時30分～15時00分（開場13時）

会 場：東京歯科大学水道橋校舎本館13階第1教室

参加費：無料

定 員：200名（先着順）

当日受付もお受けいたしますが、定員を満した場合は入場をお断りする場合があります。事前登録にご協力下さい。

参加申し込み：

- ・下記申し込みフォームか同窓会ホームページにて専用申込用紙をダウンロードし、Faxにてお申し込み下さい
- ・ダウンロード出来ない場合は、同窓会事務局（Tel：03-5275-1761）にお問い合わせ下さい

東京歯科大学同窓会創立120周年記念リベラルアーツ・セミナー申込用紙 FAX 03-3264-4859

氏	名		
		同窓（卒年	年卒）・同窓以外
		いずれかに○をお付け下さい	
連絡先住所	〒		
連絡先電話番号			
連絡先Fax番号			

## 会員名簿から見る 支部の現況



副会長

財 部 正 治

昨年末に新しい同窓会名簿が5年ぶりに発刊された。これまでの名簿と体裁を変えたところもあり、使い慣れるには多少時間がかかるかもしれないが、種々の工夫が凝らされているのでご理解いただきたい。

新しい試みとして、会員ごとに所属支部を掲載した。卒後5年間は新進会員として支部加入は必ずしも必要ないが、5年目以降は基本的には支部加入が必要となっている。にもかかわらず卒後10年、20年経過した会員のところでも、所属支部の空欄が目立つ。支部未入会の増加が裏付けられている。

研修医を終了し、または大学から離れて、勤務医を経験しているときに同窓会との繋がりが希薄になってしまう場合がある。病院や診療室の形態が多様化し、若手の勤務医が増加しており、支部未入会に繋がっているものと思われる。また地元に戻って

所謂地域医療を担うことになっても、ご両親など別に院長がおられる場合には支部加入の機会を逸してしまうことがある。自ら開設者となり、その時支部入会することは一つの切っ掛けとなると思われるが、ただその年齢がだんだん遅くなり、またご夫婦で開業されている場合は、どちらかお一人が未入会のことも多い。

新名簿には「支部別会員名簿」を盛り込んだ。このページを見ると、各支部の特徴を垣間見ることができる。会員の人数が減少傾向にありながら会員相互の努力で運営を維持している支部、会員数は多いが未入会会員数も多くその対策に悩む支部、ある年代層が極端に少ない支部、若い年代がない支部など、それぞれの支部特有の問題を抱えているものと思われる。これら会員問題は、それぞれの実情に応じた対応策が必要であり、同窓会本部ではきめ細やかな情報収集が不可欠である。

毎年一度開催される評議員会の評議員は、今年度の評議員会の承認を得られれば、各地域支部連合会単位に会員数100名につき1名の評議員が選出されることとなる。これにより、評議員を持たない県支部が生ずることとなり、支部が持つ独特の問題を把握することが難かしくなる恐れがある。そこで、合わせて「都道府県代表者会」が創設されることとなった。これも本年度の評議員会の承認が前提となるが、認められれば支部の大きさにかかわらず、各都道府県から各1名の代表者に参集いただき、各支部と本部の連携を図ることとなる。

これまで本部に寄せられるご意見の中に「夫婦なので名簿や会報などはひとつにして、その分会費を下げられないか」というものがある。これに対し、配布物を一つにすることは申し出ただけであればすぐにでも可能、ただそれによって会費を下げることはできない、との方針を示してきた。しかしながら会員種別を設けることが支部加入対策に繋がるならば、検討を要することでもある。ただ他方、同じ同窓生を区別することは不自然との意見もあり、今後の議論が待たれる。

支部加入促進対策は同窓会の最優先課題である。各支部の状況を分析し、本部と連携を図りながら、きめ細やかな対策を実施するために、都道府県代表者会がその目的にも大いに活用されることを願っている。

# お知らせ



理 事  
沖 義一  
昭和51年卒

## 新役員紹介

四国地域選出の久保田 晃理事が平成27年5月5日急逝のため、後任として選出された。

任期は、平成27年6月13日から平成27年12月31日まで。

## 理事会より

### ●お知らせ（会長・監事の選挙）

同窓会現執行部の任期満了（平成27年12月31日）にともない、今年の評議員会（11月28日）において、平成25年度の評議員会で制定され、平成26年から施行されました「東京歯科大学同窓会選挙規則」に則り、役員（会長・監事）選挙がおこなわれます。

正式な公示は、会報10月号でさせていただきますが、「選挙規則」による初めての選挙となりますので、周知の意味もあり、ここにお知らせいたします。

選挙期日：平成27年11月28日（土）  
選挙場所：評議員会会場（如水会館）  
届出受付場所：同窓会事務局

### （選挙規則抜粋）

第6条 立候補者は、本人の略歴および趣意書を添え、推薦候補者にあつては、同時に会員の推薦者2名以上の署名捺印ある推薦書と本人の承諾書を添えて、土日祝日および本会の休日を除く選挙日の10日前正午までに本人または代理人が本会に届出る。

## 同窓会事業・行事

### ●平成27年度東京歯科大学同窓会評議員会

と き 平成27年11月28日（土）  
ところ 如水会館（千代田区一ツ橋2-1-1）

### ●東京歯科大学同窓会創立120周年記念式典・講演会・祝賀会

と き 平成27年11月29日（日）  
ところ 式典：東京歯科大学水道橋校舎新館  
「血脇記念ホール」11：00～  
講演会：東京歯科大学水道橋校舎新館  
「血脇記念ホール」11：50～  
祝賀会：東京ドームホテル 天空の間 14：00～

### ●TDC アカデミア2015

- ・ 卒後研修
- ・ 医療教養
- ・ 臨床セミナー

日程は2月号11ページ参照



本会理事久保田 晃先生におかれましては、会務の執行に尽力されておられましたが、平成27年5月5日に逝去されました。

享年76才

ここに謹んで哀悼の意を表し、衷心よりご冥福をお祈りいたします。

## 地域支部連合会・支部関係

- |               |             |               |  |
|---------------|-------------|---------------|--|
| ●地域支部連合会会長の交代 | 平成27年4月1日付  |               |  |
| 平成27年5月16日付   | 目黒支部        | 呂 正博氏 (昭54卒)  |  |
| 四国地域支部連合会     | 前支部長        | 佐藤 仁氏 (昭52卒)  |  |
| 沖 義一氏 (昭51卒)  | 京都府支部       | 丸山 康子氏 (昭51卒) |  |
| 前連合会長         | 前支部長        | 永田 賢司氏 (昭48卒) |  |
| 久保田 晃氏 (昭38卒) | 徳島県支部       | 福崎 博生氏 (昭57卒) |  |
|               | 前支部長        | 宮井 義博氏 (昭49卒) |  |
| ●支部長交代        | 平成27年4月25日付 |               |  |
| 平成27年1月1日付    | 練馬支部        | 小池 修氏 (昭56卒)  |  |
| 玉川支部          | 前支部長        | 草柳 英二氏 (昭47卒) |  |
| 河野 誠之氏 (昭55卒) |             |               |  |
| 前支部長          |             |               |  |
| 岡本 広氏 (昭54卒)  |             |               |  |

## 母校関係行事・案内

- 平成27年度東京歯科大学学会  
第300回東京歯科大学記念学会・総会  
平成27年10月17日(土)・18日(日)  
演題締切 8月19日(水) 正午

### 訂正とお詫び

会報「399号」に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

グラビア ふるさと自慢

裏ページ, 右上写真説明

誤: 「歯の塚」臨濟宗総本山総持寺

正: 「歯の塚」曹洞宗総本山総持寺

p24 アンケート集計結果

【立場】2行目

誤: アンケートには繁栄されていないが,

正: アンケートには反映されていないが,

p36 支部のうごき

千葉県支部 中段10行目

誤: 次いで同窓会長矢崎秀明先生より

正: 次いで同窓会長矢崎秀昭先生より

p58 編集後記

下から5行目

誤: 「医はこれ濟世ひとへに仁なり

正: 「医はこれ濟生ひとへに仁なり

## 私の臨床ノート 「欠損歯列をどう見るようになったか」



宮地 建夫 (昭和42年卒)

### (その2) 欠損歯列の病期と病型

#### 1. 病期と病型

どのような原因で欠損歯列になったのかという成  
因の詮索も確かに大切ですが、慢性タイプの疾患で  
は、継続する病状の流れを見極めることも忘れては  
ならないはずです。病状の流れをみる見方は「病期  
と病型」という2つの視点でとらえられます。病期  
とは進行段階（ステージ）のことで、たとえば乳が  
んの進み具合を、しこりの大きさやリンパ節への転  
移のあるなし、皮膚などへの広がりなどを指標にし  
たTNM分類があり、病期1からIVまでのステー  
ジに分類されています。その進行ステージはどのよ  
うな治療を選択するかに反影されます。もう一つの  
見方に「病型（タイプ・パターン）」があります。  
糖尿病なら1型糖尿病とか、2型糖尿病、あるいは  
二次性糖尿病といった病型を診断していくわけで  
す。欠損歯列もこれと同じように「病期と病型」を  
読んで、何に気をつけなければならないか、どのよ  
うに患者に説明していくかを考えていくことになり  
ます。

#### 2. 欠損歯列の病期

欠損歯列の病期をみるには喪失歯数と咬合支持数  
の減少レベルを指標にすると簡便で臨床的だと思  
います。歯数や咬合支持数は欠損歯列の進行度を表  
していますし、その進行レベルを患者の年齢で評価  
することで、進行速度を掴むことができます。

今回は歯数や咬合支持数を年齢軸で捉える「歯の  
生涯図」を説明します。前回の咬合三角と合わせ、  
欠損歯列の病期がイメージできるだろうと思いま  
す。

#### 3. 病期と歯の生涯図

図1は診療室に訪れた患者さんの年齢平均の歯数  
と咬合支持数を集計し、グラフ化したもので「歯の  
生涯図」と呼んでいます。

1. Y軸の数字は上下顎合計歯数と咬合支持数の2  
つを兼ねています（智歯は除きます）。
2. X軸は5歳間隔の年齢です。
3. 線Aは初診時の平均歯数の年齢推移です（1990  
年代に集計した診療室のデータでその当時のN  
数は大体1200人程度でした）。
4. 線Bは初診時の平均咬合支持数を集計したもの  
です。
5. 線Cは2014年8月に再集計した平均歯数で、初  
診時ではなく経過後つまり最近の平均歯数の  
データです。
6. 症例1の初診54歳時での歯数（点A）と咬合支  
持数（点B）の位置を表します。
7. 線Dは20歳代から初診時までの喪失傾向を表  
し、線Eはこれからの喪失傾向を仮に示したも  
の

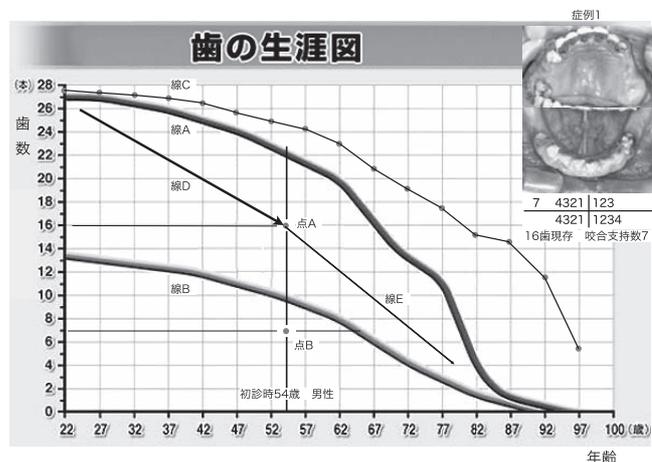


図1 歯の生涯図

のです。

#### 4. 生涯図と喪失速度

症例1は初診時54歳で16歯ですから、その年齢の平均22歯と比較すると8歯も喪失が多い（進行している）ことが分かります。16歯は67歳の平均歯数なので実年齢は54歳ですが、歯列年齢は13歳も老け込んでいるとみなすこともできます。20歳から初診時までの速度は(28-16)歯/(54-20)歳。10年間に約2.4歯の喪失速度で進行してきた計算になります。このままの状態では60歳代70歳代へ入ると、さらに増齢リスクが加わり喪失速度は加速されることがグラフから予想されE線はさらに急坂になることも考えられます。歯数より咬合支持の劣化は一般に速く、この症例1も咬合支持数7（点B）でこの年齢で健全歯列の半分になり、要注意の位置を示していることが分かります。

#### 5. 欠損進行速度の意味するもの

経過を集計してみると患者の過去（初診時まで）の歯の進行速度は、その後の流れや速度に繋がることが多いということが分かります。初診までにゆっくりとした速度で進行してきた患者さんはその後も比較的穏やかな喪失スピードで経過することが多いようですし、逆に初診までに早い速度で欠損進行してきた患者さんはその後も喪失速度が速いと疑ってもいいようです。

そのような傾向はラフですが将来リスクの予測に結びつく指標となると考えています。

#### 6. 欠損歯列の病型

欠損歯列の終末は無歯顎だと考えるのが普通ですが、機能的にも臨床対応の困難さからも「咬合支持の喪失（咬合崩壊）」の時点が実質的な終末だと考えた方が臨床実態に合うようだと考えています。その咬合支持の喪失という終末は歯が存在していても、その歯が咬合支持していない、「EichnerC1やC2」になった状態のことです。そのときの終末像は無歯顎とは異なり、歯の分布にいくつかのパターンがあり、それを“欠損パターン”と呼ぶことにしました。これが「病型」に相当すると考えています。なぜこの病型を問題視するかというと、どのよ

うな終末パターンに向かっていくかを読むことで、歯列が臨床対応の難しい重症化へ向かわないように、何らかの臨床対応が取れるのではないかと期待するからです。従って一時点での欠損パターンを読むことよりも、どの終末へ向かっているかというコースを含めて「病型」と捉えるべきだと思っています。歯科の病態診断はそうした一連の流れ・プロセスを理解することだと思っています。

#### 7. 咬合崩壊の主な欠損パターン

咬合が崩壊した状況にはすれ違い咬合（EichnerC1）と片顎無歯顎（EichnerC2）というパターンがあり、片顎無歯顎には上顎が無歯顎と下顎が無歯顎の2つのパターンに分かれます。初期の段階ではどの終末に向かうかの区別は困難ですが、欠損歯列は連続疾患ですから喪失拡大が進むにつれ、しだいにどの終末パターンに向かっているかを予測することが可能になりますし、予測することか大切だと思っています。図2の右側にCummer分類のパターン44パターン57パターン8パターン53の4つを代表例として、終末パターンをイメージしやすいように並べてみました。そしてそこに向かう過程を結ぶとコースが見えてきます。目の前の症例がどのコースのどの段階にいるのかを推測することにして

#### 8. Cummer の分類（1942年）

Cummerの分類（図3）は上下顎を6つのブロックに分け、ブロック内に歯の有無を基準にし

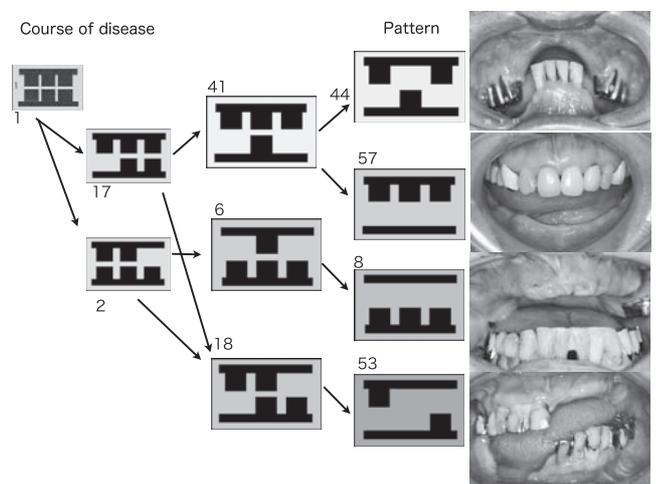
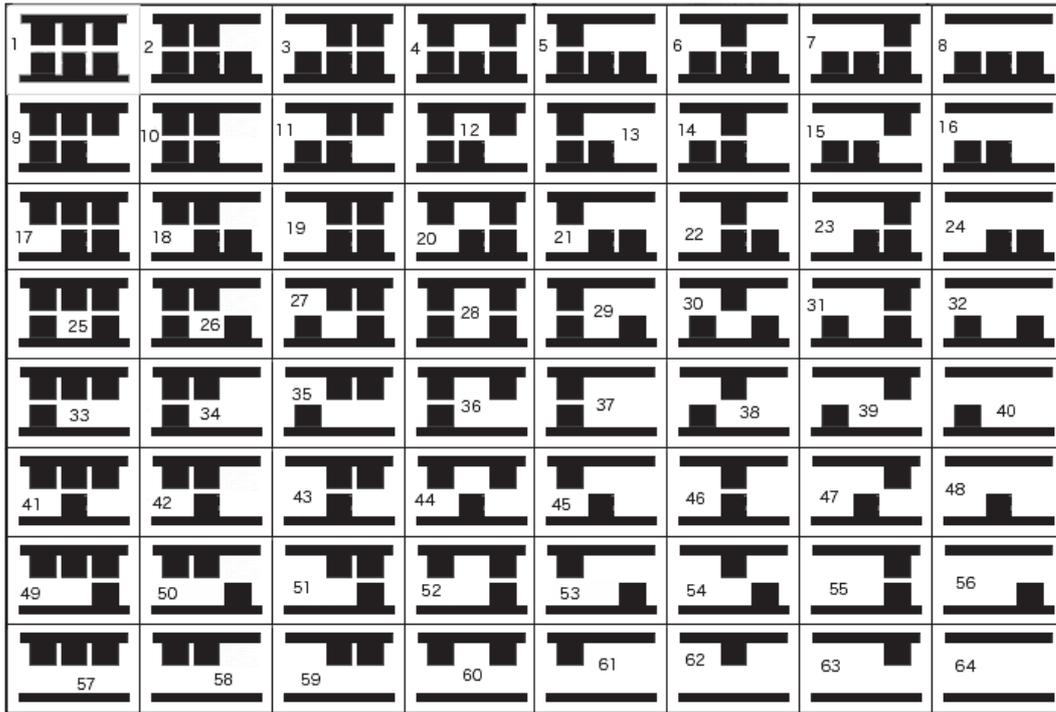


図2 パターンとコース



Pattern(1)が左上になるように原図を修正した

図3 Cummer の分類

て、健全歯列から無歯顎まで全てを64パターンに分類しました。単純化していますが欠損歯列を病型としてイメージするには優れた分類法だと感じています。繰り返しますがこのパターンを歯の喪失進行にそって結んでいくと、欠損歯列の動的なプロセスが一連の流れ（コース）として浮かび上がるために、その流れの先に見えてくる将来リスクにどのような臨床対応を選択するかという意思決定に示唆を与えてくれるのではないかと期待も持っています。

### 9. Cummer の分類と病期

ただし、この分類はパターンという病型を示すもので病期（進行レベル）を表現したものではないので、使い方には注意が必要です。パターン1が欠損歯列の初期レベルで、番号が大きくなると終末レベルを表すかということ、そうでもないことが多いからです。現在のところ、このパターンという指標が症例の将来リスクや臨床対応に結びつくとは思いません

が、個々の経過の良否にどの程度具体的に反影してくるものなのか、不明確なところも少なくありません。むしろこれからの臨床課題で、それには長期経過の蓄積や臨床疫学的な検討が必要になるはずですが。

#### 文献)

- ・Cummer, W. E : Partial denture service. American text-book of prosthetic dentistry (Anthony, L. P. ed) 719-721 Lea & Febiger, Philadelphia 1942
  - ・宮地建夫：上下顎の喪失歯数バランスについて 歯科学報 第106巻1号 p1-4 2006年2月
- 注) ここに掲載されたグラフの原図がご希望の方は“hk6t-myc@asahi-net.or.jp”へご連絡ください。

今回は、その1と2で説明してきた病期と病型という視点をベースにして、実際の症例をどのように読んだかを取り上げたいと思っています。

## 重点事業へのアプローチ

### 平成26年度同窓会オリエンテーションのご報告

本年も、卒業生、本学の研修医を終了された先生方へ同窓会の紹介を行いましたので、ご報告いたします。

#### 3月13日(金) 120期卒業生へのオリエンテーション

卒業式を明日に控えた前日、116名の新入会員を迎え、行われました。佐藤学生部長（同窓会総務・厚生部担当常任理事）の挨拶につき、臼井常任理事より、挨拶と120周年記念事業についての広報をおこないました。次に寺田常任理事より、同窓会案内および配布物の確認と調査表記入についての説明、高野常任理事より、若手ネットワークについて、卒業生の半数を占める女子学生に継続就業の大切さが呼び掛けられました。臨床セミナー委員会の木暮委員長からは、同窓会の各種研修会の案内がおこなわれました。その後、

臼井常任理事より、新進会員をつどいの案内と学年代表者会について、広報部古澤委員より120周年記念事業における同窓会会報への原稿掲載についてのお願いをいたしました。卒業生は、初めて聞く同窓会の事業について、同窓会案内を手元に開きながら、皆熱心に耳を傾けていました。オリエンテーション終了後には、学生部長のお計らいでクラス代表を決定していただき、代表になった岡澤亮平先生とご挨拶をすることが出来、今年度予定している「新進会員のつどい」準備会へのお誘いをすることも出来ました。その他にも、120期の卒業アルバム担当委員の石井悠佳里先生をご紹介いただき、彼女からは、卒業式・謝恩会の当日に嬉しそうな華やかな写真をいただくことができ、FBに掲載しました。広報の取材で撮影した写真よりも、卒業生自身が

撮った臨場感のある和やかな写真を掲載することができました。このように、いろいろな場面で学生、卒業生と接し良い関係を続けていければ、同窓会の事業にもきっと参加してもらえるのではないかと感じました。



#### 3月20日(金) 水道橋病院歯科医師臨床研修修了式

臨床研修医修了式(水道橋病院)後のオリエンテーションでは、会長に代わり臼井常任理事より挨拶後、寺田常任理事より同窓会についての詳細な案内(特にセミナー



卒業生へのオリエンテーション



水道橋病院オリエンテーション

関係)と同窓会創立120周年記念事業についての説明を行ないました。

### 3月23日(月) 千葉病院歯科医師臨床研修修了式



千葉病院での講義

矢崎会長・宮地副会長が、臨床教授として講義を行ない、その中で同窓会の案内を行いました。両先生の講義は、研修を修了したばかりの先生のこれからの歯科医師人生にとって、とても大切な宝物になるはずです。研修を修了し新しいスタートに立った先生方が、両先生の講義を聞くことが出来る…これこそ、東京歯科大学同窓会の大きなメリットだと思います。

### 3月19日(木) 市川総合病院歯科医師臨床研修修了式

財部副会長より、同窓会の組織についてのお話の後、広報、若手ネットワーク関係の案内を行ないました。今年の修了生の中に、クラブの後輩のご息がおられ、お休みの日には地元へ帰りお父様の診療を手伝っているとか…さぞかし、お父様はお喜びの事と思います。

我が校の卒業生ではない先生でもレジデントが修了し地元へ帰った際に、東京歯科大学の同窓会員として研修会などに参加することが可能な推薦会員について財部副会長より説明をいたしました。他大学の先生にも、東京歯科大学の



市川総合病院オリエンテーション

同窓会に魅力を発信していきたいと思えます。

昨年のオリエンテーションでは、ちょうど1年前に、晴れ姿の写真を撮らせてもらった先生がおられ、卒業式と比べ、顔つきも一段ときりっとして、立派に歯科医師として診療にあたられているのだろうと感じ、懐かしく、とても嬉しく思いましたが、今年度の卒業生も一年後は、きっと顔つきが違っているのだろうと、来年のオリエンテーションも楽しみです。

我が校の卒業生や研修医修了生は、今後の歯科界を担うとても優秀な先生たちです。同窓会では、期待と不安に胸を膨らませ、新たなスタートに立った先生たちにとって、少しでもプラスになる情報をお届けすることが出来るように、そして一人一人の顔が見える身近な同窓会であるように、しっかりと連携をとっていききたいと思います。

文責：若手ネットワーク委員会・  
広報委員会 佐々木葉子



千葉病院オリエンテーション



市川総合病院研修医修了生と

## 平成26年東京歯科大学同窓会拡大群馬県人会

群馬県「若手ネットワーク担当」  
黒田 由紀子（昭和57年卒）

平成26年12月27日（土）昨年に続き、若手ネットワーク事業としてホテルメトロポリタン高崎に於いて、拡大群馬県人会を開催いたしました。この会は、若い先生、学生さんに支部同窓会を知っていただき、当県に帰って来た折には、積極的に支部に入会・参加をしてほしいという事を目的に企画をいたしました。参加メンバーは県出身の東京歯科大学学生、東京・千葉在住の若い先生、県内在勤・在住の支部同窓会未入会の先生に支部同窓会員を加えて42名でした。

### 第一部講演会

演題 「障がい者歯科」

座長 稲川元明先生

平成11年卒 【独】国立病院機構高崎総合医療センター 歯科口腔外科医長

演者 大串圭太先生

平成18年卒 群馬県歯科総合衛生センター 歯科医長

大串圭太先生からは群馬県歯科

総合衛生センターの紹介、県内の障害者に対しての歯科治療、センターの機能を話して頂きました。平成24年からは静脈内鎮静下での治療が出来るようになったこと、今後日帰り全身麻酔下で治療が出来るようになる展望を語って頂きました。また、進路を決める研修生・現役生に向かって卒後7年になるご自身がどうして当県のセンターに着任したかをお話していただきました。

座長の稲川先生からは、【独】国立病院機構高崎総合医療センター 歯科口腔外科で行われている日帰り全身麻酔下における歯科治療について説明して頂きました。

### 第二部懇親会

県同窓会長 引田正俊先生の挨拶、県歯科医師会専務 宮下英一郎先生の祝辞の後、前群馬県歯科医師会会長 川越文雄先生による乾杯で宴が始まりました。前回の拡大県人会の折、小杉雄一先生から、「次回ピアノを弾いても

良いよ。」とお申し出があり、【Dr.小杉のJazzy Night】という楽しいアトラクションが加わりました。メンバーはボーカル石岡豪一先生（昭和53年卒）、ピアノ小杉雄一先生（昭和52年卒）、サクスは二人で高松透浩先生（昭和61年卒）、大串圭太先生（平成18年卒）です。先生方の学生時代から続いている趣味とは伺っていましたがお聞きするのは初めてでした。演奏が始まると会場からは「すごい！素敵！」と大讃辞。歓談、楽しい時を過ごしメに定番の校歌斉唱ですが、今回は大串圭太先生の高崎のお宅に遊びに来ていた東京歯科大学ビッグバンドの現役学生さんに伴奏をして頂き大合唱。2回目を迎え、現役学生、若手の先生、県同窓生の間に親しみが増したことを実感しました。最後に、この拡大県人会を開催するにあたり協力をしていただいた皆様に感謝を申し上げご報告とさせていただきます。



座長 稲川元明先生



講師 大串圭太先生



Dr.小杉の Jazzy Night

## 拡大群馬県人会に参加して

一般社団法人群馬県歯科医師会 群馬県歯科総合衛生センター  
大 串 圭 太 (平成18年卒)

今回の群馬県拡大県人会の講演会で、『障がい者歯科』のタイトルのもと講演をさせていただくこととなりました。はじめに群馬県歯科総合衛生センターの歴史、近年の業務内容や活動実績の紹介をさせていただきました。当センターは昭和49年に開設され、今日まで群馬県内の障がい者歯科医療に関する2次医療機関として運営されております。平成24年度から輪番制であった歯科医師の常勤化、同年には静脈内鎮静法の開始、今後は全身麻酔の導入とひとつの変革期を迎えている施設であります。

会場には大学の現役学生や卒直

後の研修医の先生も数名参加していたため、卒後の進路でのひとつの参考になればと思い卒後9年目とまだ若手の自分がどのような経緯で現在の職場に赴任したかといった内容の話もさせていただきました。私は4月に大学を退職し、現在の職場で障害者歯科治療に携わる機会を頂きました。大学では歯科麻酔科に在籍していたため、障がい者の治療のチームの一員ではありましたが、実際に治療医として仕事にあたることは現在の職場に赴任してからでありましたため、そこに対する不安やプレッシャーなどについても大学同窓という内輪の会ではありました

ので、本音を交えて話をさせていただきました。

群馬県人会には初参加となるため、自己紹介を兼ねての講演というスタイルではありましたが、県内の同窓の先生方に早く顔を覚えてもらえるように今後とも精進してまいります。



## 会務アラカルト

### 同窓会創立120周年記念事業 申し込み開始

同窓会創立120周年記念事業の式典・講演会・祝賀会の申し込みがはじまりました。120年に一度の記念事業ですので大先輩から卒業したばかりの先生までも、そして北は北海道から南は沖縄まで多くの同窓の申し込みをお待ちしております。個人の申し込みでも結構ですし、支部まとめて申し込みでも結構です。よろしくお願ひします。

明治28年高山歯科医学院「院友会」が万清楼にてスタートして120年が経ちます。東京歯科大学同窓会の歴史をみますと、単にクラスメートの集まりというだけではなかったようで、大きな歯科医療の歴史の流れの中で一筋の力強くつながる渦のような存在として感じさせます。高山紀齋先生、血脇守之助先生をはじめ明治の先輩方が歯科治療を学問として日本に広め、歯科医を増やし、組織をまとめ、歯科医師法制定により地位をつくり、明治、大正、昭和と先輩方が歯科医師会会長として歯科医療の創成期をつくり上げました。戦後においても諸先輩は地域医療の発展につとめ、また同窓会においても学術事業を中心に骨太に進めてまいりました。

記念誌の編集委員会においても「東歯らしさ」をとらえ今回編集会議として掲載していますが、この「東歯らしさ」こそ血脇イズム

につながるものとして座談されております。この血脇イズムこそ歯科医療の限らない発展を目指す熱い思いが根底にあり、高山先生、血脇先生の志の熱さこそ120年間をつなげる一筋の渦を生んだのです。校歌の4番の最後の歌詞にありますよう、「無限のこの道かなたの蒼空 こぞりて仰がむ飛躍の朝なり」とあります。歯科医療の将来に向かってのやるべきことは血脇先生の時代と同じように無限にあります。夢の実現に向かって、今こそ、我々につたわる先輩たちの志を感じ、この120年の素晴らしい歴史を共に祝い、次なる120年に新たな気持ちをもって進むではありませんか。11月29日(日)血脇記念ホールに全員集合なのです。一人でも多くのご参加をお待ちしております。目標800人、何としても達成しましょう。

### 120周年の企画について

同窓会創立120周年記念事業は記念式典、講演会、祝賀会だけではありません。いろいろな企画を準備しています。

#### ・同窓会創立120周年記念 ゴルフ大会

9月3日(木)

霞ヶ関カンツリー倶楽部

#### ・同窓会創立120周年記念 フォーラム

社会保障制度研究委員会主催

9月13日(日)

水道橋校舎本館

#### ・第300回東京歯科大学 記念学会・総会

10月17日(土)・18日(日)

血脇記念ホール

#### ・同窓会創立120周年記念 リベラルアーツ・セミナー

10月25日(日)

水道橋校舎本館13階

#### ・同窓会120周年記念囲碁大会

11月28日(土)

日本棋院

#### ・同窓会創立120周年記念 式典・講演会

11月29日(日)

血脇記念ホール

#### ・同窓会創立120周年記念祝賀会

11月29日(日)

東京ドームホテル(天空)

同窓会のゴルフ大会は40年を超える歴史を持った事業ですが、創立120周年記念大会としては東京オリンピックの開催予定場所である霞ヶ関カンツリー倶楽部東コースを予定しています。ゴルフ大会委員会の先生方が是非歴史に残るコースで歴史に残る同窓会の記念ゴルフを楽しめるように準備を進めております。9月から始まる120周年記念事業のトップバッターですので、大いに盛り上げてまいりたいと思います。申し込みは本同窓会報41ページにあります。今年の参加賞も楽しみ一杯です。

そして翌週社会保障制度研究委員会がおくる記念フォーラムがあります。日曜の午後、3時間と限

られた時間ですが、元中医協会長の遠藤久夫先生をお呼びして講演とミニフォーラムを計画しております。遠藤先生は学習院大学教授で医療経済を専門にされ、現在内閣社会保障制度改革国民会議会長代理をなさっており日本の社会保障制度の中核の一人です。医政のプロフェッショナルを育成しいろいろな分野で活躍してもらう人材づくりを目指したこの委員会の企画ですので、一から勉強したいという方も、この機会に医療にかかわる政治・経済・社会についてフォーラムに参加して、混沌とした今の歯科医療制度を見つめてはいかがでしょうか。

そしてまた10月17日(土)、18日(日)には第300回東京歯科大学記念学会があります。母校と同窓会の強い連携のもと母校にとっての記念と同窓会創立120周年記念がこの場で一つとなります。一人でも多くの同窓が当日出席されることをお願いします。

### 記念式典・講演会、そして記念祝賀会の内容 (11月29日)

11時 水道橋校舎新館  
血脇記念ホール

記念式典

記念講演 特別講演

吉澤信夫先生

(山形大学名誉教授)

14時 東京ドームホテル

地下一階 (天空)

記念祝賀会

司会 宮崎宣子様

(フリーアナウンサー)

企画 卒業アルバムから懐かしのショット

7分間で綴る同窓会120

年の歴史

オペラユニット「レジェンド」ミニコンサート

記念品も用意しております。

会費 15,000円

(ただし新進会員は10,000円)

### 選挙制度が施行され、実施は今秋から

平成26年度から選挙規則が施行され、この秋の評議員会での会長、監事の選挙から適用になります。

選挙制度施行の意味をよく理解するために制度が決まりました平成25年の評議員会の当時の説明を見直してみましょう。『「伝統と歴史をもつ東京歯科大学同窓会の会長を選出する規則がないのはおかしいのでは』との意見は以前よりあり、かなり前の評議員会でも指摘されました。そこで昨年、透明性、公平性をそして従来から規則がなくとも問題なく素晴らしい会長が選出されてきた経過をふまえ、新たな選挙規則を評議員会の協議題で提案いたしました。立候補制により、評議員会において地域支部連合会の会員数により選出された評議員が評議員会において選出することになります。もちろん、議長の裁量で別段の方法をとることもできるようにしてあります」と述べられています。

この選挙規則を見ますと、  
・原則としてその任期満了年の評議員会開催日に行う  
・被選挙権は、支部入会后2年を経過した会員が有する  
・選挙権は、各地域支部連合会の会員数により選出された評議員が有する

・選挙執行に関する事務は、選挙管理委員会が管理する  
・候補者が定数を越えたときは、投票選挙を原則とするが、評議員会の議決により別段の方法によることができる

とあります。この3月に平成26年度評議員会議長が指名した5人の選挙管理委員である澁谷國男先生(東京地域)、田原邦昭先生(関東地域)、大森浄二先生(関東地域)、佐藤正矢先生(東北地域)、中村忠先生(近畿地域)が同窓会室に集り、今秋の評議員会にむかっの選挙管理委員会を開催しました。選挙制度施行後初めてであること、評議員選出の経過措置中であることから混乱が生じないように緻密な議論が交わされました。執行部では委員会での決定にしたがい準備を進めてまいります。歴史をみても選挙がなかった同窓会です。投票には至らず、公平性、透明性そして伝統を重んじた会長・監事の選出システムとして存在することを誰しも願っていることは間違いありません。

さて、選挙管理委員会において決定した平成27年度評議員会における選挙人の登録については以下のような方向に進めるようになりました。

・選挙権は選挙規則にしたがい、地域支部連合会の会員数により選出された評議員とする考え方に準じる。  
・ただし、経過措置中であり地域支部連合会選出評議員の中で誰が選挙権者との区別ができないので、経過措置期間としての方法を考える必要がある。  
・そこで各地域支部連合は、地域

支部連合会の会員数により選出された評議員数の票数をもち、選挙の際は票数分の評議員が投票人となり投票することとした。

- ・立候補の状況により選挙があり得る場合のみ、当日投票者となる評議員を各地域で事前に選定期日までに報告してもらうよう依頼する。
- ・また、役員選出の議案は評議員会議案であり、投票人かどうかに関係なく参加する全評議員が議論に参加するものとする。
- ・この経過措置中の取り扱いについては、地域支部連合会や支部に事前に十分に周知する。
- ・なお、

#### 各地域支部連合会にお願い

平成27年度評議員会において複数の立候補者があり選挙になる場合、地域支部連合会の会員数に応じて投票が行われます。各地域支部連合会の投票数は、会員数によって選出される評議員の数となります。

もし、立候補者が複数となり選挙が実施される場合は、立候補者名簿とともに地域支部連合会の有する票数もお知らせしますので、指定した期日までに出席評議員から投票人を選び本部までお知らせをお願いいたします。なお、届出締め切りは11月18日(水)正午ですので、立候補者名簿と選挙の有無についてはそれ以降にお知らせすることになります。

#### ホームページから過去の同窓会報のバックナンバーがみられます

この度、同窓会創立120周年記念事業の一環として同窓会ホームページに過去の同窓会報を掲載

し、院友会発足当時の「歯科医学叢談」と戦後から発刊となった同窓会報を閲覧することが出来るようにしています。HPを開き、同窓会報の表紙部分をクリック、開いた画面を下にロールし同窓会報バックナンバーはこちらをクリック、次なる画面の最下段に以前の同窓会報はこちらとあり、そこをクリックします。そうすると出てきますので、是非一度トライしてみてください。

#### 血脇先生の記事

ホームページから過去の同窓会報の検索意欲が高まるように、編集委員会でみつけた血脇先生についての記事を紹介しましょう。但し昭和発刊のものですが、号、年、執筆者名を記します。

同窓会報25号(昭和27年)西村豊治先生、43号(昭和30年)田村一吉先生、田部井巳之八先生、椎木六合雄先生、松井源水先生、鈴木源吉先生、44号(昭和30年)赤尾醉仙先生、柳楽達見先生、45号(昭和30年)松風憲二先生、46号(昭和31年)荒木紀男先生、長沢安弥先生、47号(昭和31年)横矢重包先生、高津 式先生、48号(昭和31年)利根川清治郎先生、平山卯五郎先生、49号(昭和31年)鈴木源治郎先生、52号(昭和32年)横山八次先生、稲見精康先生、65号(昭和34年)中井武一郎先生、66号(昭和34年)中井武一郎先生、77号(昭和35年)福島秀策先生、116号(昭和42年)近藤三郎先生、118号(昭和42年)荒木紀男先生、119号(昭和42年)福島秀策先生、120号(昭和42年)福島秀策先生、182号(昭和53

年)松井隆弘先生、194号(昭和55年)玉井琢治先生、232号(昭和61年)同窓会創立90周年記念号 その他まだまだあると思います。是非創刊号から見てみてください。

#### 血脇先生の横顔コメント集

せっかくですので、ここで書かれていた血脇先生の人物像、コメントですが、ならべてみました。

**人物像** 優秀な技術、鋭い人物を診る鑑識力、歯科医師となれば何々君と呼ぶ、如何なる強敵に向こうても所信を貫徹、読書好き、易や観相の道にも通じる、広い交友、政界にも知人多し、歯科医師として初めてのロータリアン、食事に対する態度に風格、封筒便せん一枚でも公私の別、裏を使うなど儉約家、浪費をきらう、しばしば口にする「歯科医になる前に人になれ」、すごい話：銀行に借り入れの際、重役会で返済不能となり万一の時は社長が私財を以て弁償すると言わせる人物、煙草をやめたときの言葉「病気になって人様に心配や迷惑をかけておきながら、自分の気ままに止められないということはよくないな」

**人柄** 細心、人情味、慈父の感、温情味、家族愛、括淡無欲、任侠に富む、面倒をみるの情深、温顔、眼光是爛々、寛々たる微笑の話し方、よいお父さん、厳格なうちに優しい、書生に対しても非常に礼儀は正しい、怒ることなく情味溢れる、慈愛の深い方、真におやじにふさわしい、謹厳・豪放・温順、礼儀を尊ばれる、驚いたり狼狽されることはない、よき好々爺、後輩たちに最大の援助と機会を、家族愛の話：毎年血脇先生の

およばれの忘年会では最初に小使の熊さんのところへ行って差し向かいで酒をかわし労をねぎらった。

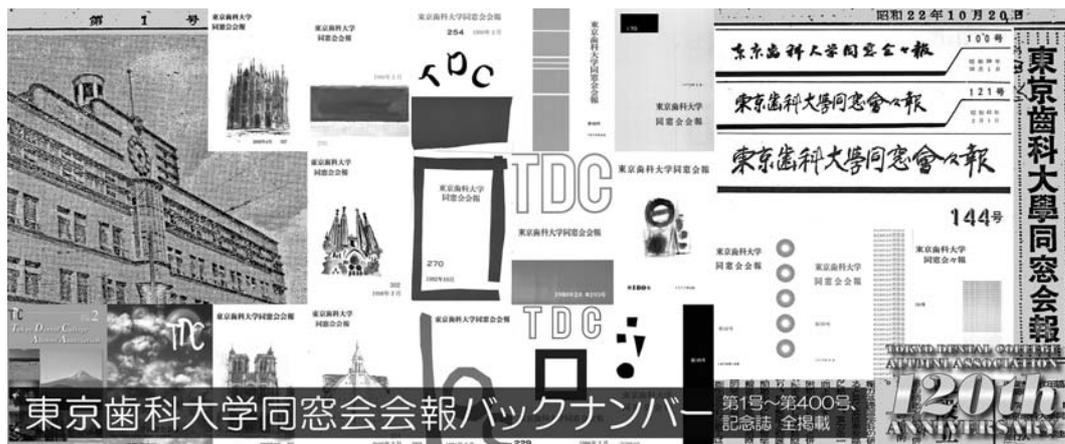
**お酒** お酒が好き、終生盃をはなさなかった、(〇〇〇)、非常な大

酒家、酩酊状態でも全部覚えている、泥酔されて醜態は見たことない、最後までおいしそうに召し上がる、熱燗、「山で赤いのはつとじと椿」をうたいおどりは「なすとかぼちゃを」、献酬をきらう、

宴席の座席の乱れや食膳の上の食べ散らかしをきらう、陽気を好み民謡を好まれた、残ったビールのコップの数をかぞえさせた、飲まないのにつぐな、急須には一杯のお湯を入れて残すべからず。

## 同窓会報120年の歴史

同窓会報は明治28年10月に歯科医学叢談として発行され今年で120年を迎えます。途中歯科学報と名前を変え、また戦争等で発行されなかった時期もありましたがこれだけ長く続いている機関誌はまことに珍しいと思います。ただ単に歯科教育機関として歴史があるだけではなく多くの同窓生並びに母校に携わった方の協力のもと毎号毎号積み重ねられ今日まで続けられてきました。各時代の様子やそこに登場する人物像、当時の治療の仕方、試験問題、学術的なことと様々な情報を読み取ることができます。また時には大先輩の若かりし写真等にも巡り会えます。同窓会ホームページでは順次過去の同窓会報がご覧になれるように会報アーカイブスとして掲載しております。ぜひ同窓会120周年記念の今年から120年の歴史に触れてみてはどうでしょうか。



## 東京歯科大学同窓会各種委員会委員

総務・厚生部ゴルフ大会運営実行委員会の追加（平成27年5月20日～平成27年12月31日）

武藤 彰(S57卒)

総務・厚生部新進会員のつどい実行委員会委員（平成27年2月21日～平成27年12月31日）

黄地 健仁(H23卒) 野末 真司(H23卒) 石川 宗理(H24卒) 岡嶋 伶奈(H24卒)  
 木村 基善(H25卒) 山田 祥(H25卒) 田中 亜生(H26卒) 橋口 あやこ(H26卒)  
 佐藤 正敬(H26卒) 大村 雄介(H27卒) 鷺尾 紗裕里(H27卒)

協力委員 佐々木 葉子(S60卒) 北村 晃(S62卒) 山本 雅通(H6卒)  
 大井 陽生(H16卒) 菅原 圭亮(H16卒) 和田 健(H22卒)  
 荻野 崇真(H22卒)

# 理事会のうごき

## 第1回理事会

平成27年2月21日（土）午後2時30分

於 特別会議室

出席 30名

議長 矢崎会長

### 会長挨拶

本年は、同窓会創立120周年記念式典がある特別な年である。

日歯の会長予備選が終了したが、今後一般の会員が関心を持って、若い会員も参加していると意識できる選挙の形が望ましいと考える。

現在、11月の同窓会創立120周年事業にむけ実行委員と役員が一丸となって準備に取り組んでいる。是非とも一人でも多くの会員に参加していただきたい。また10月には300回記念の東歯学会が開催されるが、同窓会創立120周年記念事業の一環として協力していきたい。さらに記念ゴルフ大会・囲碁大会等も企画されている。昨年の同窓会報10月号より高山・血脇両先生の東歯創設期の特集が始まっており、学生に対しても創設期の歴史を十分にアピールしていきたい。

また現在、西棟建設が進んでいる。母校にとって大変重要な事業であり、また厳しい財政状況であることをふまえ、今後同窓に対して寄付の協力依頼を積極的に行っていく。

### 黙 禱

徳島県支部・西條征二氏はじめ16名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

### 会務報告ならびに承認

- 1) 平成27年1月15日から平成27年12月24日までの日程を報告。
- 2) 各部報告
  - (1) 総務・厚生部：①地域支部連合会長交代について2件報告。②支部長交代について3件報告。③支部長退任時の感謝状ならびに記念品の

贈呈について3件報告。④逝去会員について規程により弔慰共済金を支給した旨の報告。⑤会費、共済負担金納入免除願いが3件提出され、受理した旨の報告。⑥総務・厚生委員会報告。⑦ゴルフ大会委員会報告。⑧母校「水道橋校舎施設設備整備資金寄付金」申込み状況報告。⑨情報ネットワーク推進会議報告。⑩会務運営協議会報告。⑪東日本大震災対策部会報告。⑫同窓会創立120周年記念事業実行委員会報告。⑬新進会員のつどい準備会報告。⑭平成27年新入会員・臨床研修歯科医修了者に対するオリエンテーション出席者について報告。⑮同窓会会員名簿報告。

- (2) 会計部：①地域支部連合会学術講演会助成金の支出について1件報告。②支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について4件報告。③平成27年度1月末現在現況報告。
- (3) 渉外部：①渉外委員会報告。
- (4) 広報部：①広報委員会報告。②同窓会HPアクセスレポート報告。
- (5) 事業推進部：①社会保障制度研究委員会報告。②若手ネットワーク委員会報告。③卒業研修委員会報告。④医療教養委員会報告。⑤臨床セミナー委員会報告。⑥アカデミア生涯研修企画会議報告。⑦TDC卒業研修セミナー2015報告。

以上の会務報告について、全て承認。

### 各地域選出理事報告

東海・山田理事、近畿・戸村理事、四国・久保田理事より報告。

### 協議事項

- (1) ホームページ「執行部宛お問い合わせフォーム」投稿等を報告、確認のうえ承認。
- (2) 同窓会創立120周年記念事業について委員の増員を含めて報告、協議の結果、承認。詳細は会長一任。
- (3) 選挙管理委員会開催について、協議の結果、承

認。

- (4) 評議員数の経過措置は平成27年度をもって終了し、平成28年度より都道府県代表者会を設置することを本年度の評議員会に議案として提出する旨の提案、協議の結果、承認。
- (5) 都道府県代表者会の内容について協議の結果、会長一任。
- (6) 平成27年度評議員会における選挙権者の各地域支部連合会からの選出方法について、運営協議会で会則および選挙規則上の確認を行ったうえ会長一任。選挙の運営方法については継続審議。
- (7) 本年度も新進会員のつどいを開催し、準備会を総務部の委員会とし、担当する新進会員を委員として委嘱したい旨の提案、協議の結果、承認。人事については会長一任。
- (8) 大学病院診療録指導委員会委員推薦について、協議の結果、承認。
- (9) 東歯関係日歯役員・代議員と同窓会役員との懇談会について、協議の結果、承認。
- (10) 学年代表者会開催について、協議の結果、承認。詳細は会長一任。
- (11) 日本大学歯学部同窓会と共催で二校会若手研修セミナーを開催することについて、協議の結果、承認。詳細は会長一任。
- (12) 六歯科大学歯学部校友会同窓会懇談会を、本年当番校として開催することについて、協議の結果、承認。
- (13) 会員に対するアカデミアセミナー等の情報伝達方法に、新たな手段を導入することの検討を承認。

## 第2回理事会

平成27年4月18日（土）午後4時30分  
 於 月岡温泉 白玉の湯「華鳳」会議室  
 出席 30名  
 議長 矢崎会長

### 会長挨拶

全国からこの地にお集まりいただき感謝申し上げます。本年は東京歯科大学同窓会創立120周年にあたり、記念行事が控えている。血脇守之助・野口英世

両先生を支えた石塚三郎先生などと縁の深い新潟の地で理事会を開催することになったのは、東京歯科大学の原点を求めて、視察、講演会を行うためである。ぜひ、半年後に迫った創立120周年記念式典・講演会、記念祝賀会が有意義なものとなるよう、準備を続けていただきたい。

先般、卒業生の学年主任だった矢島先生をはじめとする就学指導の教職員の慰労会が行われた。現在、東京歯科大学の存在感を示しているのが国家試験の成績であり、教職員が一丸となって成績を維持している。また、学生にも、自分たちで勉強していくという気運が生まれきており、好結果を生んでいる。東京歯科大学の血脇イズムである、東歯家族主義がうまく機能している。同窓会創立120周年記念式典・講演会、記念祝賀会を通じて、次世代を担う東京歯科大学の同窓や学生の方々にもこの伝統を伝えていくことが大切と考える。

120周年記念式典の前日に行われる評議員会に対しても多くの課題があり、解決すべき問題が控えている。ぜひ本日の理事会で検討いただき、準備願いたい。

### 黙 禱

京都府支部・井口俊介氏はじめ11名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

### 会務報告ならびに承認

- 1) 平成27年3月18日から平成27年12月24日までの日程を報告。
- 2) 各部報告
  - (1) 総務・厚生部：①支部長交替について3件報告。②退任時の感謝状ならびに記念品の贈呈について3件報告。③逝去会員について、規程により弔慰共済金を支給した旨の報告。④会費、共済負担金納入免除願いが1件提出され、受理した旨の報告。⑤総務・厚生委員会報告。⑥ゴルフ大会委員会報告。⑦母校「水道橋校舎施設設備整備資金寄付金」申込み状況報告。⑧情報ネットワーク推進会議報告。⑨会務運営協議会報告。⑩東日本大震災対策部会報告。⑪同窓会創立120周年記念事業実行委員会報告。⑫新進会員のつどい実行委員会報告。

- (2) 会計部：①地域支部連合会学術講演会助成金の支出について1件報告。②支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について3件報告。③地域支部連合会ゴルフ大会カップ代の支出について1件報告。④平成27年度3月末現在現況報告。
- (3) 渉外部：①渉外委員会報告。
- (4) 広報部：①広報委員会報告。②同窓会 HP アクセスレポート報告。③新潟テレビの野口英世記念特番について報告。
- (5) 事業推進部：①社会保障制度研究委員会報告。②若手ネットワーク委員会報告。③卒後研修委員会報告。④医療教養委員会報告。⑤臨床セミナー委員会報告。⑥アカデミア生涯研修企画会議報告。⑦ TDC 卒後研修セミナー2015報告。⑧二校会主催若手研修セミナー報告。
- 以上の会務報告について、全て承認。

#### 協議事項

- (1) ホームページ「執行部宛お問い合わせフォーム」投稿等について報告。
- (2) 推薦会員退会願い1件について承認。
- (3) 選挙規則について、地域支部連合会の会員数により選ばれた評議員が選挙人となることを確認し、合わせて選挙人の登録方法についての確認があり、協議の結果、承認。
- (4) 選挙の準備について、協議の結果、承認。対応が必要な件については、会長一任。
- (5) 評議員の経過措置終了と都道府県代表者会の設置に伴う会則の変更について改正案を提案、協議の結果、承認。
- (6) 創立120周年記念事業チラシおよび参加申込書について、協議の結果、承認。

### 女性写真家 石内 都氏と水道橋旧校舎

写真家の石内 都氏をご存知ですか？  
群馬県出身で神奈川県横須賀で育った著名な女性写真家で2013年紫綬褒章を受章し、2014年には世界的に有名な写真賞の一つであるハッセルブラッド国際写真賞を日本人では3人目に受賞しています。

実は、石内氏は1981年に『水道橋・東京歯科大学永遠のモニュメント写真輯』（一世出版）を発表しています。大判のモノクロ写真で、水道橋の旧校舎がダイナミックな構図で記録されています。まさに昭和の香りの写真輯です。

ここで学ばれた方は、ぜひご覧ください。  
大学図書館に所蔵されています。



## 東歯関係日歯役員・代議員と同窓会役員との懇談会

第177回日歯臨時代議員会1日目の3月12日(木)の午後6時30分より飯田橋のホテルメトロポリタンエドモント3階「春琴」において東歯関係日歯役員・代議員と同窓会役員との懇談会が開催されました。

出席者は、東歯関係の日歯役員1名、日歯代議員18名、都道府県歯会長4名、同窓会役員18名、渉外委員2名、そしてご来賓として母校の井出吉信学長と、白須賀貴樹衆議院議員と、島村 大参議院議員がご列席くださいました。

佐々木眞澄常任理事の司会進行で、宮地建夫副会長が開会の辞を述べ、まず矢崎秀昭会長より、「先般、各都道府県歯の会長予備選挙が行われたが、秋田県歯科医師会の藤原元幸先生、群馬県歯科医師会の村山利之先生の会長続投が決まり、また鹿児島県歯科医師会では全会員による選挙で森原久樹先生が見事当選され続投が決まった。これは大変素晴らしいことで心よりお祝いを申し上げます。母校は、移転後のスペース不足により西棟の建設を進めているが、建築費の高騰、増税等から財政的に厳しい状況で、同窓としても協力して行こうという事になったので宜しくお祈りしたい。本年11月29日に同窓会創立120周年記念式典を行う。苦勞して輝かしい伝統を築き上げてきた先輩方に敬意を表して、同窓会の将来を考え

ようという集いである。様々な企画を計画しているので、是非とも多くの会員に出席頂けるよう周知してほしい。明日より世界会議が開催されるが、中島信也先生と富山雅史先生が担当として頑張っているのでは是非とも参加して応援してもらいたい。」との挨拶があった。

この後、ご来賓よりご挨拶を頂戴いたしました。まず白須賀貴樹衆議院議員より「平成30年に診療報酬、介護報酬、医療制度の同時改訂がある。財務省の意向が反映される可能性が高いが、過去に歯科の診療報酬の伸び率は低いままなのだから考慮してもらわなくては困る。今後危機感を持ち東歯同窓が歯科界をリードする事を期待する。」とのご挨拶があった。つづいて島村 大参議院議員より「現在、文科省には常勤の歯科医師免許取得者がいない。今後その事を改善する様に頑張りたい。」とのご挨拶があった。この後井出吉信学長より、「二期の入学試験志願者数は、昨年の志願者数より増加してその倍率は20倍以上である。西棟の建設は予定通り進行している。建築費の高騰もあり今後、益々の同窓の協力をお願いしたい。」とのご挨拶を頂戴した。

この後懇談会は、群馬県歯科医師会会長の村山利之日歯代議員の座長のもと進行され、東京都歯科医師会会長の高橋哲夫日歯代議員

が第177回日歯代議員会報告を、日歯連盟副会長で秋田県歯科医師会会長の藤原元幸日歯代議員が日歯連盟報告を、つづいて同窓会の会務報告を高橋義一専務理事が行いました。

この後、「今後の日歯会長予備選挙のあり方と、同窓の各地区における状況について」という議題で協議を行いました。今後、日歯全会員による直接選挙にする、現行制度の維持、日歯代議員だけによる間接選挙に戻した方が良い、直接選挙と間接選挙とは一長一短あるので議論していくべきである、投票者がどれだけその候補を知っているかの意識の問題である、何が平等で民主的か、選挙運動方法を規制すべきである等の意見が述べられました。

途中で、日歯の大久保満男会長、村上恵一専務理事、村岡宣明常務理事、そして日歯連盟の高木幹正会長と峰 正博理事長がお見えになり、大久保満男日歯会長と高木幹正日歯連盟会長より、日頃の会務への協力に対するお礼とご挨拶を頂戴しました。

そして最後に財部正治副会長が閉会の辞を述べました。

会場を「光彩」に移した懇親会では、藤原元幸副会長が開会の挨拶を述べ、大山萬夫顧問の乾杯の発声で、終始和やかな雰囲気の中進行しました。最後に鳴神保雄顧問の閉会の挨拶で終了しました。

## ●社会保障制度研究委員会●

### 第2回 社会保障制度研究会

#### 税と社会保障の一体改革波動なる？「医療経済の基礎を学ぶ」



平成27年3月4日午後7時より東京医科歯科大学大学院 医療経済学分野 川渕孝一教授

による第2回目の社会保障制度研究会が開催されました。

まず現状では人口や老化傾向、県民所得は全国的に格差があり2025年には医療・介護の医療費がかなりの増加を示し財源の不足が予測される。

そこで経済成長と社会保障の好循環をさせるには税・社会保険料の収入増と支出を抑制して充実した社会保障を構築することにより国民の将来不安をなくす。そうすると投資・消費が活性化して経済成長を促すことになる。その結果産業・雇用が生まれよって税収や社会保険料を増加させる。しかし現状は国民医療費総額は1992年以降、国内総生産（GDP）が横ばいにもかかわらず右肩上がりが増加している。残念ながら歯科だけを見ると GDP 以下の増加率であり、医科と歯科の医業収入の差が生まれ、歯科は患者数の差を一人当たりの単価の上昇で補っているがそれでも医科にはおよばない状態である。

経済発展の理論はヨーゼフ・A・シュンペーターによると「イノベーションとは創造的活動による新製品開発、新生産方法の導入、新市場の開拓、新たな資源(供

給源)獲得、組織の改革」である。またアントレプレナー（企業家）は「既存の価値を破壊して新しい価値を創造していくこと（創造的破壊）が経済成長の源である」とのことです。

国際的にみても日本の歯科界の現状はGDPとの比率はそんなに差はないが明らかに歯科治療費（診療単価）保険料金はイギリス、フランス、ドイツ、スイス、アメリカ、カナダの中で最も低く根管治療に至っては十分の1程度である。

それにもかかわらず差がないのは診療回数が多く国際水準の2.3倍の患者が受診しているからである。いわゆる薄利多売で医療水準の低下が心配される。

また歯科診療の特徴は収入階級別の保健医療サービス負担は収入が多い人ほど医療費の負担が多く、すなわち富裕層ほど医療費に多くの費用をかけている。

歯科診療は医科診療に比べると景気に左右されやすい。

要するに金銭的に余裕がないと受診を控えてしまう傾向がある。

第164通常国会によって可決された医療保険制度改革大綱によりこれまでに様々な改革が行われてきたが2025年の医療介護の姿を念頭に置いた重要項目として次のことが掲げられている。

・救急、産科、小児、外科等の急性期医療を適切にできるような病院



勤務医等の負担の大きな医療従事者の負担軽減・処遇改善の一層の推進を図る。

・地域医療の再生を図る観点から、早期の在宅医療への移行や地域生活の復帰に向けた取り組みの推進など医療と介護との機能分化や円滑な連携を強化するとともに地域生活を支える在宅医療の充実を図る。

・がん治療、認知症治療などの推進のために、これらの領域における医療技術の進歩の促進と導入を図ることができるようその評価の充実を図る。

今後歯科界の活性化の方針として摂食・嚥下や訪問診療など、医科と歯科の境界領域での一層の連携強化で医療の向上を図りつつ、医師不足、歯科医師過剰に前向きな対応が必要であると締めくくり講演終了となりました。

この先、良質な歯科医療の提供を継続していくためには、単に学術研修に留まらず、医療経済を学ぶことが必要でしっかりと知識を持つことにより、安定した経営基盤が構築できることを改めて認識いたしました。

（取材・広報部 白田 準）

## ●卒研レポート●

## TDC アカデミア 2015 医療教養 フロントランナーセミナー

## No.1 歯科医たる前に人たれ

## ～社会は我々歯科界に何を求めてきたか～

去る平成27年2月26日(木)、水道橋校舎南棟6F会議室において、平成26年度TDCアカデミア・フロントランナーセミナーが開催された。今回は「歯科医たる前に人たれ-社会は我々歯科界に何を求めてきたか-」という演題で、本学OBの重鎮、加藤武彦先生をお迎えして行われた。当日は、先生に憧れて将来歯科医師を目指しているという中学生や本学在学学生、若手歯科医師から矢崎同窓会長をはじめとするベテラン歯科医師まで50名以上が集まった。

まず、先生は校歌の一節「医はこれ濟生ひとへに仁なり」を歌われた後(相変わらずの良いお声!), 歯科医療はこの「仁」の部分の大切であることを強調された。その後は、先生が長年行ってきた在宅診療や訪問診療の症例を中心に提示され、講演が進行した。ひとりひとりの患者さんと真剣に向き合い、入れ歯を「その場で」治してこそ意味がある。「ちょっと様子を見て下さい~なんて言う歯医者ダメだ!」「在宅は本当に噛めるのを見るまで帰って来るな!」は、後輩にいつも仰っているフレーズとのこと。先生が真摯にひとりひとりの患者さんのために数時間かけて処置を行い、噛めるようになった時の喜びを患者さ



んと一緒に心の底から分かち合っているからこそ出てくるお言葉。御自身も15年前にご病気をされたが、他の人の3倍の時間リハビリのご努力をされた由。そのご経験からも、患者さんの身になって診療を行う姿勢が益々強くなっておられるのかもしれない。

具体的には顎堤の吸収した症例では、「歯槽頂間線の法則」に囚われることなく配列しても、義歯の安定は充分に得ることが出来る。この際、口唇、舌、頬粘膜の3方向から義歯を抑え込むことが大切であるとのこと。また、本当の医療連携とは解剖から内科まで一生懸命医科の勉強をして、医師と対等に話ができて初めてできること。そうでないと信頼されないし、誰にも相手にされない、など一言一言が勉強になった。

私個人的には先生のお話を拝聴したのは何年振りだろうか? 立場上、なかなかこのようなお話が聞



けなくなって久しい環境なのであるが、今回は同窓会報の取材という立場を利用して? 久しぶりに先生のお話を伺い、そのパワーに圧倒された。(講演の途中、ど忘れをされて「オレも物忘れがひどくなった! 認知症かも?」と仰る先生に、会場から「丁度いい!」という声が飛んでいた!?)

老いてますます盛ん、矍鑠としていて前向き、歯科医師の姿勢として心から尊敬に値する先生の御講演は、これからの超高齢化社会の中で活躍する歯科医師のあるべき姿を示していて、後に続く若手の先生方に対しても大きな刺激になったに違いない。

これから社会が求める本物の歯科医師とは、先生のような方を言うのだろうかと思う。

先生の益々の御活躍を願ってやまない。

(取材・広報部 古澤成博)

## ● 卒研レポート ●

## TDC アカデミア 2015 医療教養セミナー 口腔保健オープン・フォーラム 第1回「学校保健でのフッ化物の応用」

今回取材したフォーラムはTDC アカデミアの企画の一つで4月2日(木)19時30分から水道橋校舎南棟6階において25名の参加で開催されました。

同窓会は人の交流・情報の交流が大切な役割の一つです。今回のセミナーは地域保健の問題について各地域で様々な工夫がなされていますので現場の問題点や工夫を共有できたらということで企画されました。

「学校保健でのフッ化物の応用」というタイトルだが、ここまで虫歯が減ってきた中で本当にフッ化物が必要なのだろうか？フッ化物を取り入れてみたいのだがどのようにしたら良いのか？取り組み方はどうしたら良いのか？など色々な視点から話題提供をしてもらおうということです。



最初は東京歯科大学衛生学講座教授の杉原直樹先生から「学校歯科保健とフッ化物」の話でした。

- ① 学校歯科医の役割とフッ化物応用（主要なフッ化物局所応用の分類）
- ② 全国の学童期のう蝕有病状況
- ③ 全国のフッ化物洗口の実施状況

況

### ④ う蝕予防効果について



学校保健統計調査によると12歳児の1人平均う蝕経験歯数は2005年の1.8から2014年は1.0に低下しているが地域格差があり、フッ化物洗口実施施設も地域格差が存在するというものでした。

次に埼玉県歯科医師会常任理事で学校歯科部長の齋藤秀子先生から「埼玉県小児う蝕予防対策事業について」の講演がありました。



「永久歯萌出前からのう蝕予防を視野に入れた、施設において集団によるフッ化物洗口を行う子供の増加」を目標にしている、施設に説明をする時のフッ化物に関する丁寧でわかりやすいプリントも配布されてとても参考になりました。

学校や幼稚園でフッ化物洗口を

実施する場合の課題として、週に何回やるのかという手間の問題とそれに伴ってどこがその費用を負担するのかということが非常に大きいということでした。

3人目は東京歯科大学同窓会医療教養委員で東京都学校歯科医学会烏しよ地区担当理事の牧野 寛先生の講演でした。



どの地域にいても同じ保健教育をしなければならないという東京都学校歯科医学会の理念のもと、烏しよ地区であっても地域格差をなくすためにどのような事ができるか、また実際どのように取り組んでいるのかというお話でした。

最後にこのフォーラムの担当委員である高柳篤史先生より「学校歯科保健におけるフッ化物配合歯磨剤の活用」の話があり、フッ化物洗口とフッ化物配合歯磨剤のう蝕予防効果の比較が話されました。



(取材・広報部 福井雅之)

● 卒研レポート ●

TDC アカデミア 2015 臨床セミナー  
今こそ見直そう！あなたの根管治療

根管治療の最新知識と基本技術の習得 2日間コース

4月25日(土)・26日(日)の2日間にわたり、TDC 水道橋新校舎にてTDC アカデミア臨床セミナー2015今こそ見直そう！あなたの根管治療 - 根管治療の最新知識と基本技術の習得 - 2日間コースが行われました。



講師に木ノ本喜史先生（大阪大学大学院歯学研究科臨床教授）をむかえ、受講生も定員いっぱいの30名で開催されました。



25日 根管の感染経路の確認から根管の解剖、手用ファイルの使い

方の講義をうけ、透明ブロックを用い湾曲根管の拡大をしました。またニッケルチタンファイルの特性を学び、実習室に場所を移し、基本動作の確認の後、抜去歯を用い根管拡大→根管充填実習を行いました。

①根管感染の機会？

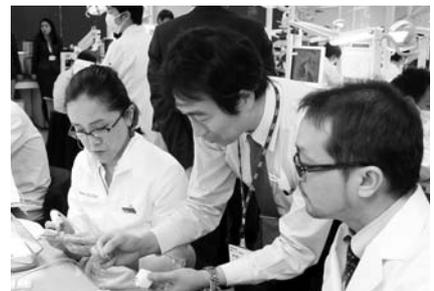
- ・ 齲蝕の取り残し
- ・ 根管開放
- ・ 仮封の不良
- ・ 汚染物の挿入
- ・ 修復後の再感染



②根管三分の計

1. 根管口明示・ロート状拡大
2. 根管中央部の穿通・拡大
3. 根尖部の穿通・拡大

26日 根管洗浄・根管充填およびマイクロスコブの講義があり、昨日に引き続き抜去歯を用いた実習を行いました。



受講生の質問も多く充実した質疑応答があり、サーティフィケートの授与の後、執筆本へのサイン会が行われ、大盛況のセミナーでした。

③歯内療法で感染源が

- 多  
↑  
↓  
少
- 残りやすい場所とその多さ
  - カリエス
  - 主根管の見逃し
  - ISMUS・フィン・凹み
  - トランスポーターション部
  - 側枝・根尖穿孔部
  - 象牙細管

(取材・広報部 横田東生)

受講生の声

講義、実習ともに大変に充実した2日間でした。大学、米国、またご開業と多くの経験をつまれた木ノ本先生が故の、技術とその論拠を惜しみなくお示し下さいました。臨床の基礎から応用はもちろんのこと、治療課程における“なぜ”について、エビデンスも合わせてご教示下さり、より深く理解できると共に、治療に対する姿勢を見直す機会にもなりました。

# 母校だより

## 第120回 卒業証書授与式

去る平成27年3月15日(日)午前10時から、水道橋校舎新血脇ホールに於いて、第120回卒業証書授与式が行われた。今回も昨年に引き続き、卒業式に先立ち大学院の修了式が執り行われ、田崎雅和大学院研究科長より今年度修了の36名の大学院生を代表して、歯周病学講座の今村健太郎大学院生に修了証が授与された。

引き続き司会の佐藤 亨学生部長の開式の辞に続き、参列者一同の「君が代」の斉唱で、新血脇ホール初の卒業式が開式された。

まず石井拓男副学長から「現在、本学に在籍する学生は822名であり、本日卒業証書を授与される者はその内の116名、大学設置以来の卒業生を合わせると8,845名、専門学校設置以来の卒業生を合わせると14,858名で、高山歯科医学院創立以来の通算卒業生数は15,149名になる。」旨の学事報告の後、河田英司教務部長の呼名により卒業生一人一人が起立し、井出吉信学長から卒業証書が授与

された。今年も舞台脇の大型モニターから卒業生の表情が会場および教室に流され、各自の緊張の面持ちから笑顔まで、手に取るように分かるように配慮されていた。続く褒賞の授与では、学長賞、血脇賞、井上 裕賞、精勤賞、卒業論文賞が授与された(受賞者は文末に記載)。

井出学長からの告示では、「皆さんの学生生活は、千葉キャンパスで桜並木に囲まれてスタートした。在学中に本学創立120周年を迎え、数々の記念行事と共に大学が32年の時を経て水道橋の地に回帰した。本学の歴史的大事業が行われる中で学生生活を過ごした皆さんは、今日120回目の卒業式を迎えられました。6年間の充実した教育カリキュラムの中で、医療人として相応しい教養と、最先端の歯科医療の知識と技術を学び、患者さんやスタッフとのコミュニケーション能力を養ってきました。厳しいカリキュラムを全て修了した皆さんは、東京歯科大学を



卒業したという誇りをもって歯科界に一步踏み出してほしい。2014年のノーベル物理学賞は、今日では当たり前になった効率的な青色LEDの発明だった。新しい発明には、ひたむきな努力と先人達の知恵の蓄積の上に生まれる。これからスタートする臨床研修は、歯科医師の第一歩として、自分の将来を決めるためのとても大切な時



間です。「医はこれ濟生ひとへに仁なり」、皆さんの一人一人が目的意識をしっかり持ち、常に最新の歯科医学を学ぶ姿勢を忘れず、患者さんへの思いやりの心を大切にして人々に望まれる歯科医療を提供するべく、ひたむきな努力を続けていただきたい」と述べられました。

続いて水野理事長からは、「本学は、長い間歯科界を先導し歴史を刻んできた。この伝統ある大学を卒業した皆さんは胸を張って大きく社会に飛び出して行ってほしい。私が今君たちに問いたいのは、「今君は飛び上がって喜ぶか？」ということです。一例を挙げれば、高校野球で優勝が決まった瞬間、ピッチャーとキャッチャーが走り寄って飛びつく感動の瞬間。野球に対するたゆまぬ情熱と血のにじむような努力が報われた瞬間だからです。たとえ苦しくても努力し続けることは、将来の飛び上がって喜ぶ楽しみのためにあるものである。「これを知るものはこれを好むものに如かず」「これを好むものはこれを楽しむものに如かず」という言葉がある。

人生において高校野球に優勝するような瞬間はそうそうないかもしれないが、日々の出来事で感動する瞬間は数多くあるはず。今日は卒業式です。飛び上がって喜ぼう！そして間もなく国家試験の発表です。飛び上がって喜ぼう！その感動の瞬間のために皆さん方が学生生活を毎日送ってきたはずです。これから長い歯科医師人生が始まる。歯科医師を目指したのだから、これからは歯科医師の仕事

に夢中になり努力してほしい。飛び上がって喜ぶ瞬間が数多く味わえることを期待している。」と祝辞を述べられた。

続いて矢崎同窓会長が祝辞で、「同窓会創立120周年という記念すべき年に卒業される皆さんは、さらなる大学の発展に寄与していただけるものと大いに期待している。千葉校舎で友人たちと学ばれた多くの思い出と、さらに水道橋で学ばれ新たな伝統を作り上げるものと思われまます。伝統ある本学の歴史の中で、皆様にはこの水道橋にある母校を生涯の心のよりどころとして世界に向かって活躍していただけるものと願っている。歯科大学の同窓会は一般の大学と異なり、卒業生は生涯にわたって同じ歯科医療の道を歩むことになる。血脇先生は「歯科医師は生涯にわたる歯科医学の研鑽とともに、ともに助け合い人としての品格を高めあっていくことが必要である」として同窓会の前身となる「いんゆうかい」を120年前の明治28年に設立した。現在まで15,000余の卒業生がおり、全国どこの地区でも皆さん方を心から歓迎し、その地域の同窓会支部に入会されることを心待ちにしている。全国同窓会支部においては、主に母

校の先生方をお招きしての講演会や医療体制の研修会、さらに懇親会や家族を交えた各種リクリエーションなど多彩な活動をしている。卒後5年間は、いろいろな施設で研修をすることが多いと思うが、同窓会ではこの期間を同窓会の新進会員の期間として、研修会や症例検討会などを毎週のように開催し、皆さんが素晴らしい歯科医師となるためのお手伝いをし、交流を深める多彩な企画をしている。現在同窓会アカデミア構想を立ち上げ、医療技術や医療体制のこと、さらにリベラルアーツとして身に着けておくべき社会的教養など、皆さんが一流の歯科医師として活躍するためのお手伝いをしている。今日の歯科医療は単に口腔の治療を行うだけでなく、超高齢社会において口腔機能を充実させることにより、健康で長生きできる健康寿命への貢献が必要になってきている。皆さんの活躍は社会全体が心待ちにしている。同窓会ではホームページなどの通信欄を通じて皆さんの意見を出来るだけ多くお聞きし、今後の同窓会の運営に生かしていきたいと思っている。本年11月29日の同窓会創立120周年記念会でまたお会いすることを楽しみにしている。」と

#### 受賞者一覧

学 長 賞：戸嶋 翼

血 脇 賞：安田直純, 明石良彦, 深見未妃, 對木将人

井上 裕賞：北村佳也

精 励 賞：齋藤友護, 越光映文, 山口樹里, 吉田仁奈  
吉田 航, 菊地崇剛, 掛川 佑, 深見未妃  
對木将人, 亀井宏和

卒業論文賞：飯島典子, 井上高暢, 釘宮嘉浩, 朝波圭貴  
岡澤亮平, 松本啓嗣

祝辞を述べられた。

続いて在校生を代表して杉浦  
貴則君（5年生）から送辞，卒業

生を代表して戸嶋 翼君が答辞を  
述べた後，出席者全員で校歌を高  
らかに斉唱し，厳粛かつ感動的な

卒業証書授与式が閉会となった。

（広報委員 古澤成博）

## 平成26年度 大学院卒業式

去る3月15日の卒業証書授与式に先立ち大学院卒業式が執り行われ，終了後に新館教室にて修了書が授与されるとともに，矢崎同窓会長から同窓会長賞が授与された。



## 平成27年度 母校入学式

去る平成27年4月5日（日）、生憎の春雨の中、午後1時より水道橋校舎新館の新血脇ホールにおいて、平成27年度東京歯科大学入学式が行われた。佐藤 亨学生部長の司会進行のもと、まず国歌「君が代」の斉唱が行われた後、河田英司教務部長が新入生一人一人の紹介を行った。

その後、まず井出吉信学長から以下のような訓示があった。「東京歯科大学は新入生の皆さん一人一人を大切な仲間として歓迎します。創立以来125年の時を経た本学の特色は、北原白秋先生が作詞された校歌にもあるように「医はこれ濟生ひとへに仁なり」歯科医師としての高度な知識や技術はもちろんのこと、高い社会性と国際性を身に着け良識に溢れた歯科医療人を育成することにあります。常に最先端の教育、診療、研究を目指して行く中で、我が国の歯科医療を牽引し国民から信頼される機関として社会的使命を果たしていると自負している。本学卒業生の中には海外の大学で地位を得て研究や診療における高い名声を得

ている方々や、地域医療の歯科医師として日々の診療に励む方々など様々なフィールドで活躍している先輩たちがいます。歯科の世界は外から見るとはるかに広大で、様々な分野や領域があり皆さんが活躍するチャンスに溢れています。これからの6年間は、人生の中で最も華やかで可能性の広がる大切な時です。確かに勉学に割かれる時間は膨大であり、なかなか努力が報われず時には心が折れそうになることもあると思います。水道橋を学びの拠点として仲間と支え合い、クラブ活動に情熱を持って打ち込んでいく中で自ずと結果はついてきます。歯科医師となって活躍する未来の自分を信じて日々の努力を怠らず、ぜひ充実した学生生活を過ごしてください。卒業後は必ず東京歯科大学を卒業して良かったと思える日が来るはずですよ。明日の歯科界を担うリーダーとなる人材を輩出するクラスとなることを期待しています。」

続いて水野嘉夫理事長が登壇され、「良く人生はドラマだと言わ

れ、医療現場はオーケストラに例えられます。皆さんは歯科医師人生を歩むべく本学に入学しました。その人生ドラマを如何に演じるかは、その人その人それぞれです。私ならこう演じたいという思いが皆さんあるはずですよ。歯科医師として人生を演じるエネルギーがあれば、最高の人生を演じたい。それは患者さんが感謝し感動し、喜びを感じることに自分の喜びを重ねられることではないでしょうか。歯科医療現場における歯科医師は、オーケストラのコンサートマスターであり、コンダクターです。そのオーケストラは、医師、看護師、歯科衛生士などその道の専門職であるメディカルスタッフの集まりです。これからの医療現場においては、あらゆる分野の専門職と協同して素晴らしい曲を奏でるチーム医療を進めて行かなくてはなりません。そのチーム医療を進めていくうえで大切なのがコミュニケーション能力です。歯科医師としての専門的能力を培うことが最重要ですが、そのもとになる大切なことは、人間力



の涵養、すなわち品性ある人間性豊かな社会性を持った歯科医師に育つことです。本学は常に歯科医学の先導者としての役割を果たしてきましたが、それは血脇先生の「歯科医師たる前に人間たれ」という理念により、人間力の涵養を

大切にしてきたからであります。今は受験勉強から解放されてホッとしているところかと思えます。また、新生活への不安がよぎっているところかと思えます。慌てずじっくりと構えて有意義な学生生活を送っていただきたいと思いま

す。」と祝辞を述べられた。

続いて新入生を代表して東優一君が宣誓を行った後、学長より徽章が授与された。その後、校歌を高らかに斉唱して入学式はめでたく終了した。

(広報委員 古澤成博)

## 平成27年度 大学院入学式

本学入学式に先立ち、平成27年4月2日(木)に平成27年度大学院入学式が本館14階で行われた。今年度は42名の新進気鋭の新入生を迎えることになった。齋藤 淳大学院学生部長の司会のもと、まず東 俊文教務部長が新入生の紹介を行った。次いで井出学長より訓示があり、「これから4年間で学位を取得することになるが、博士をとるということは歯科界だけではなく、社会人としてもしっかり成長してほしい。それぞれが違うテーマで研究することになるかと思うが、自分と同級生ともいろいろと差異が出てくるが、苦勞して研究した方が後で喜びも大きく、さらに指導者になった時にも

役に立つかもしれないと思う。最近データの改変とか話題になっているが、キミたちはまずは科学者として正直に自分の研究のデータを出して4年で学位をとってほしい。本当のリーダーを目指して頑張してほしい」

田崎大学院研究科長から、「大学院は、歯科医療の知識や技術、人間性をさらに発展させるところであり、方略として研究を通じて発展させることになる。東京歯科大学の研究のレベルは君たちの研究に託されていると言える。これから高いハードルをひとつひとつ乗り越えて、初心を忘れず頑張してほしい」旨、挨拶があった。

続いて矢崎同窓会長から「血脇

先生は歯科医師というものは、生涯にわたる研修、研究、さらにお互い助け合い、人間性を高めることが最も大切だと仰っている。皆さんは大学院に入られて、大変恵まれた環境でスタートを切ったのでぜひ頑張してほしい。国家試験の合格率とともに研究面でも東京歯科大学が注目を浴びるように協力してほしい。卒後5年間は新進会員となるが、現在毎週のように新進会員を中心にセミナーをやっているんで顔を出してほしい。」との祝辞があった。

この後、新入生代表の翁長欣子さんから宣誓があり、閉会となった。



## 平成27年度 新入生名簿

赤堀元彦	鎌田政一	坂田彬	中島優	松原美穂
朝原大器	上林慎	作田碧	中田皓介	松原黎
芦田正惇	柄澤考昭	佐藤海介	中野陽平	溝口裕莉
安島貢一	川瀬二郎	佐藤佑香	中村領杜	三宅琢由
安藤優一	河西舞	塩谷美帆	仲谷剛子	宮本依利
安藤大樹	河村忠将	嶋村薫穂	長屋櫻子	宮本佳織
安井川瑞葵	木津拓也	井正泰康	新村佳大	毛本利
石河光理	草野慧	末次裕南	西田光里	森心
伊藤大貴	國吉真仁	杉本杏奈	西原仁希	森龍之介
井野詩絵	窪山裕也	鈴木俊貴	西村百合	森本真綾
井上沙紀	倉島竜哉	清藤友介	西谷敦	野柳美優
岩瀬由典	栗原翔尚	清矢日向	西谷崎奈	山崎直晴
岩見香澄	國府田尚輝	相馬達哉	長谷川陽	山田龍
上野紗璃	古川保楓	高橋佳子	秦加純	山本英莉
植松遼太郎	古谷龍人	滝澤裕梨	羽根田真由子	山本真紗
江川百華	小林郁美	田代憲太朗	平松希実子	山本友紀
大嶋健太	小林夏樹	多田泉希	廣福増仁知	横吉尚健
大塚優介	小林由佳	田中涼香	藤森崇美	吉田原寛
岡野直記	小山直人	塚本真衣	堀野中周	吉米瑛
小河原剛	齋藤藤哲	津田石島	牧野島裕	
小澤彰	齋藤藤井	恒中	松添	
粕谷藤彩	酒井			

## 平成27年度 第2学年編入 (15名)

石井大貴	内田明寛	岡沙里	宍戸勇介	千葉紗央
岩下沙紀	大野美亜	小鹿楨子	鈴木会津子	日堀清太郎
薄場はるか	大庭俊太郎	佐藤祐太郎	竹澤百代	

## 平成27年度 東京歯科大学 入試ガイダンス日程

	開催日時 (予定)	場 所	内 容
1	7月4日 (土) 14時～	東京歯科大学 水道橋キャンパス (本館13階)	模擬授業, 大学紹介, 入試概要説明, 入試科目ポイントの説明, 入試問題の解説(予定), 個別相談(希望者)
2	8月1日 (土) 13時～	東京歯科大学 水道橋キャンパス (本館13階)	模擬授業, 大学紹介, 入試概要説明, 入試科目ポイントの説明, 入試問題の解説(予定), 個別相談(希望者)
3	8月29日 (土) 13時～	東京歯科大学 水道橋キャンパス (本館13階)	模擬授業, 大学紹介, 入試概要説明, 入試科目ポイントの説明, 入試問題の解説(予定), 個別相談(希望者)
4	9月26日 (土) 14時～	東京歯科大学 水道橋キャンパス (本館13階)	模擬授業, 大学紹介, 入試概要説明, 入試科目ポイントの説明, 入試問題の解説(予定), 個別相談(希望者)
5	12月19日 (土) 14時～	東京歯科大学 水道橋キャンパス (本館13階)	模擬授業, 大学紹介, 入試概要説明, 入試科目ポイントの説明, 入試問題の解説(予定), 個別相談(希望者)

※ 内容, 開催時間等, 変更になることがありますので, 事前にお問い合わせください。

問合せ先: 東京歯科大学 教務課 (水道橋校舎新館) TEL: 03-6380-9528

URL: <http://www.tdc.ac.jp>

なお, 事前予約は不要です。

## 図書館よりのお知らせ

一同窓生を対象としたライブラリーカードを発行できるようになりました。ライブラリーカード (IC カード) の発行により下記のサービスが利用可能になります。

- ・図書館ゲートの入館 (校舎開館時)
- ・自動貸出機による貸出 (2冊・2週間)
- ・コピー機による資料の複写 (前払い・1,100円～)

発行手数料: 1,080円 (新規発行) / 2,160円 (再発行)

発行手数料・コピー料金の支払は電子マネー (Suica 等) で決済可能です。

千葉校舎・水道橋校舎での共通利用 (入館・貸出) が可能です。

お渡しまでに1週間程度, 要します。

ご希望の方は図書館カウンターまでお越しください。

### お問い合わせ

東京歯科大学図書館

TEL: 03-6380-9553

[libstaff@tdc.ac.jp](mailto:libstaff@tdc.ac.jp)

## 株式会社クリニコ ショールームのご紹介

歯科分野での「口から食べる」という栄養管理の重要性が増している昨今、歯科治療・手術を受ける方や高齢者の方々の社会活動を支え、Quality of Lifeを向上させるためにも栄養ケアは欠かせません。東京歯科大学水道橋病院では、医療・介護の現場で流動食・トロミ剤・栄養補助食品などを販売している森永乳業グループの株式会社クリニコと共同で、当院1階待合ロビーに管理栄養士が常駐するショールームを平成26年7月に立ち上げました。この試みは、全国的に見て先駆的取り組みの一つでもあります。

このショールームでは、嚥下や食べやすさに配慮した少量で高カロリーの栄養補助食品のゼリー・飲料・やわらか食などを展示しております。ショールーム開設以来、多くの外来・入院患者様にお立ち寄りいただき治療後のお食事について、術後の口腔内状況に応じた食品形態のご紹介のみならず、栄養学的視点からご紹介させていただいております。また、当院で行っている訪問歯科診療の際にも、病院・施設・在宅の方々にも「口から食べる」重要性の情報発信をして、地域歯科医療の一端にご協力して参りたいと考えております。

ショールームでは、実際の商品の展示とともに、4日分（12食分）をセットにしたお食事セットのご案内も行っております。同窓の先生方におかれましては、水道橋病院へお越しの際には、お気軽にショールームへお立ち寄りいただき、日々の診療にご活用いただければ幸いです。

ショールーム、商品等に関するお問い合わせ  
株式会社クリニコ  
電話 0120-52-0050  
(平日 午前9時から午後5時)



ショールーム外観



ショールームポスター

### 受け継がれる思い

剣道部3年 中村 章裕

平成26年4月4日(土)、桜咲き誇る晴天のその日、草薙剣友会総会と平成26年度全日本歯科学生総合体育大会 OB 戦優勝・女子団体戦準優勝、そして森永一喜先生、高野正行先生病院教授就任祝賀会が、アルカディア市ヶ谷にて行われた。剣道部 OB と学生合わせて40人ほどが一堂に会したその様子は正に圧巻であった。

祝賀会は、草薙剣友会会長の山根源之先生のお言葉より始まった。次いで、田崎雅和先生の剣道部部長挨拶があった。両先生方のありがたいお言葉を頂き、乾杯をし、しばらくの歓談の時となった。久しぶりの再開に話が弾む

OBの先生方の声、森永先生や高野先生をお祝いする声、学生を応援してくださる先生方の声など、様々な声その場所で飛び交っていた。

会も進み、OB戦で見事優勝を果たした和田 朗先生、石田圭太先生、三條祐介先生、保坂 誠先生より挨拶があった。ひとりひとりのお言葉を聴いている中で、優勝が決まった試合の映像が思い出され、学生もその姿を見習いより一層努力していこうと決意していった。

そして、森永一喜先生、高野正行先生より教授就任挨拶があった。誰しものが話に関き入り、あつ

という間に時間が過ぎていった。

先生方の挨拶が終わると、学生から平成26年度全日本歯科学生総合体育大会の試合の結果報告があり、日頃からのOBの先生方の多大なるご支援への感謝の気持ちを述べた。

会は終始盛り上がり、最後は恒例のOB・学生含めて円陣を組み、校歌斉唱をして会は盛況の中終わりを迎えた。

今回の会では様々な祝い事があり、先生方から様々なお話を聴くことができ、とてもよい刺激をいただくことができたと同時に、自分が伝統ある部活の一員なのだと思えて認識することができた。



写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。

# 支部のうごき

## 掲示板

\*この掲示板は、同窓会ホームページ <http://www.tdc-alumni.jp> にも記載されています。

日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。

印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日 時	演題及び講師 又は事業内容	会 場	主 催 先 連 絡 先	外部より 参加可否
学術講演会 平成27年 7月12日(日) 午後2時～	「無歯顎補綴の現在から未来」 -吸着義歯, インプラントデン チャーそしてCAD/CAM デン チャーの未来- 阿部二郎先生 (東京都調布市開業)	愛知県歯科医師会館 名古屋市中区丸の内 3-5-18 TEL 052-962-8020	愛知県支部 連絡先 担当・久野昌士 TEL 0569-43-1124	同窓会員

## 青 森 県 支 部

### 定時総会

平成27年3月7日(土)ホテル青森において、東京歯科大学同窓会青森県支部の定時総会、学術講演会が開催されました。ご来賓として、同窓会本部より、常任理事の寺田仁志先生、大学より、組織・発生学講座の山本 仁主任教授をお招き致しました。寺田先生より、大学移転現況、西棟建設支援、同窓会創立120周年記念事業、東歯同窓国会議員を支える会発足などについて、詳しい説明を

頂きました。また、山本教授から、大学の現況のご報告がありました。

新入会員の黒田透子先生の紹介とご挨拶の後、住吉辰郎先生を議長に選出し、平成26年度の諸報告が行われました。顕章報告に際して、中村善佐衛門先生と松山陽一先生の受章に対し、本田支部長より、記念品が贈呈されました。

議事に入り、収支決算、平成27年度予算など議題はすべて承認可決されました。今年度は役員改選

期にあたり、支部長の本田富彦先生、監事の宮川克孝先生、福士淳一先生が、無投票により再選されました。

総会終了後、古川由美子常任理事が座長を務め、組織・発生学講座の山本 仁教授より、「いつかできる日を目指して！ 組織再生への発生的チャレンジ」と題して、学術講演を頂きました。今日、花形研究として、各分野の期待を集める再生研究において、発生学は基礎となる重要な分野で、地道な探究が必要であると、顎顔面領域のユニークな発生的研究の一部を、ご紹介頂きました。

記念写真撮影後、懇親会に移りました。小林敏彦常任理事の司会進行により、同窓会ならではの、リラックスした、和やかなひとときを過しました。恒例の校歌斉唱で、会もお開きとなりましたが、その後、同ホテル階上のラウンジへ場所を移し、二次会も行われました。(畑中政利 記)



## 群馬県支部

### 平成26年度定時総会、懇親会

平成27年3月14日(土)、前橋市のアニバーサリーコート ラシーネにて群馬県同窓会定時総会と懇親会が30名の出席者のもと開催されました。当日は、来賓として同窓会本部から財部正治副会長、群馬県歯科医師会から、会長で同窓の村山利之先生をお招き致しました。

総会は原茂総務の司会の下、石岡豪一副会長の開会の辞に続き、逝去された会員に全員で黙祷を捧げました。引田正俊県同窓会会長、武安一嘉県同窓会顧問の挨拶に続き、来賓の財部先生より、懐かしい旧市川総合病院、市川グラウンドのスライドを交えた現在の市病周辺のお話、大学の現況等のご説明をいただき、村山先生からは県歯科医師会の会務の執行に対する同窓会員の協力に謝辞をいただきました。また今年度は本会から5名の先生が叙勲、表彰され



たことが報告され、代表して斉藤直身先生に花束贈呈が行われました。続いて新入会員の眞塩京子先生が紹介されました。

庶務報告の後、議長に黒田真右先生が選出され議事に入り、執行部より事業計画案、一般会計並びに福祉共済部会計予算案が上程され、すべて可決承認されました。最後に黒田由紀子副会長の閉会の辞により総会は終了しました。

その後、集合写真を撮影し、懇親会に移りました。川越文雄先生の乾杯のご発声のもと開宴し、同窓会独特の和やかな雰囲気の中、世代を越えて話に花が咲き、お酒も進み盛り上がりました。最後は、再び川越先生伴奏のもと全員で大きな声で校歌斉唱し、富澤憲男先生の閉会の辞で名残惜しみながらのお開きとなりました。

(小板橋正樹 記)



## 埼玉県支部

### 新年会開催

平成27年2月8日(日)東天紅JACK大宮店において、大学本部から井出吉信学長と田崎雅和教授、明海大学から坂英樹教授、崎山浩司准教授、同窓会本部から矢崎秀昭会長、埼玉県歯科医師会からは島田篤会長をお迎えして、埼玉県支部新年会が開催されました。

開会に先立ち、大和田一彦先生、関口千栄子先生による保険講習会も行われました。

主催者を代表し、春山良夫支部長による挨拶がなされ、続いて来賓の方々を紹介されました。同窓会会長、矢崎秀昭先生からは、同窓会の現状やアカデミア構想などのお話をいただき、埼玉県出身である井出吉信学長からは、水道橋校舎新築の進捗状況、国家試験の状況などホットな話題を織り交ぜたお話をいただきました。また、島田篤会長からは、埼玉県



左から、中村先生、三木先生、斎藤先生、植野先生

歯科医師会会長選挙にて再選されたことなど、ご説明いただきました。続いて、熊谷の斎藤秀子先生が「厚生労働大臣表彰」を、川口の三木昭代先生が、「日本歯科医師会会長表彰」を受けられたお祝いがなされました。

祝宴に移り、埼玉県支部顧問成田賢二先生による乾杯で開宴となりました。新入会員の中村直史先生、植野琢也先生が紹介され、

それぞれご挨拶いただきました。美味しいお酒と素晴らしい料理で楽しく歓談した後、毎年恒例のビンゴゲーム大会を行いました。皆さん、豪華な賞品を前に大いに盛り上がりました。さらにお酒も進み、年代の垣根を越えた会員相互の交流を楽しみましたが、そろそろ時間となり、校歌斉唱、記念撮影の後、名残惜しくもお開きとなりました。(小林容子 記)



## 横浜西部支部

### 平成27年度春の総会

平成27年4月4日土曜日、横浜駅近くのホテルキャメロットジャパンにて、旭区が当番で春の総会が行われた。参加者は、来賓3名を含め、24名の参加があった。

会は、高階光博君の司会で、辻村育郎君の開会の辞によって開かれた。その後、佐藤信之横浜西部支部支部長、金子 譲東京歯科大学前理事長、鶴岡裕亮神奈川県支部連合同窓会副会長、藍原繁樹神奈川県支部連合同窓会相談役による挨拶がなされた。

次に、辻村育郎君から会員現況報告・会務報告が、水口浩司君から会計報告・監査報告が、杉山紀子連合同窓会会長から本部同窓会と連合同窓会の報告が、相庭常人君から講演会についての報告がなされた。

また、今年ご逝去された島田英明君のご令室様の恭子様と、品川 明君に対し哀悼の意を表明し、全員で黙とうがなされた。

加えて、増田 一君の卒寿、植村隆君の喜寿、竹山敬始君・北村



博文君の古希、杉山紀子君の還暦に対してお祝い金が渡された。病氣療養中の菅原政道君にお見舞金が渡された。

会の最中、駆けつけてくれた島村 大参議院議員から、活動報告がなされ、その後、全員で記念撮影を行った。

佐藤卓朗君の乾杯の発声で会食となった。終始和やかな雰囲気では宴会は進行し、宴もたけなわでは



あったが、藍原繁樹君のリードの下、全員で校歌を斉唱して終了した。  
(渡瀬秀彦 記)



## 浅草支部

浅草支部は中野正博支部長のもと若い役員でイベント盛りだくさんの楽しい支部です。

昨年より浅草支部は下谷支部と合同で学術講演会・保険講習会を合同で開催することになりました。3月に合同役員会を開催し6月には下谷支部主催で東京歯科大学市川総合病院産婦人科教授の高松 潔先生をお迎えし『華麗なる加齢のために』という演題で学術講演会を開催し、9月には浅草支部主催で目黒区歯科医師会会員の松島良次先生をお迎えし保険講習会を開催いたしました。2つの支部が合同で開催することで参加人数も増え、講師の先生方との懇親会も盛り上がります。

毎年恒例の支部親睦会は10月25日(土)にホテルニューオータニの庭園にあるステーキハウス『清泉亭』を貸し切り、多くの先生に出席いただきステーキディナーを堪能しました。



『清泉亭』でのステーキディナー

総会及び懇親会は12月13日(土)、例年と同じ会場である浅草にある川松別館で開催し、多くの先生方が出席しそれぞれの近況を話しました。



『川松別館』総会&懇親会

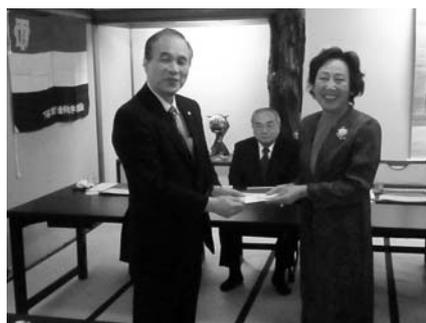
また平成27年1月30日(土)は恒例の新年会を下谷支部と合同で開催し本年度は浅草支部主催で会場は浅草『茶寮一松』でおこないました。井出吉信学長をはじめ同窓会矢崎秀昭会長、東京地域支部連合会浮地文夫会長を来賓としてお迎えしました。また浅草地区から中久喜 喬名誉教授、下谷地区から高橋一祐名誉教授も出席を賜りました。今年は恒例の振袖さんに加え中野正博支部長の小学校同級生で『くれない組』の美女2名による宴会芸も催され楽しい会となりました。なお、昨年末の役員会で決定した案件で浅草支部より大学へ寄付をさせていただきました。

また新入会員として小枝弘実先生(昭和63年卒)が入会し若手が1名増員になりました。

今年もたくさんのイベントを企画しますのでよろしく願いいたします。(田 昌文 記)



新年会で芸人のサプライズに感激の井出学長



井出学長に直接寄付をお渡ししました!



新年会での集合写真

## 世田谷支部



### 世水会創立80周年記念祝賀会

平成27年2月14日(土)午後6時30分より渋谷セルリアンタワー東急ホテルにて、矢崎秀昭同窓会会長、井出吉信学長、浮地文夫東京地域支部連合会会長を来賓としてお迎えして、世水会創立80周年記念祝賀会が開催されました。世水会の創立は昭和9年に母校より血脇守之助校長をお迎えした折に先生自ら当支部を世水会と命名されたそうです。現在、高齢化による会員数の減少は否めないところですが、以来80年多くの先輩諸先生方の活躍が世水会を支えてまいりました。

祝賀会のご来賓の先生方のご祝辞では、世水会には今後も是非同

窓会をリードして欲しいと励ましのエールをいただき、同窓会創立120周年記念事業、TDCアカデミア構想についてもお話がありました。また記念講演として井出学長から大学の現況と展望という演題で移転事業、国家試験、今後の大学の展望などについて、とても興味深いお話を伺うことができました。その後この10年に会長を務められた森谷秀樹先生、濱上弘晴先生の表彰を行いました。それから山根照人先生(S19年9月卒)の乾杯のご発声で祝宴に移り、古屋元之先生(S55年卒)による母校と世水会の歴史を振り返るスライドショー、元宝塚の歌手RiRiKAさんの歌と楽しく和やか



な時間はあっという間に過ぎ、最後は恒例の校歌斉唱で終了となりました。

お忙しい中ご出席いただいたご来賓の方々には厚く御礼申し上げます。(小守伸治 記)



写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。

## 富山県支部



平成27年1月31日(土)、富山市のホテルグランテラス富山にて本年度富山県支部総会・新年会が開催されました。

総会に先立ち、昨年度の逝去会員および会員の家族で逝去された方に黙祷を捧げ、その後山崎安仁支部長が開会の辞と昨年度の同窓会評議委員会の報告を行いました。

引き続き議事に移り、平成26年度事業・収支決算、平成27年度事業計画・収支予算案が原案通りすべて承認され、野田 修副支部長

の閉会の辞をもって総会を終了しました。

その後、出席者の集合写真を撮影し、新年会に移りました。山崎支部長の挨拶、奥川澄夫先生の乾杯のご発声で開宴し、和やかな雰囲気の中、あちらこちらで談笑の輪が広がり、あっという間に時間が過ぎてしまうと感じるほど楽しいひとときとなりました。途中、今回初参加の竹内玄太郎先生(平成20年卒)、早速邦明先生(平成21年卒)の紹介がありました。お二人は支部会員ではないものの、

東京歯科大卒業後に県内で就業されており、この度快く出席していただきました。最後は、稲田次郎副支部長の閉会の挨拶をもってお開きとなりました。

まだまだ明るい話題の少ない歯科界ですが、このような時だからこそ、私たち同窓が今まで以上に親睦を深め、連携することが大切ではないでしょうか。この日は、富山県支部のますますの発展を誓い合った会になったと思います。

(高橋正志 記)



## 滋賀県支部

平成26年度

総会・学術講演会・懇親会

平成27年3月1日(日)にホテルニューオウミにて滋賀県支部総会が開催されました。

尾松素樹専務理事の司会進行のもと、松田康男副支部長による開会の辞、一同校歌斉唱に続き、昨年100歳の大往生を遂げられました立木彌太郎先生および本学の石川達也元学長、柳澤孝彰元教授に対し黙祷が捧げられました。

続く藤居正博支部長の挨拶では、「滋賀県支部はいつからあるの?」という会員からの質問に応えるべく、支部長自らわざわざ大学の図書館に通って歴史資料を繙くうちに、目についた校歌、校旗制定の過程まで範囲を広げての話の内容に、皆が興味津々で聴き入りました。昭和2年5月13日に血脇守之助先生ご臨席のもと、同窓会滋賀縣支部發會式が行われたとのことですので、滋賀県支部は現在、88年の歴史を持つことが判りました。また校歌制定の過程では、当時多忙を極め、依頼を受けたままなかなか完成に及ばない流行作家の北原白秋先生に対して、全教職員、全学生が各自一枚ずつの葉書を送り付けたなどのエピソードも当時の本学関係者のただならぬ熱意が伝わってまいりました。そういう熱誠を察してか山田耕筈先生のほうは依頼者代表団を歓待中に、にわかに思い立ち、一気に譜面を書き上げたというのも実に対照的で面白いですね。同時に進められていた校旗制定では、

宮廷御用をつとめる京都高島屋が天皇旗製作の技術を活かして作り上げたものだけに織物組合でもかなり評判になったとか。校歌、校旗お披露目の記念祝典に招かれた北原、山田両先生にも、その燦たる校旗を詠った校歌に携わることのできたことを一生の光栄とまでいっていただけましたことに、時代を経た今でも嬉しく思いました。そのほかに、医療ジャーナリスト田中幾太郎氏の『残る歯科医消える歯科医』において、この類の書籍にしては珍しく現在の東京歯科大学のことが絶賛されていることも紹介され、遠い過去から今に至るまで本学がいかに同窓にとって誇りあるものか、しかしその優秀さにあぐらをかくことなく各人がいっそう精進をしていくことが肝要であると述べられました。

その後、大学の近況報告、議事に続き、中村 忠副支部長の閉会

の辞にて総会は終了いたしました。

引き続き、本学副学長であり社会歯科学教室教授であります石井拓男先生に「歯科医療白書と歯科健康医療」という演題でご講演をしていただきました。平成に入ってから歯科の患者数、とくに70歳以上の高齢患者数は上昇しており、これは8020運動だけでなく、古くからの医療制度や治療技術の向上が支えとなって、現在の高齢者の残存歯数が増えたことによるなど、定期的に発行される歯科医療白書の読み方を教わりました。

別室へ移っての懇親会。御年92歳とはとても思えない藤居正太郎先生の大発声での乾杯に始まり、和気あいあいのひとときのあと、東京歯科大学予科逍遥歌「夕日は沈み」を皆で斉唱してお開きとなりました。(戸崎秀樹 記)

写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。



## 広島県支部

平成27年4月18日(土)、シェラトンホテル広島にて、約40名の会員が参加し、平成27年度東京歯科大学同窓会広島県支部総会・学術講演会・懇親会が開催されました。



総会は、柏村 真専務理事司会のもと野間 博支部長の挨拶に始まり、議長には谷 信吾東呉会会長が選出されました。議長のもと各理事より会務報告がなされ、予算及び会則の変更等議案は承認されました。

招きし、谷本澄江先生が座長を務められました。柴原教授に、大学の近況と『ハードからソフトへ、粘膜疾患に強くなろう～身に着けて欲しい口腔がんを疑う目～』と題してご講演いただきました。

した。来賓として荒川信介県歯会長、三反田 孝県歯専務理事をお迎えし、平成26年度に旭日双光章を受賞された高橋潤一郎先生、広島県知事表彰を受けられた小早川清先生からご挨拶いただきました。宴会は終始和やかに進み、最後に恒例の校歌を斉唱し散会となりました。(高木尚美 記)

学術講演会では本学より口腔顎顔面外科学講座柴原孝彦教授をお

講演終了後引き続き柴原教授にご参加いただき、懇親会に移りま



# クラス会だより

## クラス会開催日程

12 期 会 (昭和39年卒)

と き 平成27年11月27日 (金) ~29日 (日)

ところ お台場

ホテルグランパシフィック LE DAIBA

## 五十二期会

昭和22年卒

平成19年5月、卒後60周年記念総会を開催して以来8年近く経過しました。その間、米寿を祝う会等度々企画がありましたが実現しませんでした。

今回、山崎幹事長より急遽集まろうとのことで諸所連絡しましたが、皆々何分にも90歳ともなれば体調不具合の方も多く参会者は5名でした。

3月18日、交通至便な東京駅北口より1分の丸の内オアゾビル内中華料理「ジ・オーキッド」に集まりました。新装成った東京駅舎を見下ろす眺望のよい5階で、現況や懐古談の楽しい一刻でした。

田村 陽君は現役で週4日診療している由、感嘆と共に大いに元気を貰いました。聖路加病院の日野原重明先生が103歳で講演に

著述にと多方面で活躍して居られる事を思えば、まだまだ我々も日々有意義に過ごさねばと思いません。

世は5年後の2020年、五輪とパラリンピック開催の日時を目標に関連事業が進められています。もう一度あの感激とドラマを感受し

たいと期待して生き甲斐にしています。この勢いで、又秋口に集まりをとなりました。

写真-左から根本、田村陽、山崎、大多和、酒匂です。

(幹事 根本卓光・酒匂睦夫 記)



## 白 夜 会

平成15年卒

平成27年1月11日(日)に第108期生同期会が開催された。会場は国家試験前日に緊張で眠れない夜を共にした東京ドームホテル、42階のシリウスであった。当時は翌日の結果がそれ以上がない100%

の合格率となることを知らずに不安な夜を過ごしていたことを懐かしんだ。

今回は水道橋病院口腔外科所属の村松恭太郎君が発起人となり、彼の尽力により卒後12年目にして

初の同期会が行われる運びとなった。開場時間にはすでに多くの同級生が集まり、67名の108期生と主任、副主任の先生方と次世代5人と併せて77名が一堂に会し、主任であった内山先生の掛け声で始

まった。12年前、歯科医師として社会に出てから、誰一人として同じ道を辿ることはなかったが、それでも集まれば学生の頃の思い出や、近況の交換、今後の目標や子育てに至るまで、終始会話の途切れない楽しい会合となった。

今回惜しくも参加できなかった同期生からも次回参加の意向があったため、有志を集めて同期会



が活発になるよう同期会幹部の再編が行われた。

次に開催する年の干支が同じ未

でないことを信じて。

(佐藤隆太 記)



## OB会・グループ・サークルだより

### アイスホッケー部 OB会／

### 東京歯科大学アイスホッケー部「創部40周年記念祝賀会」開催される

平成26年1月12日（日）、東京ドームホテルにて東京歯科大学アイスホッケー部創部40周年記念祝賀会が北は札幌から南は愛媛までの総勢42名の列席者により、華やかにとり行われました。

OB会会長山本明彦（S53卒）の挨拶を皮切りに、部長の見明康雄先生（S53卒）からの祝辞を賜り、岡本 広先生（S54卒）の乾杯のご発声により和やかな歓談が始まりました。

続いて準備委員長・溝口英治（H2卒）先生より、3つの嬉しいニュースが発表されました。初代部長の加藤繁次名誉教授が大正15年2月4日のお生まれで、平成26年2月4日で満88才の米寿をお迎えになられること、外木守雄先

生（S58卒）が日本大学歯学部口腔外科学教室教授（現在は日本大学歯学部口腔外科学講座口腔外科学分野教授）に、そして片倉 朗先生（S60卒）が本学オーラルメディシン・口腔外科学講座の教授（現在は本学口腔病態外科学講座教授）に就任されたことです。3人の先生方に記念品と花束が贈呈された後、それぞれにご挨拶を頂戴しました。加藤先生には創部にまつわるエピソードをご披露いただきました。当時、加藤先生の絶大なるご支援で、今のクラブが誕生することができました。今でも部員一同感謝の気持ちで一杯です。そして外木、片倉両先生には今後も素晴らしい手腕を発揮されることとご期待申し上げます。



その後、創生期部員である吉田繁樹先生（S53卒）、蒲 弘城先生（S54卒）、高森幸生先生（S56卒）、林 純滋先生（S57卒）の皆様スピーチでは学生時代の楽しい思い出をまるで昨日のことのように語っていただきました。

また、寺内正典先生（S59卒）の現状報告の次には山本りさきさん、山本裕義君のお二人の現役部員の紹介がなされ、温かい拍手に包まれました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ去り、今後のアイスホッケー部のさらなる発展の機運の高まる中、盛会の内に散会となりました。

追記：平成26年2月6日、埼玉県さいたま市の関口恵一先生（S54卒・享年59才）がご逝去されました。突然の悲報に接し、謹んでお悔やみ申しあげますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

（昭和53年卒 山本明彦 記）



## 東京歯科大学自動車部創部60周年記念祝賀会

東京歯科大学自動車部は、平成26年に創部60周年を迎えました。

その記念祝賀会を、去る平成26年11月23日、午後7時よりお茶の水、「東京ガーデンパレス、2F 高千穂の間」にて行いました。

ご来賓として東京歯科大学学生部副部長の古澤成博教授、東京歯科大学自動車部部長の齋藤 淳教授をお迎えいたしました。

また、自動車部現役部員18名も招待しました。

初めに高品和哉先生（S60年卒）の司会のもと、祝賀会実行委員長の角田正健先生（S46年卒）より自動車部の創設および記念祝賀会開催の経過報告がありました。

次いで自動車部OB会である轍会の5代目会長林 量一先生（S48年卒）より挨拶がなされました。

続いてご来賓の学生副部長古澤教授より、ご自身の自動車との関わりなどを交えて、お祝いのお言葉を頂きました。また現在の自動車部部長齋藤 淳教授にはクラブ活動を通じての先輩後輩の人間関

係の大切さなどのお言葉を頂きました。

初代OB会長の山本啓介先生（S34年卒）の音頭で乾杯、歓談、会食となりました。

宴もたけなわになったところで出席された会員の皆様全員から自動車部の思い出や、熱い思いを語って頂き大いに盛り上がりました。

また現役を代表して主将谷本雄輝君より御礼の挨拶がありました。

最後に自動車部OB会副会長山田英夫先生（S46年卒）の閉会の辞にて盛会のうちにお開きとなりました。

発足の年1954年はトヨタ自動車から初代クラウンが発売された年であり、60周年の2014年は燃料電池車のMIRAIが発表された年です。各部員の自動車との関わり方も社会環境の変化とともに変わっていくと思いますが、輝かしい未来が自動車部にあることを確信できる会でありました。

参加者氏名（順不同、敬称略）

S34年卒：住井泰之、延島三男、山本啓介、S35年卒：櫻井善忠、S39年卒：竹山隆芳、S40年卒：臼井久雄、小林 博、S41年卒：入江靖雄、S42年卒：大岡紀一郎、関谷和夫、S43年卒：須田 昇、浦井照彦、岡本和政、東海林秀樹、S44年卒：千葉正胤、S46年卒：角田正健、山田英夫、S47年卒：福嶋 徹、S48年卒：林 量一、S49年卒：笠原秀明、S56年卒：奥平紳一郎、鈴木 潔、S58年卒：小林友子、S60年卒：高品和哉、H5年卒：根岸史郎、H8年卒：櫻井善明、H21年卒：林 遼、H25年卒：橋村頼人

現役出席者氏名

6年：新野哲也、小野瀬祐記、5年：棚瀬稔貴、深澤俊也、堀真穂、4年：谷本雄輝、3年：在原 瑛、家崎憲博、内田穂乃香、加藤孝実、根本悠平、山川允仁、2年：伊丹尚子、塩谷麻衣、1年：岩上昌人、河野陽介、松下文香、山田智史

（昭和56年卒 鈴木 潔 記）



写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。

## 高山紀斎の出自、英語修得のこと等

水川 秀海（昭和34年卒）

同窓会会報2014年12月号に「高山紀斎の生涯」が掲載されていて「高山家」は家老日置帯刀の家臣として槍術で仕えました。（岡山県支部の「東齒同窓会岡山の歩み」ではこのようですが東京歯科大学創立120周年記念誌では作廻方さくまいとなっていますが本当はどちらかわかりません）と記述されています。本日はこの事に関して120周年記念誌の編纂顧問として少し説明させていただきます。

岡山支部の「槍術で仕えた」という記述は恐らく明治44年発行奥村鶴吉著「高山紀斎先生小伝」から引用したのだらうと思います。一方120周年記念誌の方は明治3年高山紀斎の父が岡山藩に提出した「御奉公之品書上」から引用したものです。

明治3年廃藩置県を前にして岡山池田藩は各藩士に対し「先祖併御奉公之品書上」（家系、職名等）を提出させました。この資料は現在岡山大学図書館に保存されていて当然高山家のもの（高山紀斎の父が記述）もあるわけです。これによりますと紀斎の父の役職名は作廻方（財政全般をつかさどる）となっています。また最後のところで紀斎（幼名は弥太郎）の記述もあります（明治3年11月8日伴弥太郎義英学教授補被仰付

候。同15日伴弥太郎義岡田撰蔵江従遊学被仰付同月17日東京表江出立仕候）。

山陽新聞社発行の「岡山県歴史人物事典」で医学関係を担当されたのは岡山大学名誉教授中山沃先生（岡山の医学、緒方惟準伝等著書多数、日本医史学会の重鎮）で高山紀斎の項では「高山家は代々家老日置家に仕え、紀斎は作廻方高山惣右衛門紀清（のち惣吉紀次と改名）の長男に生れ」と記述しています。中山先生は高山紀斎の出自に関しては「御奉公之品書上」を最も重視したと話されました。120周年記念誌では私達もこの資料を重視したわけです。120周年誌編纂にあたり私達はなるべく一次資料を採用する。一次資料の発掘に努力する。関連のある資料をなるべく多く収集し広い視野で検討する。資料の解釈、開読にあたってはその道の専門家の意見を聞く事等を編集方針にしていました。

岡山大学図書館に保存されている高山家の資料に最初に注目したのは母校昭和20年卒岡山市開業の横山好文先輩です。先生は「御奉公之品書上」のみならず「待帳」「切米帳」等々岡山藩の膨大な資料にも目を通して平成8年日本歯科医史学会総会で高山紀斎の出

自に関して報告予定でしたが発表直前に急逝されました。その後小生が岡山大図書館より高山家の「御奉公之品書上」のコピーを入手、開読したものを貼布して母校図書館に寄贈してあります。開読は岩崎鉄志先生（静岡文化芸術大元教授、日本近世学芸史専門、日本医史学会の重鎮）にお願いしました。

次に高山紀斎の英語習得について少しだけ記述しておきます。

同窓会会報では「当時の慶応義塾の英語の授業はすでに基礎を学んでいた高山にとっては物足りない授業でした」と記述されています。これは母校百年史を引用されたと思います。しかし高山紀斎と共に岡山兵学館で岡田撰蔵から英語の特訓を受けた井上理一郎氏は当時を回想して「岡田氏から受けた授業は実質13日で、教授補という肩書もらったけれどアルファベット程度の知識しかなかった」（岡山市教育史）と述べています。

高山紀斎に関して記述したい事は多くありますがまたの機会にゆずりたい。

紙数の関係で簡単な記述で物足りないと思いますが東京歯科大学創立120周年記念誌を再読していただければ幸いです。

## 歯周病の14HT 法を普及させたい

— 安井哲男先生一周忌を迎えて —

安 藤 三 男 (昭和37年卒)

歯周病の新薬物療法「14HT法」の開発者安井哲男先生の一周年忌を本年4月に迎えた。この療法は私が日常の診療で愛用し、大変効果をあげているので、ここに改めて紹介したいと思う。

先生は本学の薬理学の安井作太郎教授を父に持ち、昭和20年本学を卒業、直ちに理工学教室に入局、同35年に練馬区で開業し、長年にわたって本学の理工懇談会の会長を務めた。生来の研究熱心で学者肌、いろいろな工夫をこらし日常の診療に役立てていた。およそ30年前から歯周病に感染根管治療にヒントを得て、ポケット内の化学的清掃「14HT法」を開発した。

この療法を平成9年に東歯学会に発表、同13年に日本歯科評論に掲載、同18年に歯科学報に発表、同24年に健康月刊専門誌「はつらつ元気」に掲載し好評をばくした。そして14HT法を単行本として自費出版、これをCD化し練馬区歯科医師会員の希望者に無償で配布した。

この14HT法とは酸とアルカリを用いて歯周ポケット内を化学的に清掃し、プラークやバイオフィルムを除去し、出血や排膿の原因となる不良肉芽を溶解し、歯周病を緩解させる療法である。アンチホルミンに苛性ソーダを加えると炎症性組織の溶解力が倍加し、健



康組織には作用しないことを発見した。そして新生上皮を溶かし結合組織性再付着を促す。まさにケミカルサージェリーといえよう。不良肉芽を選択的に溶かすことから、各種の観血手術において不良肉芽を除去するのに搔爬の必要がなく術後の疼痛が少なく、止血効果は抜群で応用範囲も広い。

「14HT法」の名称の由来は、歯科用アンチホルミン100gに苛性ソーダ1gを溶かしたものが「1液」、同じく苛性ソーダ4gが「4液」、局方希塩酸を5倍に薄めたものが「H液」、試験用タンニン酸の飽和溶液を「T液」と名づけた。これらの薬剤は一般薬局で入手し容易に調整できる。

使用法は極めて簡単、先ず1液でプラークを除去し、塗布麻酔の後、極小綿球に4液を浸しポケット内の根面を清拭し、水洗してH液でも同じ操作を数回繰り返

返し、不良肉芽を溶解させ、これを数回繰り返す、T液で創面の保護を図る。以上の操作を週1回で4回を目途に1クールとし、歯周病を完治させる。詳しくは名著「14HT」をお読みください。

私はこの14HTを長年にわたって使用し、歯頸部より無排膿、無出血、虫歯がなくて良く噛めて、全身的に健康で長生きしている患者さんを多く抱えている。歯科がアンチエイジングに貢献していると確信している。先生は93歳で亡くなる前日まで車椅子を押しながら製薬会社を作って14HTを全国に普及したいと、はりきっていたとのこと、是非この夢を実現させたい。

ご遺族のご好意により、14HTの小冊子を限定30名様に進呈します。ご希望の方はその旨を書き添えて、申し込みください。

FAX 03-3925-5558

# 庶務日誌

3月

1) 理事会

3月18日(水) 第2回常任理事会

2) 委員会

3月3日(火) 事業推進部卒後研修委員会(ベリックセミナー打合せ)

4日(水) 事業推進部社会保障制度研究委員会(社会保障制度研究会)

6日(金) 渉外部渉外委員会

6日(金) 広報部広報委員会(小委員会)

7日(土) 選挙管理委員会

7日(土) 事業推進部若手ネットワーク委員会

9日(月) 会務運営協議会

10日(火) 事業推進部臨床セミナー委員会(2016年プログラム委員会)

13日(金) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会委員長・副委員長打合せ会

16日(月) 広報部広報委員会

17日(火) 総務・厚生部総務厚生委員会

17日(火) 事業推進部アカデミア情報オンデマンド配信検討会

18日(水) 事業推進部医療教養委員会

23日(月) 事業推進部臨床セミナー委員会(補綴セミナー打合せ)

24日(火) 事業推進部臨床セミナー委員会(エンドセミナー打合せ)

25日(水) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会記念誌打合せ

27日(金) 総務・厚生部新進会員のつどい実行委員会

30日(月) 事業推進部社会保障制度研究委員会

31日(火) 事業推進部卒後研修委員会(ベリックセミナー打合せ)

3) 出張

3月1日(日) 滋賀県支部総会  
 学術講演会 講師・石井拓男教授(母校)

5日(木) 六歯科大学歯学部校友会同窓会懇談会

6日(金) 東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業証書授与式 矢崎会長出席

7日(土) 青森県支部総会 寺田常任理事出席  
 学術講演会 講師・山本 仁教授(母校)

14日(土) 群馬県支部総会 財部副会長出席

15日(日) 第120回東京歯科大学卒業証書・学位記授与式 矢崎会長出席

28日(土) 日本大学歯学部同窓会第2回桜会  
 高野常任理事出席

28日(土) 北海道地域支部連合会臨時総会・支部長会

佐々木常任理事, 佐藤理事出席  
 学術講演会 講師・白須賀貴樹先生(衆議院議員)

4) 事業

3月11日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修  
 TDC 研修倶楽部

12日(木) 東歯関係日歯役員・代議員と同窓会役員との懇談会懇親会

13日(金) 新入会員オリエンテーション

18日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修  
 DSM

19日(木) 市川総合病院臨床研修歯科医修了者へのオリエンテーション

20日(金) 水道橋病院臨床研修歯科医修了者へのオリエンテーション

23日(月) 千葉病院臨床研修歯科医修了者へのオリエンテーション

26日(木) TDC アカデミア2015 卒後研修  
 歯科臨床を語る会

4月

1) 理事会

4月18日(土)・19日(日) 第2回理事会(移動)

2) 委員会

- 4月1日(水) 渉外部渉外委員会  
 6日(月) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会委員長・副委員長打合せ会  
 10日(金) 広報部広報委員会  
 13日(月) 会務運営協議会  
 14日(火) 二校会委員会  
 14日(火) 事業推進部臨床セミナー委員会(研究委員会B)  
 15日(水) 事業推進部臨床セミナー委員会(ペリオセミナー打合せ)  
 17日(金) 事業推進部臨床セミナー委員会(2016年プログラム委員会)  
 20日(月) 事業推進部臨床セミナー委員会(エンドセミナー打合せ)  
 21日(火) 事業推進部臨床セミナー委員会(研究委員会B)  
 22日(水) 事業推進部卒後研修委員会(ベーシックセミナーチューターミーティング)  
 23日(木) 事業推進部社会保障制度研究委員会  
 27日(月) 事業推進部臨床セミナー委員会(補綴セミナー打合せ)

3) 出張

- 4月2日(木) 大学院歯学研究科入学式  
 矢崎会長出席  
 3日(金) 東京歯科大学歯科衛生士専門学校入学式  
 矢崎会長出席  
 4日(土) 山形県支部総会 臼井常任理事出席  
 学術講演会 講師・宝田恭子先生(東京都開業)  
 5日(日) 東京歯科大学入学式 矢崎会長出席  
 9日(木) 東京地域支部連合会支部長会  
 矢崎会長, 早速理事出席  
 11日(土) 広島県支部総会  
 学術講演会 講師・柴原孝彦教授(母校)  
 15日(水) 第108回歯科医師国会試験反省会並びに第6学年修学指導担当者慰労会  
 矢崎会長, 宮地・浮地・玉井・藤原・財部各副会長, 高橋専務理事出席

- 25日(土) 宮城県支部総会 矢崎会長出席  
 学術講演会 講師・新谷誠康教授(母校)

- 26日(日) 東京都女性歯科医師の会記念総会・講演会・祝賀会 矢崎会長出席

4) 事業

- 4月2日(木) 大学院歯学研究科入学者へのオリエンテーション  
 2日(木) TDC アカデミア2015 医療教養口腔保健オープン・フォーラム第1回  
 8日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修TDC 研修倶楽部  
 15日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修DSM  
 20日(月) 同窓会創立120周年記念事業座談会  
 23日(木) TDC アカデミア2015 卒後研修歯科臨床を語る会  
 25日(土)・26日(日) TDC アカデミア2015 臨床セミナー エンドセミナー

5月

1) 理事会

- 5月20日(水) 第3回常任理事会

2) 委員会

- 5月7日(木) 総務・厚生部ゴルフ大会委員会  
 11日(月) 会務運営協議会  
 11日(月) 事業推進部医療教養委員会  
 12日(火) 事業推進部卒後研修委員会(ベーシックセミナー打合せ)  
 14日(木) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会式典・講演会小委員会(講演会打合せ)  
 15日(金) 広報部広報委員会  
 15日(金) 事業推進部アカデミア情報オンデマンド配信検討会  
 15日(金) 渉外部渉外委員会  
 19日(火) 同窓会創立120周年記念事業実行委員会  
 22日(金) 事業推進部臨床セミナー委員会(補綴セミナー打合せ)

26日(火) 事業推進部臨床セミナー委員会  
(2016年プログラム委員会)

28日(木) 事業推進部社会保障制度研究委員会

29日(金) 事業推進部若手ネットワーク委員会

29日(金) 総務・厚生部総務厚生委員会

### 3) 出張

5月16日(土) 四国地域支部連合会総会

矢崎会長, 臼井常任理事出席  
学術講演会 講師・白須賀貴樹先生  
(衆議院議員), 島村 大先生(参  
議院議員)

24日(日) 東北大学歯学部創立五十周年同窓会  
発足四十周年記念式典・祝賀会

矢崎会長出席

27日(水) 東京地域支部連合会中央ブロック役  
員協議会 臼井常任理事出席

29日(金) 渋谷支部総会 浮地副会長出席  
学術講演会 講師・矢島安朝教授  
(母校)

30日(土) 福岡県支部総会 宮地副会長出席  
学術講演会 講師・宮地建夫先生  
(東京都開業)

30日(土)・31日(日) 全国歯科大学同窓会・  
校友会学術担当者連絡会

加藤委員長, 山本委員出席

### 4) 事業

5月13日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修  
TDC 研修倶楽部

17日(日) TDC アカデミア2015 卒後研修  
ベーシックセミナー

20日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修  
DSM

21日(木) TDC アカデミア2015 医療教養  
口腔保健オープン・フォーラム  
第2回

28日(木) TDC アカデミア2015 卒後研修  
歯科臨床を語る会

31日(日) TDC アカデミア2015  
臨床セミナー スタッフセミナー

### 5) 監査会

5月26日(火) 監査会

6月

#### 1) 理事会

6月13日(土) 第3回理事

#### 2) 委員会

6月1日(月) 同窓会創立120周年記念事業実行委  
員会記念誌打合せ

2日(火) 事業推進部臨床セミナー委員会(矯  
正セミナー打合せ)

8日(月) 事業推進部卒後研修委員会

9日(火) 広報部広報委員会(小委員会)

10日(水) 会務運営協議会

11日(木) 渉外部渉外委員会

12日(金) 広報部広報委員会

17日(水) 同窓会創立120周年記念事業実行委  
員会祝賀会小委員会

22日(月) 事業推進部医療教養委員会

23日(火) 事業推進部アカデミア生涯研修企画  
会議

26日(金) 事業推進部臨床セミナー委員会(補  
綴セミナー打合せ)

26日(金) 同窓会創立120周年記念事業実行委  
員会委員長・副委員長打合せ会

29日(月) 総務・厚生部総務厚生委員会

29日(月) 事業推進部臨床セミナー委員会  
(2016年プログラム委員会)

### 3) 出張

6月20日(土) 九州地域支部連合会支部長会  
浮地副会長, 田部理事出席

27日(土) 近畿地域支部連合会支部長会  
高橋専務理事, 戸村理事出席

27日(土) 東北地域支部連合会総会・支部長会  
矢崎会長, 臼井常任理事, 椎木理事  
出席

学術講演会 講師・古澤成博教授  
(母校)

4) 事業

10日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修  
TDC 研修倶楽部  
14日(日) 同窓会創立120周年記念事業報告墓  
参  
17日(水) TDC アカデミア2015 卒後研修  
DSM

18日(木) 東歯関係日歯役員・代議員と同窓会  
役員との懇談会懇親会  
25日(木) TDC アカデミア2015 卒後研修  
歯科臨床を語る会  
30日(火) 同窓会創立120周年記念事業実行委  
員会記念誌打合せ

逝去会員

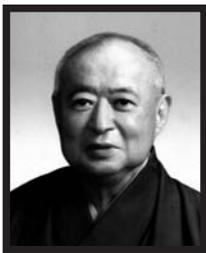
下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福を  
お祈り申し上げます。 (敬称略・届出順)

●昭 16. 12 卒	岡野秀俊 (95歳)	東京都豊島区	27. 2. 13
●昭 30 卒	永野敏郎 (84歳)	新潟県糸魚川市	27. 2. 17
●昭 25 卒	川島康 (86歳)	千葉県千葉市	27. 2. 22
●昭 20. 9 卒	川本知雄 (90歳)	大阪府東大阪市	27. 2. 14
●昭 18. 9 卒	藤原三郎 (94歳)	宮城県加美郡	27. 2. 4
●昭 32 卒	品川明 (84歳)	神奈川県横浜市	27. 2. 19
●昭 38 卒	山下雄司 (77歳)	群馬県渋川市	27. 3. 9
●昭 25 卒	米津宗治 (85歳)	神奈川県横浜市	26. 10. 16
●昭 48 卒	井口俊介 (67歳)	京都府京都市	27. 3. 5
●昭 24 卒	土屋豪 (87歳)	東京都板橋区	27. 3. 27
●昭 22 卒	塚原和男 (89歳)	茨城県結城市	27. 3. 27
●昭 52 卒	清見能久 (63歳)	群馬県前橋市	27. 3. 31
●平 5 卒	大津太郎 (50歳)	静岡県沼津市	27. 3. 30
●昭 30 卒	恩田千爾 (84歳)	神奈川県横浜市	27. 3. 9
●推薦会員	加藤元一郎 (60歳)	東京都杉並区	27. 3. 3
●平 5 卒	小竹正人 (53歳)	埼玉県熊谷市	26. 11. 20
●昭 24 卒	村田愛 (88歳)	東京都大田区	27. 3. 31
●昭 28 卒	島野達也 (87歳)	滋賀県彦根市	27. 4. 10
●昭 60 卒	佐藤公子 (60歳)	山形県西村山郡	27. 4. 14
●昭 17. 9 卒	後藤恵一 (95歳)	岐阜県揖斐郡	27. 4. 18
●昭 40 卒	南忠興 (75歳)	世田谷区代沢	27. 4. 22
●昭 39 卒	増田紀男 (75歳)	埼玉県羽生市	27. 4. 21
●平 20 卒	中井真里 (31歳)	東京都新宿区	27. 4. 29
●昭 38 卒	久保田晃 (76歳)	愛媛県宇和島市	27. 5. 5
●昭 47 卒	西村比志 (67歳)	三重県熊野市	27. 5. 3
●昭 23 卒	山本清 (90歳)	千葉県野田市	27. 4. 13
●昭 24 卒	小野田広亮 (87歳)	愛知県西尾市	27. 4. 28

●推薦会員	栗山美子 (90歳)	東京都世田谷区	25. 1. 30
●昭 32 卒	藤原雅和 (82歳)	静岡県御前崎市	27. 5. 15
●昭 22 卒	眞下俊一 (89歳)	群馬県安中市	27. 5. 17
●昭 30 卒	中川正二 (85歳)	山口県下関市	27. 5. 18
●昭 23 卒	鵜飼兵衛 (88歳)	岐阜県土岐市	27. 5. 18
●昭 34 卒	田辺久人 (80歳)	埼玉県戸田市	27. 5. 31
●昭 45 卒	足立勝南 (70歳)	静岡県浜松市	27. 5. 23
●昭 16 卒	長瀬幸治 (95歳)	長野県飯田市	27. 6. 8
●昭 34 卒	丸山嘉彦 (80歳)	静岡県静岡市	27. 6. 6
●昭 20.9 卒	木下裕之 (91歳)	群馬県前橋市	27. 6. 9
●昭 34 卒	寺川國秀 (80歳)	東京都新宿区	26. 11. 15

## 佐藤忠雄君逝く

嶺驥会(昭和30年卒)



予科のときAクラスの連中で「らくがき会」が出来た。メンバーをみると多種多様な人物が

多い。なかでも“花”のある人は、佐藤忠雄君だ。若い頃から良く学び良く遊びを実践したらしく、学生時代は野球、ダンス、旅行、ナンパ?。水道橋校舎の屋上に集合して佐藤、鶴岡両君からダンスの特別授業もあった。格好よく踊る姿を我々は驚嘆な眼差しで眺めていたものだ。又彼は歌も上手かった。

昭和55年頃は、カラオケはなく、クラブやバーでピアノ弾きの伴奏で歌ったものでした。佐藤君とは銀座のクラブへよく行き、彼は「思い出のサンフランシスコ」私は「セシボン」英語の山本又男先生と一緒にクラブへ行ったとき、又先生が酒のつまみに「沢庵」がほしいと言いママを困らせた思い出があります。

佐藤君は開業医として患者様からやさしい先生と愛され多勢の人を診て、又歯科医師会では重要な役は全てやり、最後は地区の会長までやり、国保の審査委員も又都歯の代議員もやっていた。母校の同窓会では、父兄会の役員、又永年卒後研修会委員もされました。

愛妻の悦子さん、長女の藤関雅子さん、次女の鈴木裕子さん、長男の慶一さんは、青物横丁で「さとうクリニック」の院長をされて

いる。又数多い可愛いお孫さんに囲まれて私達からみてすごく幸せな生涯だったと思います。

「らくがき」のメンバーも多勢そちらへ行っていますがまとめ役は君しか出来ません。我々が行くまで良い集合場所を探しておいて下さい。

佐藤君、永い間ご苦労様でした。ゆっくりお休み下さい。合掌  
(昭和30年卒・石井俊男 記)



故人を偲ぶ水仙

Shirofumi Ajino

## ◆投稿規定

※平成26年度より、偶数月発行から年間4回（2，6，10，12月）の発行になりました。

- (1) 原稿締め切り  
原稿の締め切りは、発行前月の10日までとし、原則として締め切り翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投稿様式  
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮下さい。ワープロ等電子機器使用の場合は1行15字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ（2Lなど）で集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (4) 写真等の返却  
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真の場合は、その旨書き添えて下されば返却いたします。写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

### (5) 投稿字数

投稿欄	内容	文字数, 備考
追悼	故人の追悼文	600字程度でお願いしています。
すいどうばし いなげ	随想, 詩, 短歌, 時評など	1編1,700字程度（1ページ）。投稿者本人にしか解らない思い入れや、取り止めのない随筆はご遠慮いただき、出来るだけ大学や同窓会に縁（ゆかり）あるものが望ましい。
支部のうごき クラス会だより		1ページ1,700字程度（1ページ以内でお願いします） 写真が入る場合下記を参考に文字数を減らしてください。 全員の集合写真は720字に相当、会場風景や大勢のスナップ写真は360字相当、数人のスナップ写真は120字相当で掲載します。 尚、同窓会ホームページよりひな型をダウンロードできますのでご利用下さい。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ

<http://tdc-alumni.jp/organization/dousoukai/kouhoubu/> をご覧下さい。

## 投稿送付書

郵送で投稿の方は下記送付書に内容を記載し、同封をお願いします。

お名前（漢字）		フリガナ	所属支部	支部
卒業年数（どれか1つ）	（昭和・平成・西暦） _____ 年卒 / _____ 期卒			
住所（自宅・勤務先）	〒 _____			
電話番号（自宅・連絡先）	-	-	FAX 番号	-
投稿先 <input type="checkbox"/> に <input checked="" type="checkbox"/> 印チェック	同窓会会報	<input type="checkbox"/> カラーグラビア	<input type="checkbox"/> 追悼	<input type="checkbox"/> 支部のうごき
		<input type="checkbox"/> ふるさと自慢	<input type="checkbox"/> すいどうばし	<input type="checkbox"/> いなげ
		<input type="checkbox"/> クラス会だより	<input type="checkbox"/> OB, グループ・サークル	
貼付写真枚数	枚			
その他ご希望	（例 写真の順番・重要度など）			

◆へんしゅうこうき ★平成27年3月15日に東京歯科大学卒業式が、4月5日に入学式が行われました。  
卒業生には歯科医業の大変さを学びつつ喜びを感じとってほしく、新入生には青春を謳歌しつつ勉学に励む有意義な6年間を送ってほしいと思います。

★そして3月18日に、第108回歯科医師国家試験の合格者が発表され、本学は29校の中で4年連続の首位でした。優秀な上に努力を重ね、全員で合格しようという仲間意識を持って挑んだ卒業生並びに、教育指導怠りなく、自分の国試の時よりドキドキした先生方、ご苦労様でした。同窓として誇りに思います。

★今回は東京歯科大学の歴史をひもとく読み応えのある会報です。写真の頁、血脇先生の書の頁、野口先生の頁……如何でしたでしょうか？

★地区同窓会、地区歯科医師会への未加入対策は、どの大学でもどの地区でも悩みの種だと思います。人付き合いや歯科医師会の仕事が面倒だと思われるのも一因でしょうか？個人的には親戚より親しくなった先輩後輩同級生との付き合いは、何ものにも代え難いのですがどうすれば理解してもらえるか……。

★そんな仲の良かった地区の他大学の若い先生が今年に入り二人急逝され、また親友である同級生も病に倒れ亡くなりました。落ち込んでいる葬儀の帰り、遠い駅まで時間をかけて桜の名所を案内しながら改札口まで送ってくれた同窓の同級の暖かさを心から感じました。

この後書きを読んでもくださっている皆様が健康でありますように……。

(奥野圭子 記)

広報部広報委員会

委員長 白田 準  
副委員長 福井 雅之  
山口 雅史  
委員 古澤 成博  
奥野 圭子  
佐々木 葉子  
皆川 雅彦  
渡邊 宇一  
島田 篤  
西村 哲雄  
横田 東生

広報部担当理事 小池 修

平成27年6月20日 印刷

平成27年6月25日 発行

東京歯科大学同窓会会報 第400号

同窓会ホームページアドレス

<http://www.tdc-alumni.jp>

発行人 小 池 修

編集人 白 田 準

東京歯科大学同窓会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

電話 (03) 5275-1761

FAX (03) 3264-4859

印刷所 一世印刷株式会社

〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

電話 (03) 3952-5651 (代)